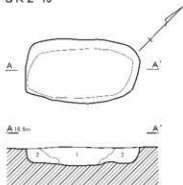


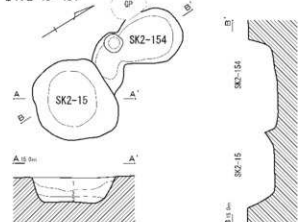
第152図 土壌(1)

SK 2-13



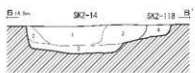
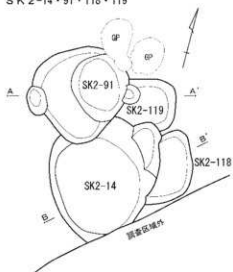
SK 2-13
1 赤褐色土 ローム粘土多量、ロームブロック少量
2 褐色土 ロームブロック多量

SK 2-15・154



SK 2-15
1 赤褐色土 ローム粘土・粘土ブロック少量、粘土粘土多量
2 赤褐色土 ロームブロック少量、褐色粘土多量
3 灰白色土 粘土層、上面に粘土粘結した多量

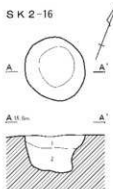
SK 2-14・91・118・119



SK 2-14
1 赤褐色土 ローム粘土・粘土ブロック多量
2 灰白色土 ロームブロック多量
3 褐色土 ロームブロック多量

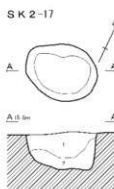
SK 2-118
4 粘褐色土 ロームブロック少量

SK 2-16



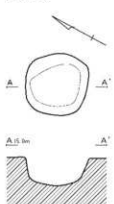
SK 2-16
1 灰褐色土 ローム粘土・粘土ブロック少量、粘土粘土多量
2 赤褐色土 ロームブロック少量、高化物粘土多量

SK 2-17

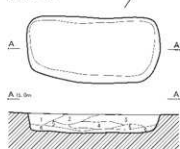


SK 2-17
1 粘土 ローム粘土・赤褐色土ブロック少量、粘土粘土多量
2 赤褐色土 ロームブロック少量、褐色粘土多量

SK 2-41



SK 2-70

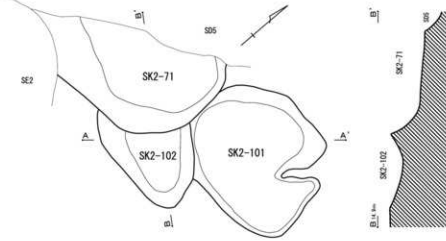


SK 2-70
1 褐色土 ロームブロック多量
2 粘褐色土 ローム粘土多量
3 粘褐色土 ローム粘土少量
4 粘褐色土 ローム粘土多量
5 粘褐色土 ローム粘土多量
6 黒土上 ローム粘土少量

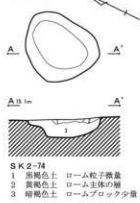
0 2m

第153図 土壌(2)

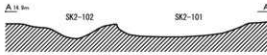
SK 2-71・101・102



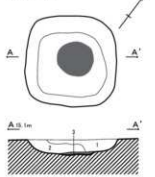
SK 2-74



- SK 2-74
 1 黄褐色土 ローム粒子微量
 2 黄褐色土 ローム主体の層
 3 暗褐色土 ロームブロック少量

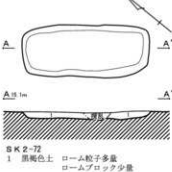


SK 2-75



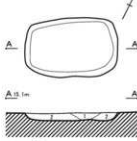
- SK 2-75
 1 暗褐色土 ロームブロックやや多量
 粘土ブロック少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量
 3 赤褐色土 黄土層

SK 2-72



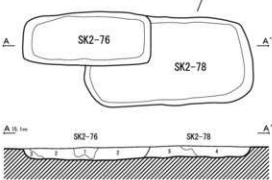
- SK 2-72
 1 黄褐色土 ローム粒子多量
 ロームブロック少量

SK 2-73



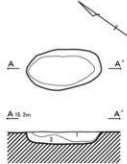
- SK 2-73
 1 暗褐色土 ローム粒子多量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量

SK 2-76・78



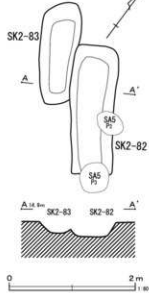
- SK 2-76
 1 暗褐色土 粘土ブロック多量
 2 黄褐色土 ロームブロック多量
 3 暗褐色土 ロームブロック多量
- SK 2-78
 4 黄褐色土 ロームブロック多量
 5 暗褐色土 ロームブロック多量

SK 2-77

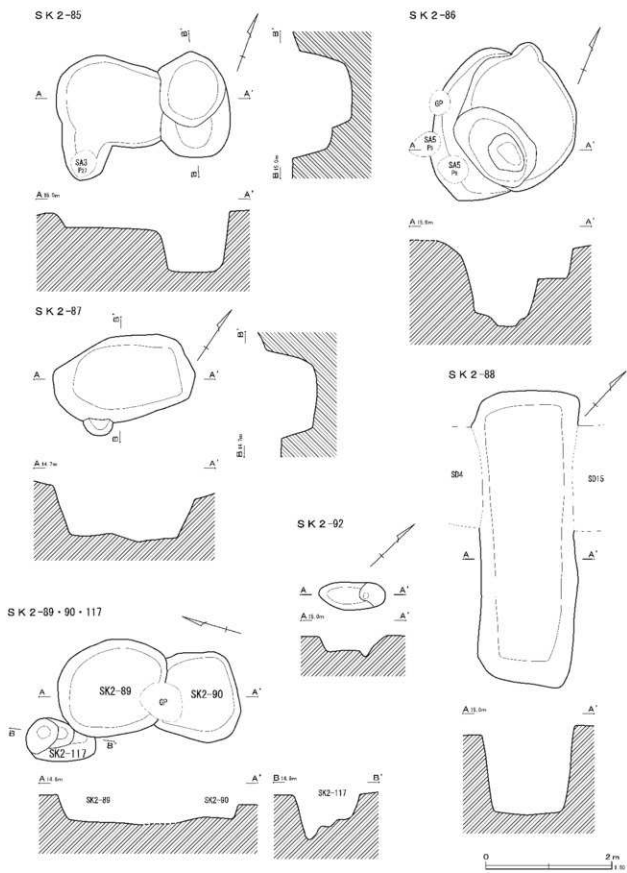


- SK 2-77
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量

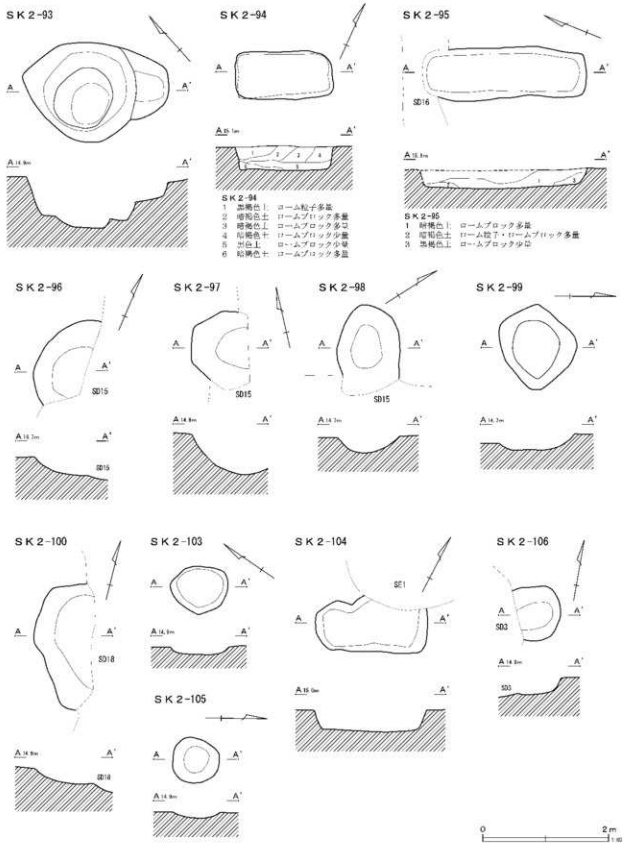
SK 2-82・83



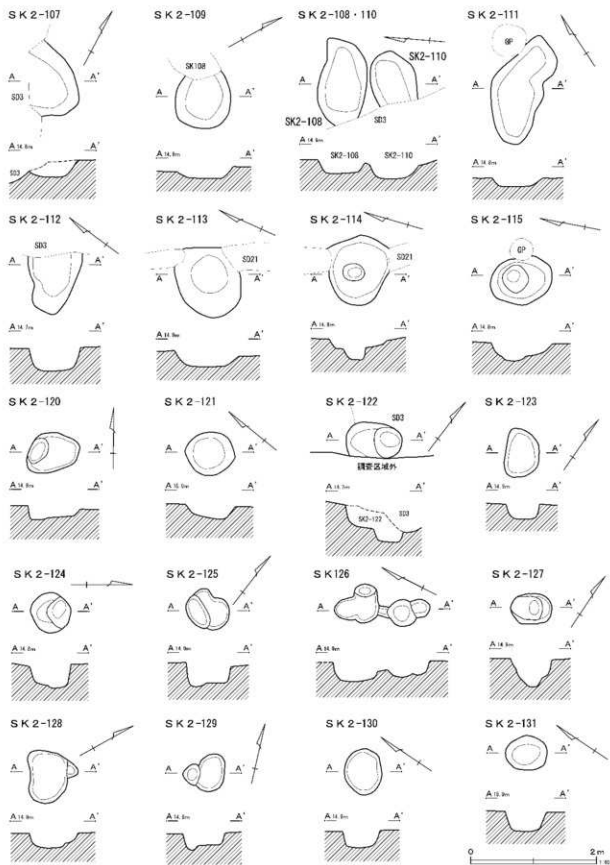
第154図 土壌 (3)



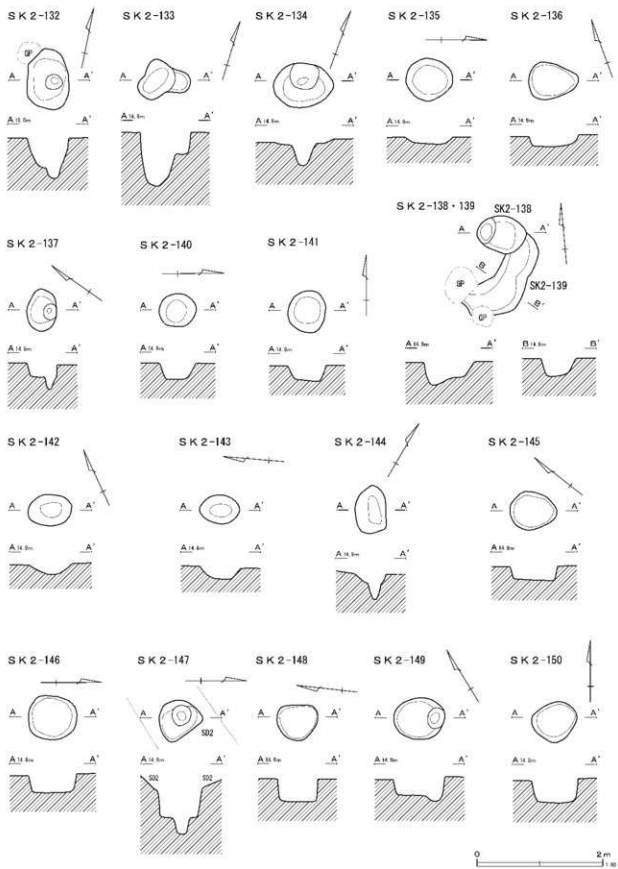
第155圖 土壇(4)



第156図 土壌 (5)



第157圖 土坑 (6)



第158图 土壤 (7)

第2-145号土壇 (第158図)

N6・D6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.75m、深さは0.22mである。

遺物は出土しなかった。

第2-146号土壇 (第158図)

N6・E6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.75m、深さは0.30mである。

遺物は出土しなかった。

第2-147号土壇 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、中央部が深くになっている。径は0.66m、深さは0.72mである。

遺物は出土しなかった。

第2-148号土壇 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.64m、深さは0.36mである。

遺物は出土しなかった。

第2-149号土壇 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、北東側が一部深くになっている。径は0.80m、深さは0.4mである。

遺物は出土しなかった。

第2-150号土壇 (第158図)

N6・F7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.72m、深さは0.38mである。

遺物は出土しなかった。

第2-151号土壇 (第159図)

N6・F6、F7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.65m、深さは0.16mである。

遺物は出土しなかった。

第2-152号土壇 (第159図)

N6・G6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、南側が一部深くになっている。径は0.72m、深さは0.38mである。

遺物は出土しなかった。

第2-153号土壇 (第159図)

M6・G2グリッドに位置する。平面形は円形

を呈する。径は0.59m、深さは0.21mである。

遺物は出土しなかった。

第2-155号土壇 (第159図)

N6・B6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.05m、短径は0.75m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-156号土壇 (第159図)

N6・B6グリッドに位置する。南側はSA2-1(柵列)のピットと切りあっている。平面形は楕円形を呈すると思われる。長径は現況で0.70m、短径は0.55m、深さは0.10mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-19号土壇 (第160・161図、第165図6)

N6・C7グリッドに位置する。第2-19~27、29~40、42~53、53、55~69、80~81、157号の52基が密集している。

平面形は長方形を呈する。長軸は3.40m、短軸は0.64m、深さは0.25mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物は6の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

第2-20号土壇 (第160・161図、第165図7)

N6・C7グリッドに位置する。東側の一部が第2-21号土壇と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.00m、短軸0.88m、深さは0.21mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は7の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

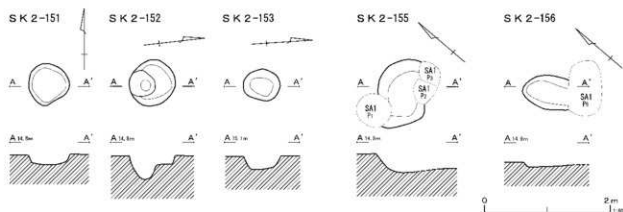
第2-21号土壇 (第160・161図)

N6・B7、C7グリッドに位置する。東側が第2-23号土壇に切りられているため、長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.60m、深さは0.18mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-22号土壇 (第160図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。北側は



第159図 土壇(8)

第2-26号土壇により切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は2.17m、短軸は現況で0.60m、深さは0.24mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-23号土壇(第160・161図)

N6・B7グリッドに位置する。東側を第2-22、26号土壇に切られているため、長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.70m、深さは0.10mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-24号土壇(第160・161図、第165図8)

N6・B7グリッドに位置する。東側を第2-23、27号土壇と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.18m、短軸は現況で0.55m、深さは0.32mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は8の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

第2-25号土壇(第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-36号土壇に切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は1.30m、深さは0.25mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-26号土壇(第160・161図、第165図9)

N6・B7、B8グリッドに位置する。周辺に第2-22、23、27、42号土壇と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.21m、短軸は0.81m、

深さは0.29mである。長軸方位はN-61°-Eを指す。

遺物は9の香炉が出土した。

第2-27号土壇(第160・161図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。南側を第2-26号土壇と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.05m、短軸は現況で0.49m、深さは0.21mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-29号土壇(第160・161図)

N6・C7グリッドに位置する。南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は1.78m、短軸は現況で0.40m、深さは0.15mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

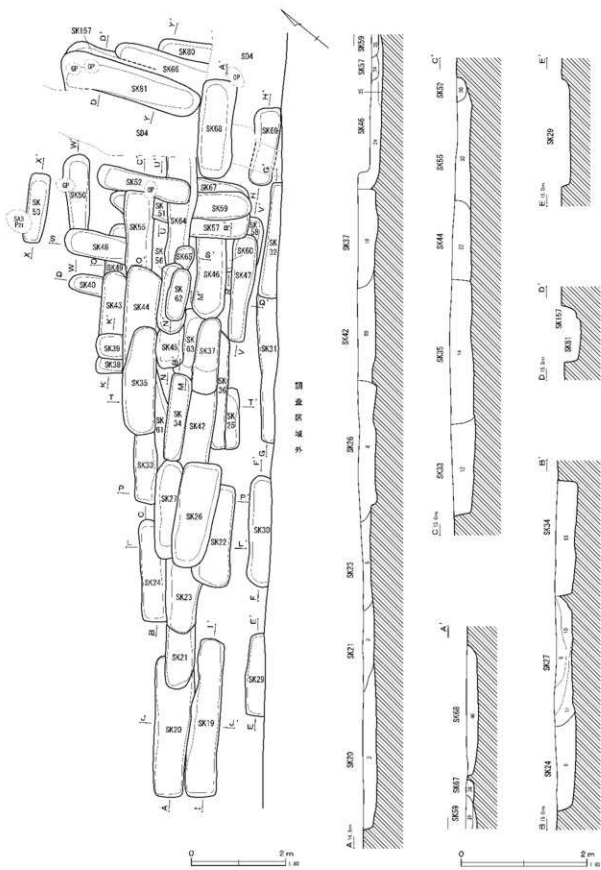
第2-30号土壇(第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は2.30m、短軸は現況で0.46m、深さは0.18mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

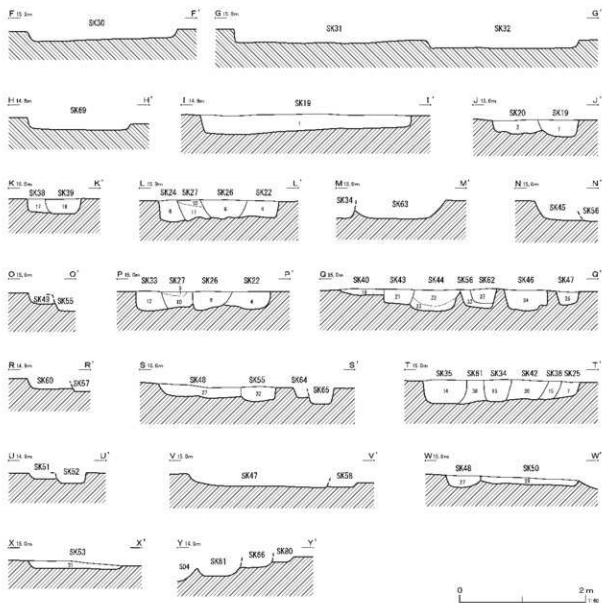
遺物は出土しなかった。

第2-31号土壇(第160・161図、第165図10)

N6・B8グリッドに位置する。東側を第2-32号土壇と重複し、南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で3.06m、短軸は現況で0.41m、深さは0.23mである。長軸方位は



第160圖 土壤 (9)

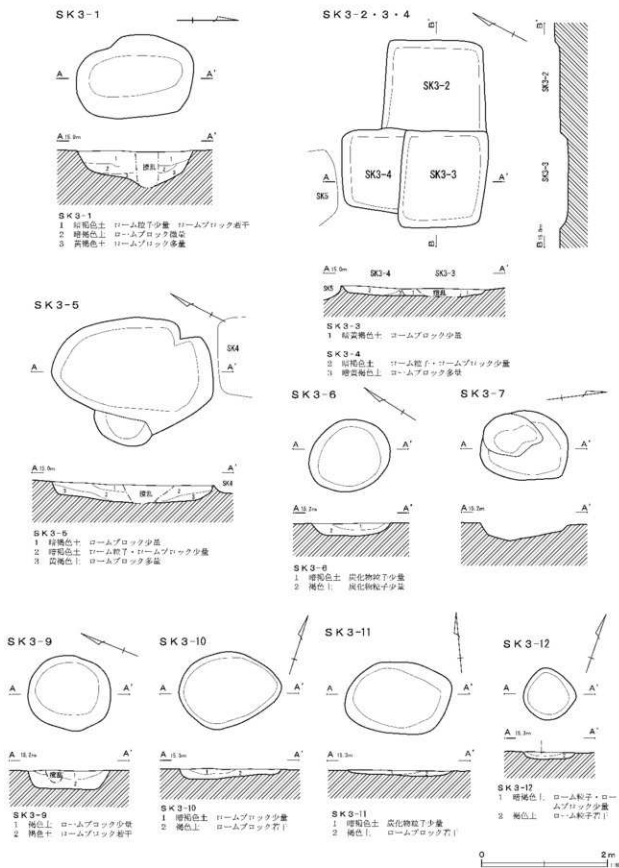


SK 2-19-27・33-40・42-44・46-50・52・53・55-57・59・61・62・66-68

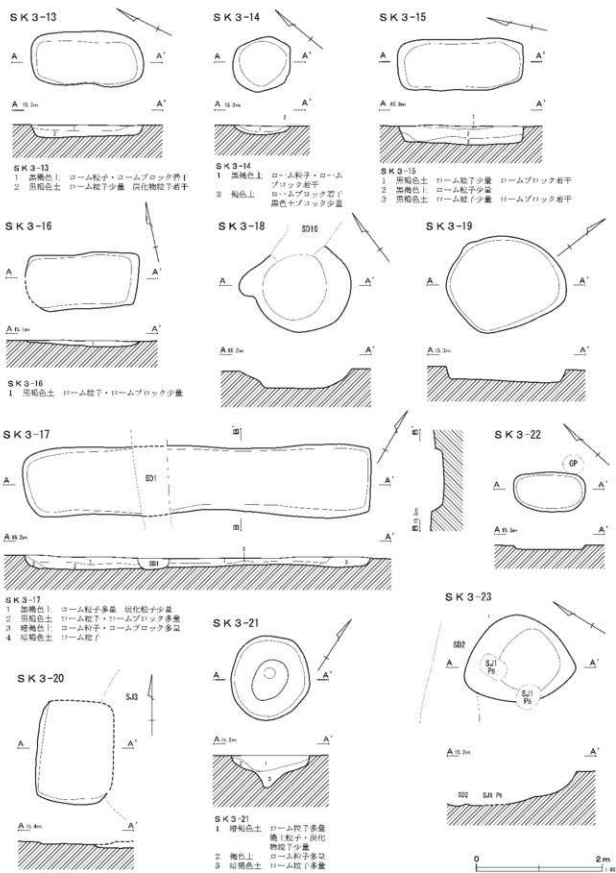
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量
- 2 暗褐色土 ローム粒子散在 粘土粒子多量
- 3 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒子多量
- 4 暗褐色土 粘土粒子・多量 ローム粒子やや多量
- 5 暗褐色土 粘土粒子・多量 ローム粒子やや多量
- 6 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子散在
- 7 暗褐色土 ローム粒下少量
- 8 暗褐色土 ローム粒子・粘土多量
- 9 暗褐色土 ロームブロック多量
- 10 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量 粘土粒子多量
- 11 暗褐色土 ロームブロック多量
- 12 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 13 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子少量
- 14 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子少量
- 15 暗褐色土 ローム粒下少量
- 16 暗褐色土 ローム粒下少量
- 17 暗褐色土 ローム粒下少量
- 18 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 19 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 20 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子少量

- 21 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
- 22 暗褐色土 ローム粒下少量
- 23 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒子多量
- 24 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子多量
- 25 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子散在
- 26 暗褐色土 ロームブロック多量 粘土粒子散在
- 27 暗褐色土 ローム粒下少量
- 28 暗褐色土 ローム粒子多量
- 29 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量 炭化物粒少量
- 30 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒子少量
- 31 暗褐色土 ローム粒下少量
- 32 暗褐色土 ローム粒子多量
- 33 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土粒子少量
- 34 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土粒子少量
- 35 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 36 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 37 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 38 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 39 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量
- 40 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量

第161図 土壌 (10)



第162図 土坑 (11)



第163図 土壌 (12)

N-51°-Eを指す。

遺物は10の瀬戸・美濃系の小碗が出土した。
他に焙烙の破片が出土している。

第2-32号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-31号土壌と重複し、南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は2.45m、短軸は現況で0.27m、深さは0.30mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-33号土壌 (第160・161図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。東側を第2-35号土壌、南側を第2-27、61号土壌と重複するため規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.48m、深さは0.34mである。遺物は出土しなかった。

第2-34号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-61、42、63号土壌に接している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.86m、短軸は0.42m、深さは0.32mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-35号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺は第2-33、44、61号土壌と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.30m、短軸は0.69m、深さは0.36mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-36号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北側は第2-37、42号土壌と切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は2.50m、深さは0.22mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-37号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-36、42、63号土壌と接している。平面形は長方形を呈

する。長軸は1.60m、短軸は0.50m、深さは0.30mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-38号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-39号土壌、南東側を第2-35号土壌に切られているため、規模は不明である。平面形は楕円形を呈すると思われる。深さは0.23mである。

遺物は出土しなかった。

第2-39号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南東側は第2-44号土壌に切られている。平面形は楕円形を呈すると思われる。短軸は0.54m、深さは0.25mである。長軸方位はN-38°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-40号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南東側は第2-43号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で0.53m、短軸は0.30m、深さは0.22mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-42号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-37号土壌、南西側を第2-27、26号土壌に重複している。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.62m、深さは0.28mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-43号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-39号土壌、南東側を第2-44号土壌と重複している。平面形は長方形を呈すると思われるが規模は不明である。深さは0.22mである。

遺物は出土しなかった。

第2-44号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-35号土壌と重複する。周辺は第2-43、56、55号

土壌と接している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.72m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-45号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-56号土壌と重複している。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.60m、深さは0.29mである。

遺物は出土しなかった。

第2-46号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-57号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.62m、深さは0.33mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-47号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は2.28m、短径は0.48m、深さは0.20mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-48号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南側を第2-55号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.56m、深さは0.18mである。長軸方位はN-27°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-49号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-43、48、55号土壌と重複し、部分的検出であったため規模は不明である。深さは0.18mである。

遺物は出土しなかった。

第2-50号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-48号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.56m、短軸は0.48m、深さは0.25mである。長軸方位はN-40°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-51号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-55、64号土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.10mである。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-52号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-55号土壌と一部重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.04m、短軸は0.48m、深さは0.16mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-53号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.48m、短軸は0.44m、深さは0.11mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-55号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-44号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.60m、短軸は0.58m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-56号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-62号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長径は1.52m、短径は0.58m、深さは0.29mである。長軸方位はN-57°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-57号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北側を第2-64号土壌、北東側を第2-59号土壌と重複しており、規模は不明である。深さは0.18mである。長軸方位はN-35°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-58号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-47、57号

土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土しなかった。

第2-59号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北西側を第2-64号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.20m、短軸は0.60m、深さは0.17mである。長軸方位はN-37°-Wを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-60号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-47、46、57号土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.16mである。

遺物は出土しなかった。

第2-61号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-34、35、33号土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.32mである。

遺物は出土しなかった。

第2-62号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-56号土壌と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.12m、短軸は0.44m、深さは0.30mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-63号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-45、37、56号土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.30mである。

遺物は出土しなかった。

第2-64号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-4号溝跡、南西側を第2-56、65号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で2.24m、短軸は0.60m、深さは0.15mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-65号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-56号土壌と重複する。平面形は楕円形を呈すると思われる。短径は0.40m、深さは0.25mである。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-66号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-81号土壌、南側を第2-4号溝跡と重複しており、規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。深さは0.16mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-67号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-59号土壌、北側を第2-64号土壌と重複しており、規模と平面形は不明である。深さは0.13mである。

遺物は出土しなかった。

第2-68号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-4号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.10m、短軸は0.72m、深さは0.17mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-69号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-4号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.66m、短径は0.52m、深さは0.17mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-80号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-66号土壌、南東側を第2-4号溝跡と重複し、規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。深さは0.08mである。

遺物は出土しなかった。

第2-81号土壌 (第160・161図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。西側を第2-4号溝跡と遺物重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.12m、短軸は0.72m、深さは0.30mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-157号土壌 (第160・161図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。第2-81、66号土壌と重複し、部分的な検出のため、規模、平面形状は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-1号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.88m、短径は1.30m、深さは0.57mである。長軸方位はN-0°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-2号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。第3-2・3・4号土壌の3基が重複している。南西側を第3-3・4号土壌に切られる。平面形は方形を呈すると思われる。現況の一边の長さは1.62m、深さは0.08mである。長軸方位はN-53°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-3号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。一边の長さは1.53m、深さは0.13mである。長軸方位はN-53°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-4号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。南東側を第3-3号土壌によって切られている。平面形は方形を呈すると思われる。現況の一边の長さは1.35m、深さは0.13mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-5号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は楕円

形を呈する。長径は2.51m、短径は1.38m、深さは0.36mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-6号土壌 (第162図)

M5・J3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.33m、短径は1.11m、深さは0.18mである。長軸方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-7号土壌 (第162図)

M5・J2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、南側が深くなっている。長径は1.40m、短径は1.06m、深さは0.28mである。長軸方位はN-7°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-9号土壌 (第162図)

M5・I2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.29m、短径は1.16m、深さは0.30mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-10号土壌 (第162図)

M5・H2、H3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.60m、短径は1.28m、深さは0.16mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-11号土壌 (第162図)

M5・H2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.65m、短径は1.10m、深さは0.11mである。長軸方位はN-85°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-12号土壌 (第162図)

M5・G2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.83m、深さは0.12mである。

遺物は出土しなかった。

第3-13号土壌 (第162図)

M5・J2、J3、N5・A3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.72m、

短軸は0.84m、深さは0.21mである。長軸方位はN-26°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-14号土壌 (第163図)

N5・A2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.95m、深さは0.14mである。

遺物は出土しなかった。

第3-15号土壌 (第163図)

M5・J2、N5・A2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.99m、短軸は0.80m、深さは0.31mである。長軸方位はN-12°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-16号土壌 (第163図)

N5・C8、C9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.77m、短軸は0.86m、深さは0.10mである。長軸方位はN-78°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-17号土壌 (第163図)

N5・C9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は5.49m、短軸は1.00m、深さは0.22mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-18号土壌 (第163図)

M5・J2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.76m、深さは0.31mである。

遺物は出土しなかった。

第3-19号土壌 (第163図)

M5・H3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.87m、短径は1.47m、深さは0.15mである。長軸方位はN-38°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-20号土壌 (第163図)

M5・H2グリッドに位置する。遺構の遺存状態は悪く、東側は立ち上がり不鮮明であった。平面形は方形を呈すると思われる。現状での長軸

は1.45m、短軸は1.12m、深さは0.07mである。

遺物は出土しなかった。

第3-21号土壌 (第163図)

N5・C9グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、中央部が深くなっている。径は1.32m、深さは0.55mである。

遺物は出土しなかった。

第3-22号土壌 (第163図)

M5・I2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.14m、短径は0.60m、深さは0.07mである。長軸方位はN-41°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-23号土壌 (第163図)

M5・G2グリッドに位置する。北西部を第3-2号溝によって一部削平されている。平面形は楕円形を呈する。長径は1.75m、短径は1.37m、深さは0.42mである。長軸方位はN-31°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

(4) 井戸跡

第2-1号井戸跡 (第164図、第169図100~107)

N6・A6、A7グリッドに位置する。

平面形は隅丸方形を呈し、内側は楕円形に深くなる2段掘りである。外側は長軸は2.7m、短軸は2.5m、深さは2.8mである。中央部の楕円形は長径1.05m、短径0.85m、深さは2.8mまで掘り下げたが安全対策のため、底面まで調査しなかった。断面の観察から、中央に井戸枠を嵌め、埋め戻したものである。

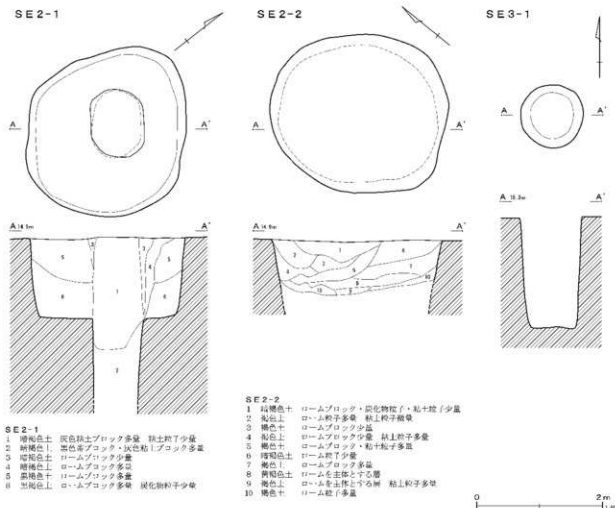
遺物は、100~107である。瀬戸・美濃系、肥前系、京・信楽系の碗、小鉢、皿と播鉢が出土した。

第2-2号井戸跡 (第164図)

N6・A6グリッドに位置する。

平面形は楕円形を呈する。長径は2.65m、短径は2.55mである。深さは1.20mまで調査したが、安全のため底面はおこなわなかった。

遺物は出土しなかった。



第164図 井戸跡

第3-1号井戸跡 (第164図)

M5・H1グリッドに位置する。

平面形は円形を呈する。径は1.00m、深さは1.77mである。

遺物は出土しなかった。

(5) 溝跡

第2地点で検出された溝跡は23条、第3地点で検出された溝跡は16条、計39条である。両地点の溝跡については、以下の特徴をもつ。

- ① 南西から北東へ走るもの(N-23°E~N-63°E)と南東から北西に走るもの(N-8°W~N-60°E)が大多数を占める。
- ② 比較的重複するものが少ない。

- ③ 直線的ではなく、湾曲・蛇行する例がある(第2-15号溝跡・第3-5~7号溝跡)。

基本的に①・②は、家敷地または耕作地を区画するための溝、③は根切りのための溝と考えられる。しかし、直線的な溝の中に、根切り溝も存在すると思われる。

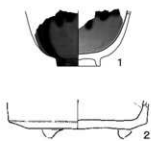
第2-1号溝跡 (第173図・第177図1)

N6・E7、E8、N6・F8グリッドに位置する。

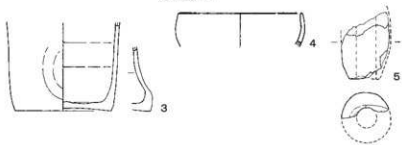
南側と東側は調査区外に延びる。2条から成るが、土層断面図の観察から、掘り返しによるものと思われる。

第2-2号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか不明である。

SK 2-15



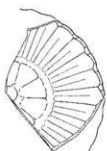
SK 2-17



SK 2-19



SK 2-24



SK 2-26



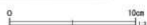
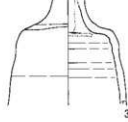
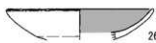
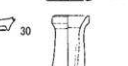
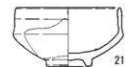
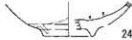
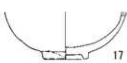
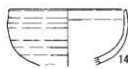
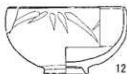
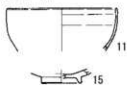
SK 2-20



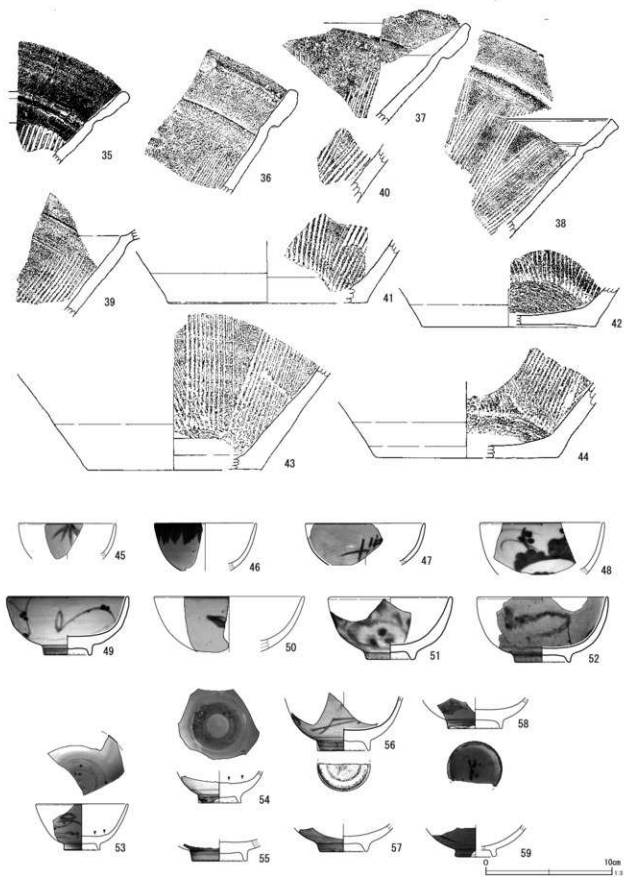
SK 2-31



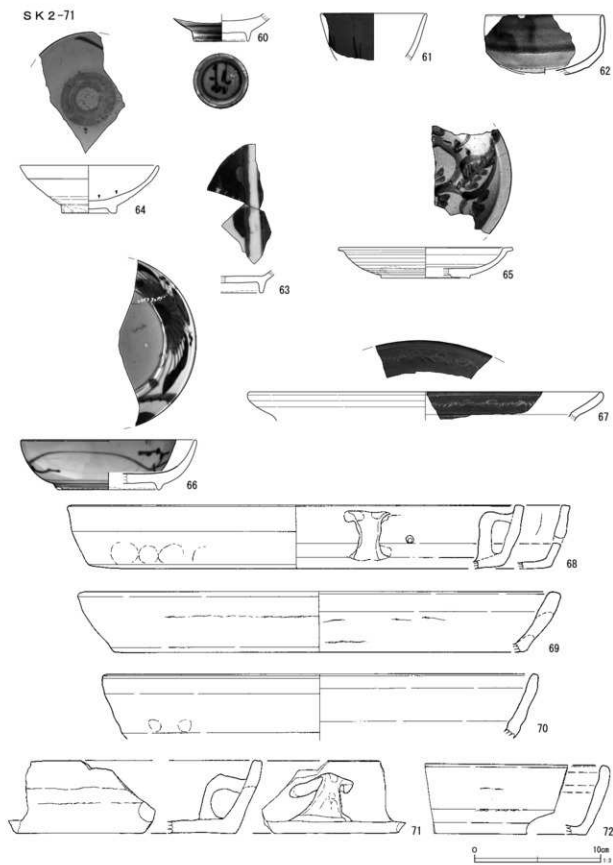
SK 2-71



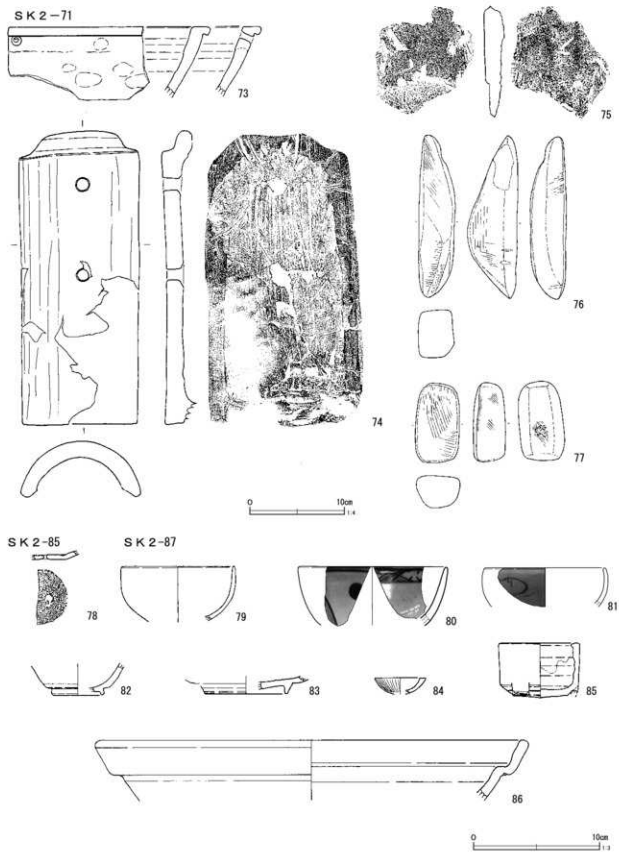
第165图 土城出土文物(1)



第166图 土壇出土遺物(2)

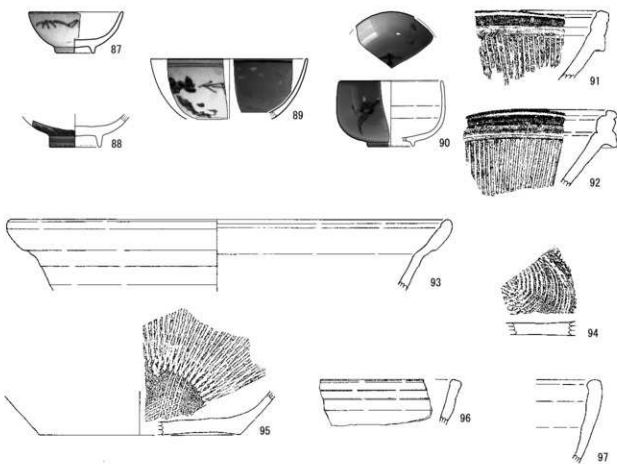


第167図 土壙出土遺物(3)

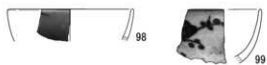


第168图 土壇出土遺物(4)

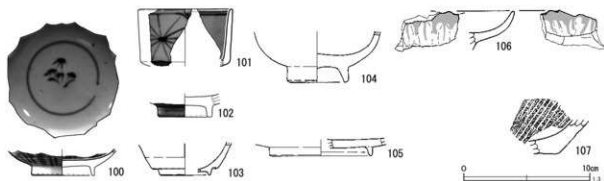
SK 2-90



SK 2-91



SE 2-1



第169図 土壇・井戸跡出土遺物

番号	道 橋	種 別	種 類	産 地	残存率 (%)	口径 (mm)	直径 (mm)	動 土	焼 成	触媒添加	成型技法	原料・造りの 特 徴	文 様	備 考	
38	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	10		(9.5)	陶灰 砂粒	普通	鉄物	織織			節目14本/条 左回転で無文 節目の増減少 18C後～19C前 か	
39	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	5		(7.2)	灰黄 砂粒	普通	鉄物	織織か			節目14本/条 部分的に節目間 隙 18C～19C	
40	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	5		(4.7)	灰黄 微砂粒	普通	鉄物	織織か			部分的に節目間隙	
41	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	10		(15.0)	灰黄 微砂粒	普通	鉄物	織織			見込み玉子トナシ 1 a 節	
42	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	30		(13.8)	灰黄 微砂粒	普通	鉄物	織織	底部の断面切 り跡 1 a 節			節目16～17本/条 左回転で無文 節目内のみ物残存 19Cか
43	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	30		(13.8)	灰黄	普通	鉄物	織織	底部の断面切 り跡 1 a 節			節目13本/条 見込み玉子トナ シ 1 a 節 節目間隙 18C
44	SK2-71	陶器	磁 鉢	瀬戸・美濃	20		(14.4)	灰黄 微砂粒	普通	鉄物	織織	底部の断面切 り跡 1 a 節			節目16本/条か 左回転で無文 節目間隙 19Cか
45	SK2-71	磁器	碗	肥前	5	(7.6)	(3.9)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織		竹葉文	18C前～中か	
46	SK2-71	磁器	碗	肥前	30	(8.3)	(3.8)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織			18C	
47	SK2-71	陶器	碗	京・信楽か	20	(9.4)	(3.4)	灰白微砂粒	良好	灰物	織織	質人多	筋線	18C後か	
48	SK2-71	磁器	碗	肥前	10	(9.8)	(4.2)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織		松ノ輪文	18C前～中	
49	SK2-71	磁器	碗	肥前	35	(9.6)	(7.8)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台 輪軸目録著	華文文	高台内側に付着 高台内筋 18 C前	
50	SK2-71	磁器	碗	肥前	5	(11.0)	(4.5)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織			18C前～中	
51	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	60	(9.7)	3.8	5.0	陶灰	良好	透明釉	織織	節り出し高台 質人多	華文文	18C後～19C中葉
52	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	50	(10.4)	4.4	5.2	灰黄	良好	透明釉	織織	節り出し高台 質人多	華文文か	高台内にヒ割れ 18C後～19C 中
53	SK2-71	磁器	碗	肥前	20	(10.8)	(4.2)	5.5	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台 見込み配目輪 割り	華文文か	くおんか碗 17C末～18C中 輪割り部分と器口に砂粒付着
54	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(3.3)	(2.6)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台 見込み配目輪 割り	高台輪一帯間隙 高台底二帯間隙	17C後～18C前 輪割り部分砂 粒付着
55	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(4.2)	(3.7)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台		器付砂粒付着 18C
56	SK2-71	磁器	碗	肥前	25		(4.2)	(4.4)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台	筋枝文	高台内輪「筋」二次の割れ 18 C前～中
57	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	10		(3.6)	灰黄微砂粒	普通	透明釉	織織	節り出し高台 質人多		18C後～19C中葉	
58	SK2-71	磁器	碗	肥前	60		(4.4)	(2.4)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台	英文	くおんか碗 高台内筋 高台 砂粒付着 18C前
59	SK2-71	陶器	碗	京・信楽	5		(3.4)	(2.5)	灰白微砂粒	普通	灰物	織織	節り出し高台	筋線	18C後
60	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(4.4)	(202)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台		高台内筋に「太田年製」か
61	SK2-71	陶器	碗	京・信楽	10	(8.4)	(3.8)	灰白 鉄骨	良好	透明釉	織織	質人多	筋線	小砂粒 19C前半	
62	SK2-71	磁器	碗	瀬戸・美濃	30	(9.2)	(4.9)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	質人多	竹葉・動物 土留け	せんじ 18C中～後	
63	SK2-71	磁器	皿	肥前			(1.7)	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織		付付高台か	高台即一帯間隙	17C中～後 秀出
64	SK2-71	磁器	皿	肥前	25	(11.0)	4.4	4.9	灰白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台 見込み配目輪 割り	筋線	18C中～後
65	SK2-71	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(27.6)	(14.0)	4.4	灰白	良好	灰物 灰黄 鉄物		石目	18C末～19C	
66	SK2-71	磁器	皿	肥前	30	(14.0)	(8.9)	4.0	白 鉄骨	良好	灰物	織織	節り出し高台	華文文・華花 文	外面見込み目録 唐草文高台内 一帯間隙 華文文二帯間隙 17 C末～18C初
67	SK2-71	陶器	鉢	肥前 唐津	5	(28.0)	(2.3)	灰白・赤褐 微砂粒	良好	透明釉 白化粧土	織織			三島 17C後～18C前	
68	SK2-71	土器	惣輪		10	(36.0)	(32.0)	5.0	陶灰	普通				外面に厚付着 口径φ.4cm 厚 1 a 節	
69	SK2-71	土器	惣輪		10	(36.4)	(32.1)	4.8	陶灰	普通				外面に厚付着	
70	SK2-71	土器	惣輪		10	33.6	(3.9)	陶灰	普通					外面に厚付着 一部指環状	
71	SK2-71	土器	惣輪		5		(5.8)	陶	普通					外面に厚付着	
72	SK2-71	土器	惣輪		10		(5.4)	黒褐 鉄骨	普通					外面に厚付着	

番号	遺構	種別	部材	床地	残存率 (%)	口径 (cm)	径長 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	物産品類	成型技法	遺構・部材の 番号	文種	備考
73	SK 2-71	土層	焼結		5			[3.6]	黒褐	普通					外周に厚付き 断面形状多 式 1 *
74	SK 2-71	瓦	丸瓦		70						赤土・灰土混じり 厚1.5cm 幅1.8cm 高さ1.5cm	手切砂割			
75	SK 2-71	石製品	煮硝					[8.7]	赤岩	焼結					
76	SK 2-71	石製品	礎石								長さ12.8cm 幅2.9cm 厚3.8cm 重さ131.2g 凝灰岩				
77	SK 2-71	石製品	平明								長さ6.3cm 幅2.6cm 厚3.2cm 重さ96.8g 安山岩				
78	SK 2-85	土層	かわらけ		5			[9.7]	積 細砂	普通			回転車切り		法面穿孔1+溝 孔径9.3cm
79	SK 2-87	陶器	甕		10	(9.6)		[4.3]	灰白 細砂	良好	透明物	細織			貫入多 18C
80	SK 2-87	陶器	甕	肥前	5				灰白 細砂	良好	灰物	細織		白口縁一帯磨 蝕	18C前~中
81	SK 2-87	磁器	甕・信楽		5	(9.3)			灰白 良好	灰物	細織				貫入多 18C
82	SK 2-87	陶器	甕戸・美濃		15	(4.6)		(2.3)	灰白 細砂	良好	灰物	細織	割り出し高台		貫入多
83	SK 2-87	陶器	甕戸・美濃		10	(5.6)		(2.1)	灰黄	普通	鉄灰物				17C
84	SK 2-87	磁器	紅藍	美濃	25	(4.6)		(1.3)	灰白 良好	良好	型打				白織 貝砂 19C
85	SK 2-87	陶器	香炉	美濃	40	(6.2)	4.3	(4.3)	灰白 細砂	良好	灰物	細織			三足の内1+溝が部分的に遺存 厚約2cm 19C
86	SK 2-87	陶器	甕鉢	美濃	5	(33.6)			(4.7)	浅黄 砂粒	良好	灰物	細織		18C末
87	SK 2-90	磁器	小鉢	肥前	95	7.4	3.6	3.3	灰白 細砂	良好	灰物	細織	割り出し高台	華文	貫入付 18C
88	SK 2-90	磁器	甕	肥前	25		4.6	(2.4)	灰白 細砂	良好	灰物	細織	割り出し高台		高台砂粒付多 17C後か
89	SK 2-90	磁器	甕	肥前	10	(12.6)		(4.9)	灰白 細砂	良好	灰物	細織			18C前~中
90	SK 2-90	磁器	甕	肥前か	25	(8.2)	(2.4)	5.3	灰白 細砂	良好	灰物	細織	割り出し高台		19C末以降
91	SK 2-90	陶器	甕鉢	堺か	5			(5.3)	明 赤褐	良好	焼き跡の				割目7本/条 割目は明瞭で磨 蝕少 18C中~後
92	SK 2-90	陶器	甕鉢	堺か	5			(3.6)	黄い赤褐	良好	焼き跡の	細織か			割目7本/条 割目は明瞭で磨 蝕少 18C中~後
93	SK 2-90	陶器	甕鉢	美濃	5	(36.6)		(3.7)	黄い橙黄	普通	灰物	細織			19C前
94	SK 2-90	陶器	甕鉢	美濃	5			(1.1)	灰黄 磨蝕粒	普通	灰物	細織			18C
95	SK 2-90	陶器	甕鉢	堺	20	(16.6)		(2.4)	黄い 赤褐	良好	焼き跡の	編織か	見込・底部焼 け跡		割目7本/条左右側で軌文 割 目跡明 18Cか
96	SK 2-90	土層	焼結		25			(3.4)	黄い 粉	普通					砂粒少
97	SK 2-90	土層	焼結		5			(6.6)	積	普通					編織か
98	SK 2-91	磁器	甕	肥前	5	(10.1)		(2.5)	灰白 細砂	良好	灰物	細織			華文
99	SK 2-91	磁器	甕	肥前	10			(4.3)	灰白 細砂	良好	灰物	細織			18C前~中
100	SK 2-1	磁器	甕	美濃	90		5.9	(2.8)	灰白 良好	透明物	細織	割り出し高台			19C前
101	SE 2-1	磁器	甕	美濃	5	(7.3)		(4.6)	灰白 細砂	良好	灰物	細織			水型地楽花笠 ぎ文
102	SE 2-1	磁器	甕	肥前	30	(4.6)	(1.6)	灰白 細砂	良好	灰物	細織	割り出し高台			筒形茶筒 19C前~中
103	SE 2-1	陶器	甕	京・信楽	20	(4.6)	(2.5)	灰白 良好	灰物	細織	割り出し高台 貫入多				18C末~19C前
104	SE 2-1	陶器	鉢	京・信楽		4.4	(4.6)	浅黄 細砂	普通	灰物	細織	割り出し高台 貫入多			貫入多 17C末~18C初か
105	SE 2-1	陶器	皿	美濃	5	(8.6)		(1.9)	灰白 細砂	良好	灰石物	細織	付け高台 貫 入多		見込み門縁ビシ跡 二次的磨蝕 17C
106	SE 2-1	陶器	皿	美濃	10		(3.1)	浅黄	良好	灰物・ 鉄灰物	細織 型打ち	付高台か			甕底 網掛物表し掛け 17C前 半
107	SE 2-1	陶器	甕鉢		5			(2.7)	緑黄砂粒 やや多	普通	焼跡の	編織か			砂粒やや多 割目6本/条か 割目やや磨蝕

検出した長さは19.4m、幅は1.7~2.8m、深さは0.4mを測り、方位はN-50°Eを指す。区画溝の可能性が高く、位置関係から第2-3号溝跡と同一の溝跡と考えられる。

遺物は、焙烙の小破片が1点出土した。

第2-2号溝跡 (第17塚区)

N6・E6、E7、F6グリッドに位置する。東西共に調査区外に続く。第8-147号土壇と重複しているが、新旧関係は不明である。また、第2-1号溝跡とセット関係か、新旧関係等は不明で

ある。

検出し得た長さは7.8m、幅は2.3～2.8m、深さは0.4mを測る。方位は概ねN-50°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状である。断面形は皿状であるが、断面形状から掘り返しの結果と考えられる。

第2-3号溝跡または、第2-4号溝跡と共に、第2-1号掘立柱建物跡を取り込んだ、家敷地の区画溝の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第2-3号溝跡 (第170図17～22)

N6・B6、C6、C7グリッドに位置する。

SK2-90、106～108、110、112、122、および多数のピットと重複するが、新旧関係については不明である。南側は調査区外に延びる。北側については、攪乱の先には認められない。

検出された長さは12.0m、幅は1.6～2.0m、深さは0.32mを測り、方位は概ねN-28°-Wを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状で、断面形は底面が平坦な逆台形である。

位置関係から、第2-1号溝跡と同一の溝跡の可能性が考えられる。本遺構の性格としては、第2-1号掘立柱建物跡を擁する、家敷地に伴う区画溝であると推定される。

遺物は出土しなかった。

第2-4号溝跡 (第170・171図、第177・178図)

M6・I8、I9、J9、J10、M7・I1、I2、J1、J2、N6・A9、A10、A11、B8、B9グリッドに位置する。

3本の溝跡を合わせて、第2-4号溝跡とした。第2-13・14号溝跡と共に、区画溝として機能していたと推定される。その際に、第2-5・9～11号溝跡との関連性や新旧関係は不明である。また、数多くの遺構と重複しているが、これら遺構群との新旧関係は不明である。

南東から北西に走る2本の溝跡の内、西側の溝跡は、第2-3号欄柵跡と重複していることから、第2-1号掘立柱建物跡を取り込む家敷地とは別

時期に機能していたと考えられる。

3条の溝跡について、個別に記述していく。

南東から北西に走る2本の溝跡の内、西側の溝跡は、長さは19.6m、幅は1.7～2.9m、深さは0.24mを測り、方位は概ねN-35°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状で、断面は皿状である。第2-15号溝跡とした溝跡との関連は不明である。

調査時点において、別遺構と判断して遺構番号を振ったが、同一遺構の可能性は否定できない。

東側の溝跡は、北側部分は第2-5号溝跡と重複している。南側部分は、調査区外に延びる。長さは30.7m、幅は1.8～2.8m、深さは0.28mを測り、方位は概ねN-38°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状で、断面は皿状である。第2-15号溝跡と同一遺構の可能性は否定できない。

北東へ走る溝跡は、東側は調査区外に延びるが、西側では土壌群と接している。溝跡は土壌群で途絶えるのか、北側に曲がるのか不明であるが、土壌群の西側には、東西に走る溝跡が確認されず、後者の可能性が高いと思われる。

遺物は25点出土した。瀬戸・美濃系の遺物はいずれも陶器で、碗・皿・搦鉢である。肥前系はいずれも磁器で小坏と碗である。その他の産地では堺や丹波と思われる搦鉢などがある。煙管が、部分的ではあるが出土しているのが、特徴の1つとして挙げられる。

第2-5号溝跡 (第170・171図、第178図27～37)

M6・H8、I7、I8、J6、J7、J8、N6・A6、A7グリッドに位置する。

西側は調査区外に延びる。東側については、この地点で終わっているのか、第2-14号溝跡と関連するのかわからない。他遺構との関連や新旧関係についても不明であるが、位置関係や方位からみて第2-1号掘立柱建物跡や第1～5号欄柵跡との関連性が高いと考えられる。第2-5号溝跡と判断した範囲の規模は、長さ34.5m、幅2.2～2.6m、深さ1.12mを測り、方位はN-39°-Eを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状で、断面形は葉研錐状を呈する。

出土した遺物は10点である。陶器の碗は瀬戸・美濃系、磁器の碗は肥前系である。サルをかたどった土人形(36)が出土したが、頭部は検出されなかった。

第2-6号溝跡(第173図)

M6・G4、G5、G6グリッドに位置する。東側が一部分攪乱を受けているが、東西とも調査区外に延びる。他遺構との重複関係はない。

全長16.3m、幅1.5～2.3m、深さ0.3mを測り、方位はN-68°Eを指す。

溝の性格及び機能は不明である。

平面形は、幅にやや振幅があるがほぼ直線状で、断面形は段を有する皿状である。断面形からみて、掘り返しか行われた結果と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第2-7号溝跡(第170・171図、第178図38～43)

M6・H6、H7、I5、I6グリッドに位置する。

第2-7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びる。東側は南に向けてほぼ直角に屈曲している。

検出された範囲内において、直線部分の長さは19.7m、屈曲部分も含めた全長は23.0m、幅1.7～2.7m、深さ0.24mを測る。直線部分の方位は概ねN-63°Eを指す。

平面形は直線状、断面形は段を有する皿状である。断面形から見て、掘り返しか行われた結果と考えられる。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系の皿と思われる陶器が2点出土した(38・39)。

第2-8号溝跡(第170図)

M6・I6、I7グリッドに位置する。

第2-7・9号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。両端部共に他遺構と重複している。

検出された範囲内において、全長7.2m、幅0.5～0.8m、深さ0.1mを測る。方位は概ねN-60°Wを指す。平面形はやや湾曲する直線状、断面形は皿状である。第2地点の他の溝跡と方位が異なっている。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-9号溝跡(第170・171図)

M6・I6、I7、J6、J7グリッドに位置する。

第2-8・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。南に向かってほぼ直角に屈曲する。耕作等の削平により溝跡が浅くなり両端が途切れている可能性が高い。

検出された範囲内において、全長22.0m、幅0.6～1.2m、深さ0.2mを測る。方位はN-44°EとN-38°Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-10号溝跡(第170・171図、第178図40)

M6・H8、I7、I8、J6、J7グリッドに位置する。

第2-9・11号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長30.5m、幅0.5～1.7m、深さ0.3mを測る。方位はN-46°EとN-38°Wを指す。平面形はやや蛇行する直線状、断面形は浅いロート状である。断面形から見て、掘り返しの可能性が考えられる。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、京・信楽系の陶器碗1点(40)が出土した。

第2-11号溝跡(第171図・第178図41～43)

M6・G9、G10、H8、H9、I8グリッドに位置する。

第2-5・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は、南に向かってほぼ直角に屈曲

して、第2-5号溝跡に重複した部分で終わっており、対岸には延びていない。東側は浅くなり、取束している。

検出された範囲内において、全長29.8m、幅0.8~1.1m、深さ0.1mを測る。方位はN-45°EとN-42°Wを指す。平面形は、幅に振幅のある直線からなる鍵の手状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の碗・皿と、焙烙が各1点ずつ出土した。

第2-12号溝跡 (第171図、第179図44~46)

M6・G9、H9、H10、I10、M7・I1、J1グリッドに位置する。

第2-4・13・14号溝跡と重複するが、共伴関係・新旧関係ともに不明である。但し、第2-4・13号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。北側は、第2-14号溝跡、南側は第2-4号溝跡に、重複または合流した部分で終わっている。

検出された範囲内において、全長28.0m、幅1.5~3.4m、深さ0.2mを測る。方位はN-37°Wを指す。平面形は、幅に振幅のある直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の擂鉢と、肥前系の磁器碗、およびかわらけが各1点ずつ出土した。

他に、瀬戸・美濃系の陶器皿1点、肥前系の磁器皿1点の小破片が検出されている。

第2-13号溝跡 (第171図)

M6・H10、I9、I10、M7・H1グリッドに位置する。

第2-4号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。但し、本溝跡は、第2-4・12・14号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。西側は、第2-4号溝跡に、重複または合流している。東側は調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長18.6m、幅1.3~2.0m、深さ0.2mを測る。方位はN-48°Eを指す。平面形は幅に振幅のある直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系の陶器皿が1点、肥前系の磁器の小破片が出土している。

第2-14号溝跡 (第171図、第179図47~49)

M6・G9、G10、H9、H10グリッドに位置する。

第2-5・12・15号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。但し、本溝跡は、第2-4・12・15号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。西側は、第2-5・12号溝跡に、重複または合流している。東側は、第2-12号溝跡を跨ぎ調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長20.0m、幅0.7~2.2m、深さ0.3mを測る。方位はN-45°Eを指す。平面形は、直線状で断面形は碗状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、図化したのは陶器3点で、瀬戸・美濃系の志野菊皿(47)、肥前系の碗(48)、そして丹波系の擂鉢(49)が各1点である。

他に、瀬戸・美濃系の陶器碗1点、肥前系の磁器碗2点、堺系と思われる陶器の擂鉢1点の小破片が出土している。

第2-15号溝跡 (第171図、第179図50~61)

M6・H8、H9、I8、I9、J8グリッドに位置する。

第2-4・5・14号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。第2-15号溝跡の西側は、第2-4号溝跡に、重複または合流している。東側は、第5-14号溝跡に重複または合流している。

検出された範囲内において、全長15.0m、幅1.6~2.2m、深さ0.4mを測る。方位はN-25°Eを

指す。平面形は湾曲のある直線状で、断面形は底面がやや窪む逆台形である。

溝の性格及び機能は不明である。

出土した遺物は、瀬戸・美濃系では陶器の碗・皿・播鉢・徳利、肥前系では磁器の小杯・碗、丹波系と堺系の陶器の播鉢などである。

他に、瀬戸・美濃系陶器の碗5点・皿1点、肥前系の磁器碗9点の小破片が出土している。

第2-16号溝跡 (第172図)

M5・G10、H10、M6・F2、F3、G1、G2グリッドに位置する。

第2-23号溝跡、第2-95号土壇と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側および北側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長34.0m、幅0.4~1.2m、深さ0.3mを測る。方位はN-63°-Eを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の碗3点・播鉢2点の小破片が出土している。

第2-17号溝跡 (第170図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。

第2-85・87号土壇、第2-4号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長9.7m、幅0.3~0.5m、深さ0.1mを測る。方位はN-31°-Wを指す。平面形はやや湾曲をもつ直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-18号溝跡 (第170図、第179図62~66)

M6・J8、N6・A8グリッドに位置する。

第2-15・17・19号溝跡、第2-87・100号土壇のほか、幾つかのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側は第2-22号溝跡、南側は第2-4号溝跡に接した位置で終わっている。

検出された範囲内において、全長11.0m、幅1.2~3.8m、深さ0.4mを測る。方位は概ねN-8°-Wを指す。平面形はやや湾曲をもつ直線状で、断面形は開きの大きな菜研堀に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、陶磁器が5点出土した(62~66)。瀬戸・美濃系は陶器の徳利と播鉢、肥前系は磁器の碗と瓶である。63は、畳付に鉄漿が施されている。

第2-19号溝跡 (第170図)

M6・J7・J8グリッドに位置する。

第2-15・18号溝跡および4つのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長3.8m、幅0.6~0.8m、深さ0.16mを測る。方位はN-36°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-20号溝跡 (第170図)

N6・A6グリッドに位置する。

第2-5号溝跡、第2-2号井戸跡および1つのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側は調査区外に続く。

検出された範囲内において、全長6.3m、幅0.8~1.0m、深さ0.16mを測る。方位はN-26°-Eを指す。平面形は直線状で、断面形は逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-21号溝跡 (第170図)

N6・B6、C6グリッドに位置する。

第2-113~115号土壇、およびピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。南側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長12.0m、幅0.25~0.6mを測る。方位はN-29°-Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-22号溝跡 (第170図)

M6・J7グリッドに位置する。

第2-5・15号溝跡と重複しているが、共存関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長1.0m、幅1.4~1.6m、深さ0.3mを測る。方位はN-45°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-23号溝跡 (第172図)

M6・F3、G3、G4グリッドに位置する。

第2-16号溝跡と重複しているが、共存関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側と東側は、調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長13.0m、幅1.3~1.8m、深さ0.3mを測る。方位はN-36°-Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-1号溝跡 (第176図)

N5・B8、B9、C9、D9、D10、E10グリッドに位置する。

第3-17号土壇と重複しているが、共存関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側と東側は調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長36.3m、幅0.4~0.7m、深さ0.2mを測る。方位はN-30°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は浅いU字形である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-2号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2、H2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかの

よう平行している。本遺構は、第3-3号溝跡を切っている。東側は、調査区外に延びている。西側は、南側に屈曲して途切れる。

検出された範囲内において、全長17.0m、幅0.6~2.8m、深さ0.2~0.56mを測る。方位はN-70°-Eと方位はN-10°-Wを指す。平面形は、直線に延びる溝跡が「く」字状に曲がっている。断面形は、レンズ状もしくは逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、第3-2~4号溝跡を合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭(寛永通宝)1点が検出された。67は、内野山産と思われる陶器碗である。見込みの蛇の目軸刺ぎされた部分には、目跡が認められる。68は、肥前系の磁器碗であるが、高台内にも一重圈線が施されている。

第3-3号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2、H2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかのように平行している。本遺構は、第3-2・4号溝跡に切られている。溝の西側部分が、調査区境界線外にあるため、形状や規模についての詳細は不明である。東側と西側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長34.1m、幅2.0~2.8m、深さ0.4~0.72mを測る。方位は全体像が不明なため、計測できなかった。平面形については、直線的に延びる溝跡が、クランク状に曲がっている。断面形はレンズ状もしくは逆台形に近い形状を呈している。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が高いと思われる。

遺物は、第3-2~4号溝跡を合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭(寛永通宝)1点が検出された。

第3-4号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかの

よう平行している。本遺構は、第3-3号溝跡を切っている。東側は、調査区外に続く。西側は途切れている。

検出された範囲内において、全長12.0m、幅0.7~1.2m、深さ0.2~0.56mを測る。方位はN-67°-Eを指す。平面形は直線状で、断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から、根切り溝の可能性が高いと考えられる。

遺物は、第3-2~4号溝跡と合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭（寛永通宝）1点が検出された。

第3-5号溝跡（第174図、第180図67~71）

M5・G2、H1、H2、I1グリッドに位置する。

第3-2・3・6・13・14号溝跡と重複しているが、共存関係の有無・新田関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長32.0m、幅0.4~0.7m、深さ0.4mを測る。方位は全体像が不明なため、計測できなかった。平面形は、直線的な部分と、湾曲する部分からなる。第3-8・13号溝跡と一連の溝跡であるかは不明である。断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-6号溝跡（第174図、第180図67~71）

M5・H1、I1、I2グリッドに位置する。

第3-3・5・13・14号溝跡と重複しているが、共存関係の有無・新田関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長22.1m、幅0.3~0.7m、深さ0.16~0.24mを測る。方位は計測できなかった。平面形は釣り針状、断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が高い。

遺物は出土しなかった。

第3-7号溝跡（第174図）

M5・H1グリッドに位置する。

第3-6号溝跡と重複しているが、新田関係は不明である。西側と東側ともに途切れている。

検出された範囲内において、全長7.3m、幅0.3~0.4m、深さ0.1mを測る。方位はN-34°-EとN-69°-Wを指す。平面形はL字状で、断面形は皿状・レンズ状を呈している。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-8号溝跡（第174図、第180図72~74）

M5・J1、N5・A1、A2グリッドに位置する。

第3-13号溝跡に切られている。本溝跡の北側が何処まで延びるのか、第3-3号溝跡と繋がるのか不明である。南側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長16.5m、幅0.6~1.3m、深さ0.4~0.56mを測る。方位はN-15°-Wを指す。平面形は直線状、断面形U字状である。本溝跡は、規模・形状・出土遺物などから推して、家敷地を区画する溝跡であるとの可能性が考えられる。

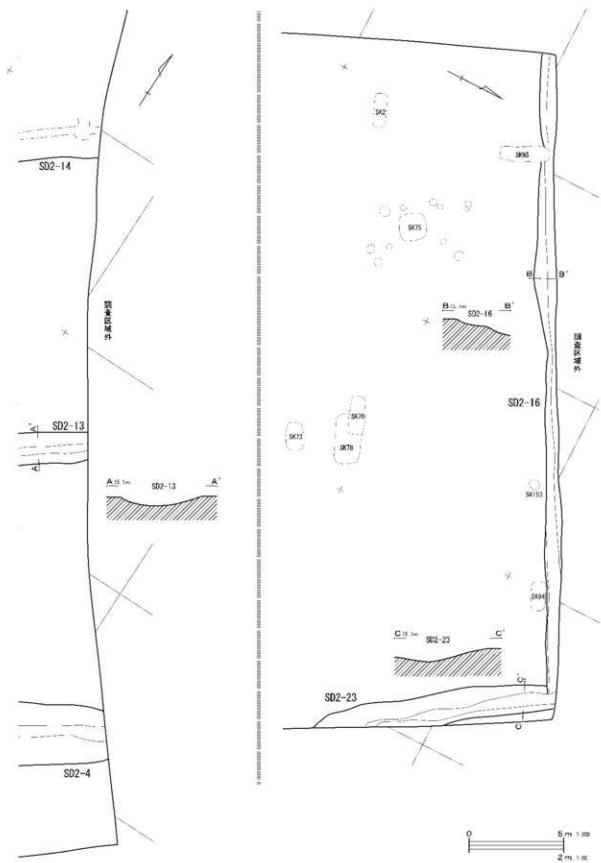
遺物は、陶磁器類が3点出土した。72は、肥前系の磁器碗である。73・74は瀬戸・美濃系の陶器で、前者はいわゆる天目茶碗である。後者は志野の菊皿である。

第3-9号溝跡（第175図）

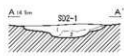
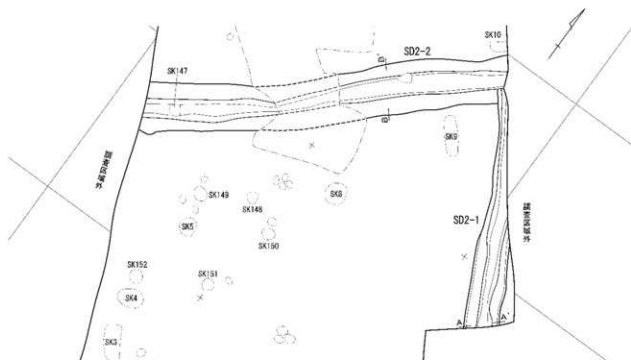
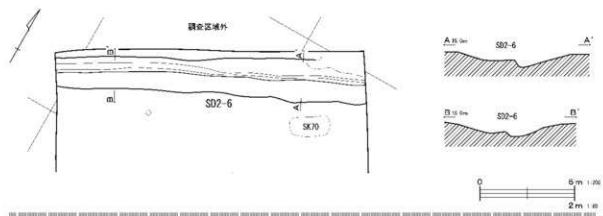
N5・A3、A4、B3、B4、C4グリッドに位置する。

本遺構の北側部分では、東西方向に走る溝跡と重複しており、一連の屈曲する溝跡であると判断した。このことから、第3-10a・10b号溝跡とも、一連の遺構の可能性も考えられる。

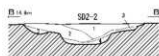
西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に続いている可能性がある。検出された範囲内において、全長23.75m、幅0.6~1.5m、深さ0.6mを測る。方位はN-69°-E



第172图 沟迹(3)



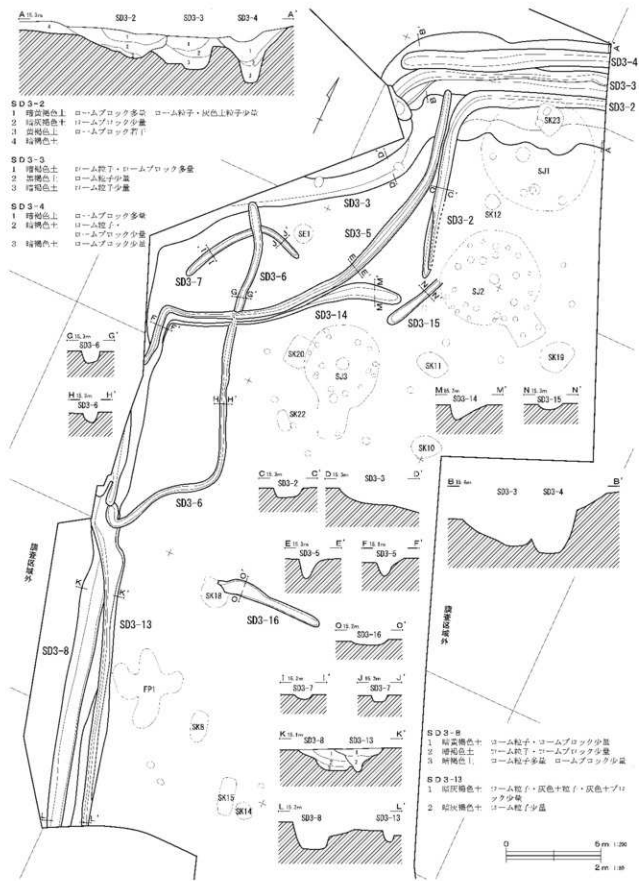
- SD2-1
- 1 灰褐色土 ロームブロック多量 軌上跡少量
 - 2 黄褐色土 ロームを主体



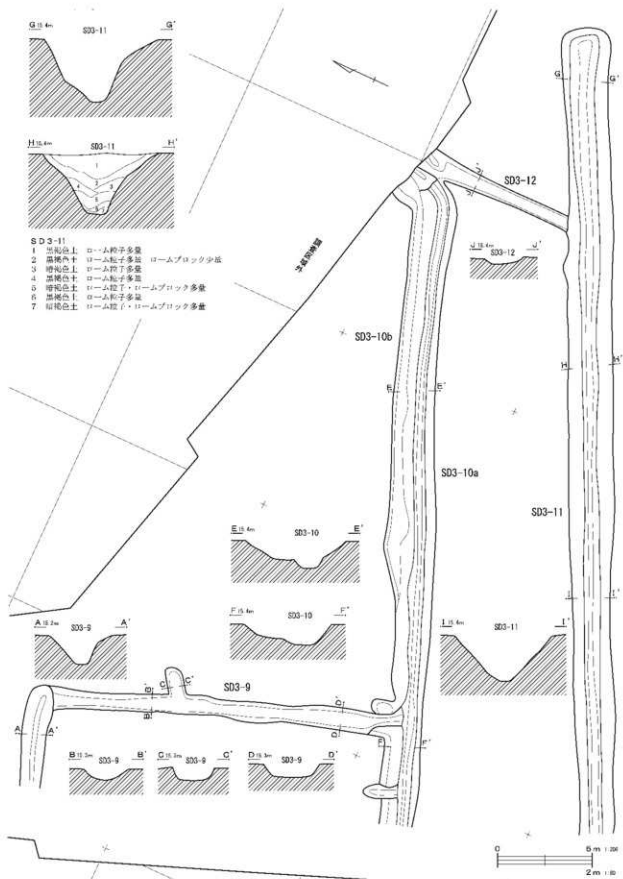
- SD2-2
- 1 褐色土上 ロームブロック多量
 - 2 灰褐色土 ロームブロックを主体
 - 3 黄褐色土 ロームを主体 ロームブロック少量
 - 4 黒褐色土 緑色帯(埋~既埋) 山面のブロック群



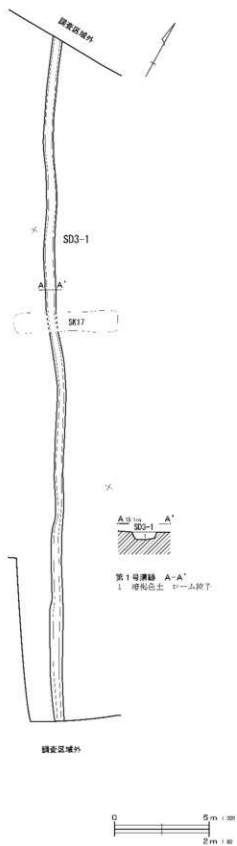
第173図 溝跡(4)



第174図 溝跡 (5)



第175図 溝跡 (6)



第176図 溝跡 (7)

とN-21°-Wを指す。平面形はL字状、断面形は逆台形もしくは碗状である。

本溝跡の規模・形状からみて、家敷地を区画する溝跡の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-10号溝跡 (第175図)

N5・A6、B4、B5、B6、C3、C4グリッドに位置する。

第3-10号溝跡は、断面形からみて最低でも、1度は掘り返しが行われた溝跡であると考えられる。第3-9号溝跡と重複、もしくは合流しており、一連の遺構の可能性が考えられる。

西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に続いている可能性がある。また東側部分では、北方向に屈曲しながら調査区外に続いていく。

検出された範囲内において、全長35.0m、第3-10a号溝跡と第3-10b号溝跡を合わせた幅1.5~2.8m、深さ0.6mを測る。直線部分の方位は、N-68°-Eを指す。この直線部分の方位は7.5mの距離にある第3-11号溝跡の方位N-65°-Eに近いといえる。なお、屈曲する部分の方位は、第3-12号溝跡の方位にも近いと思われるが、関連性があるかは不明である。

調査区外の形状が不明であるため、全体の平面形は特定できない。断面形がレンス状の溝跡2条が並んだ状態である。

本溝跡の規模・形状からみて、家敷地を区画する溝跡の可能性を考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-11号溝跡 (第175図)

N5・B7、B8、C4、C5、C6、C7、D4グリッドに位置する。

第3-12号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に延びる可能性が高い。

東側部分は、途切れている。

検出された範囲内において、全長42.6m、幅1.8~2.7m、深さ1.0mを測る。直線部分の方位は、N-65°-Eを指す。この直線部分の方位は7.5mの距離にある第3-10号溝跡の方位N-68°-Eに近いといえる。

平面形は直線状、断面形はV字状もしくは箱葉研状である。

本溝跡は、規模・形状からみて、家敷地を区画するの可能性を考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-12号溝跡 (第17区)

N5・A6、B6、B7グリッドに位置する。

第3-10・11号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

西側部分は、調査区外に延びている。東側部分は、第3-12号溝跡以東ではみられない。

検出された範囲内において、全長8.0m、幅0.7~0.8m、深さ0.1mを測る。方位は、N-0°-Eを指す。この方位は、第3-10号溝跡の屈曲する溝跡とも近いと思われるが、関連性があるかは不明である。

平面形は直線状、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-13号溝跡 (第17区)

M5・I1、J1、J2、N5・A1、A2グリッドに位置する。

第3-5・6・8号溝跡と重複する。この内、第3-8号溝跡を切っているが、その他の溝跡については、同一遺構であるか、関連性をもつのか等々、いずれも不明である。南側部分は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長18.0m、幅0.

4~1.6m、深さ0.5mを測る。方位は、N-17°-Wを指す。平面形は直線状、断面形は皿状である。

本溝跡は、規模・形状などから推して、家敷地を区画する溝跡である可能性が想定できる。

遺物は出土しなかった。

第3-14号溝跡 (第17区)

M5・H2グリッドに位置する。

第3-5・6号溝跡と重複するが、関連性及び新旧関係は不明である。東側部分は途切れている。

検出された範囲内において、全長9.8m、幅0.6~0.9m、深さ0.3mを測る。方位は、強いて表現するならば、N-64°-Eとなる。平面形はやや湾曲する直線状、断面形はV字状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-15号溝跡 (第17区)

M5・H2グリッドに位置する。

検出された範囲内において、全長3.5m、幅0.4~0.6m、深さ0.1mを測る。方位は、N-25°-Eを指す。平面形は直線状、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-16号溝跡 (第17区)

M5・I2、J2グリッドに位置する。

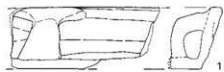
第3-18号土壇と重複するが、新旧関係は不明である。土壇の西側には、溝跡は検出されなかった。東側は途切れている。近在の遺構との関連については、不明であるといわざるを得ない。

検出された範囲内において、全長5.8m、幅0.5~0.8m、深さ0.1mを測る。方位は、N-0°-Eを指す。平面形はやや膨らみを有する直線状、断面形は皿状である。

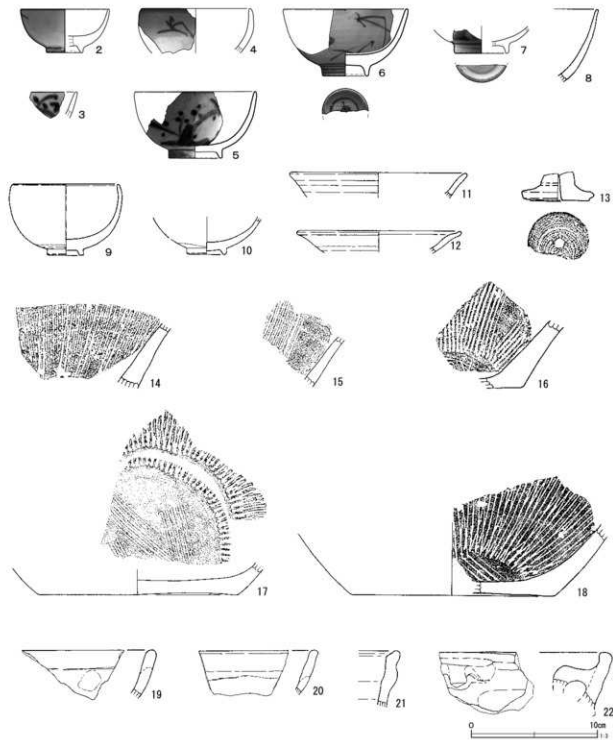
溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

SD2-1

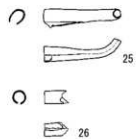
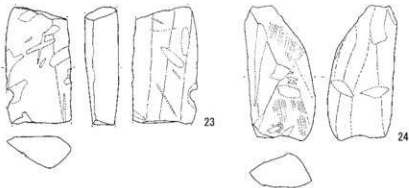


SD2-4

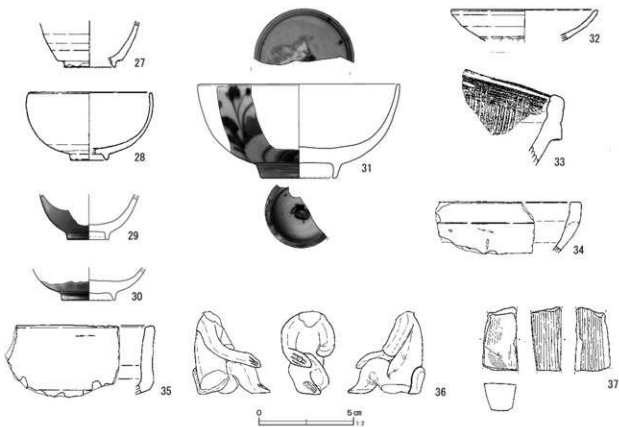


第177图 涿迹出土物(1)

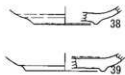
SD 2-4



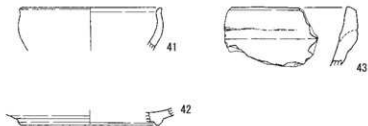
SD 2-5



SD 2-7



SD 2-11

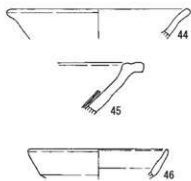


SD 2-10

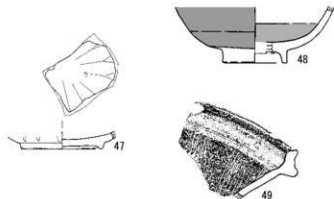


第178图 溝跡出土遺物(2)

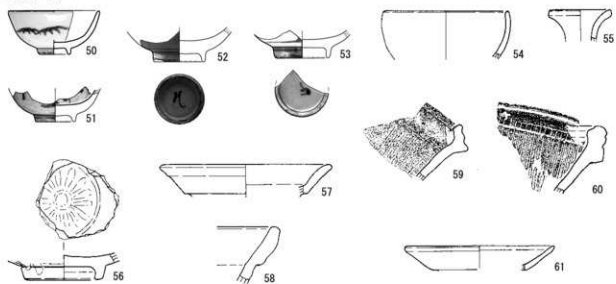
SD 2-12



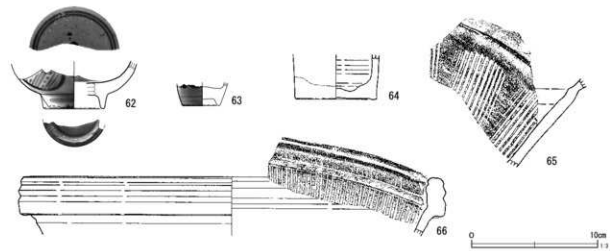
SD 2-14



SD 2-15

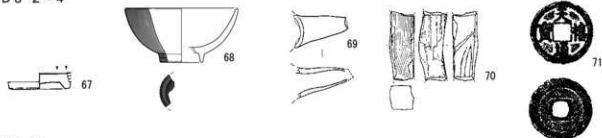


SD 2-18

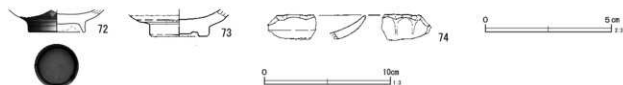


第179図 洞跡出土遺物(3)

SD3-2~4



SD3-8



第180回 溝跡出土遺物(4)

第15表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺跡	種別	器種	産地	焼台率 (%)	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	胎土	焼成	胎葉状態	成型技法	器縁-器底の曲	文様	備考
1	SD2-1	土器	燈檠		5			4.9	紅白・細密	普通					保存者少
2	SD2-4	磁器	小杯	肥前	50 (17.0)	(2.8)		3.5	灰白・細密	良好	灰胎	轆轤	腹り出し高台	雲文	見込小・砂粒付着 18C
3	SD2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	5			(2.1)	灰白・細密	良好	灰胎	轆轤	貫入多	梅樹文	18C後半～19C中葉
4	SD2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(8.6)		(3.6)	灰白・細密	良好	灰胎小	轆轤	貫入多	鉄絵	18C後半～19C中葉
5	SD2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(9.6)	(4.2)	5.3	灰高細密	良好	灰胎	轆轤	腹り出し高台 貫入多	梅樹	19C前半小
6	SD2-4	磁器	碗	肥前	30	(9.8)	(3.7)	(5.4)	灰白・細密	良好	灰胎	轆轤	貫入多	高台内(内)縁	くおわ小・中葉 18C中～後
7	SD2-4	磁器	碗	肥前	5	(4.2)	(2.2)		白・細密	良好	灰胎	轆轤	腹り出し高台	高台内一箇面 縁	18C前半～中心
8	SD2-4	磁器	碗	肥前	10			(6.2)	白・細密	良好	青磁胎	轆轤			青磁 17C後半
9	SD2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(8.4)	(2.8)	5.5	灰白・細密	良好	透明胎	轆轤	腹り出し高台 貫入多		18C後半
10	SD2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	35		(2.2)	(3.6)	灰高細密	良好	灰胎	轆轤	腹り出し高台		18C後半小
11	SD2-4	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.7)		(2.6)	灰・細密	良好	灰胎	轆轤			17C
12	SD2-4	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.6)		(1.7)	灰白	良好	灰胎	轆轤			17C
13	SD2-4	土器	燗燗小		75		5.6	(2.4)	紅白・粗	普通		轆轤			伝説具 砂粒付小
14	SD2-4	陶器	鉢鉢	丹波	5				紅白・粗密	普通	轆轤				節目了木/赤小 砂粒多
15	SD2-4	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(4.2)	灰白・細密	普通	轆轤				細砂粒
16	SD2-4	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(5.2)	灰白	普通	鉄胎	轆轤			節目了木/赤小 18C後半～19C後半 節目付減少
17	SD2-4	陶器	鉢鉢	常	25	(15.8)		(1.5)	紅白・赤濁	普通	模き跡あり	轆轤小少	笠部開台痕		節目了木/赤 18C代小
18	SD2-4	土器	鉢鉢	丹波	20	(16.6)		(5.8)	明褐色	良好	模き跡あり	轆轤小			節目了木/赤 節目中少 18C代小
19	SD2-4	土器	燈檠		5			(3.8)	灰白 細密・粗密	普通					節目微量 外面保存者
20	SD2-4	土器	燈檠		5			(3.5)	細密	普通					節目少 外面保存者
21	SD2-4	土器	燈檠		5			(4.5)	灰白・細密	普通					外面保存者
22	SD2-4	土器	燈檠		5			(4.5)	褐灰	普通					砂粒微量 外面保存者
23	SD2-4	石製品	砥石												長さ19.20cm 幅3.96cm 厚32.48cm 重さ146.6g
24	SD2-4	石製品	砥石												長さ10.36cm 幅4.95cm 厚32.73cm 重さ137.0g
25	SD2-4	金属製品	燗燗(燗首)		95	A6.1cm B1.7cm D1.3cm D'1.2cm									重量6.9g 銅合金
															【付属】欠損 小口一部欠損 欠損・小・縁

番号	造 橋	橋 型	部 種	産 地	残存率 (%)	口径 (cm)	長さ (cm)	重 量 (kg)	動 土	塊 状	物理試験	成型技法	登録・測定の 管 線	文 様	備 考
27	SD2-4	金属製品	横管(横首)		70	A1.3φ	31.0	D 0.9m 重量 0.9g	鋼合金						小口のみ残存 緑漆
28	SD2-5	陶器	碗	京・信楽	10		(4.0)	(3.7)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台 貫入多		18C末～19C初
29	SD2-5	陶器	碗	瀬戸・美濃	10	(9.6)	(3.0)	(5.3)	灰白	良好	灰焼	織織	磨り出し高台 貫入多(偏)		18C後半
29	SD2-5	磁器	碗	肥前	50		3.2	(3.5)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台		18C
30	SD2-5	磁器	碗	肥前	90		4.0	(2.5)	灰白 鉄密	良好	透明焼	織織	磨り出し高台		管付に砂粒付着 18C前～中
31	SD2-5	磁器	碗	肥前	20	(15.8)	(3.8)	7.5	灰白 鉄密 磨り出し	良好	灰焼	織織	磨り出し高台	外面部分 高 台内縁に黒 見込跡	管付に砂粒付着 18C前～中
32	SD2-5	磁器	皿	肥前	20	(11.5)		(2.5)	灰白 鉄密	良好	長石焼				17C代か
33	SD2-5	陶器	鉢	博多	5			(5.5)	赤陶	良好	焼き締め	輪割のみ			節目7本/条 赤紫に明脚 18 C前半
34	SD2-5	土器	焙烙		5			(4.6)	灰白 鉄密	普通					外面付着
35	SD2-5	土器	焙烙		10			(5.5)	灰白 鉄密	普通					外面付着少
36	SD2-5	土製品	土人形(器)	不明	90	縦径約4.6cm 横径約5.8cm			磨 り出し	普通	素焼				断面欠損
37	SD2-5	石製品	磁石						長さ4.911cm 縦2.56cm 厚0.255cm 重343.4g		安山岩				
38	SD2-7	陶器	皿小	瀬戸・美濃	15		(4.8)	(1.3)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台		18C代
39	SD2-7	陶器	皿小	瀬戸・美濃	10		(6.3)	(1.4)	灰白 鉄密	普通	灰焼	織織	磨り出し高台		高台内縁にノミ跡 砂粒散見 18 C代
40	SD2-10	陶器	碗	京・信楽	5			(2.7)	灰白	良好	灰焼	織織	貫入多		18C中
41	SD2-11	陶器	碗	瀬戸・美濃	15	(11.0)		(3.4)	灰白 鉄密	良好	鉄胎(赤)	織織	磨り出し高台		天目茶碗 17C後半か
42	SD2-11	陶器	鉢	瀬戸・美濃	5	(18.3)		(1.4)	灰白 鉄密	良好	長石焼	織織	磨り出し高台		17C初
43	SD2-11	土器	焙烙		5			(4.5)	黄灰陶密	普通					砂粒散見 外面付着
44	SD2-12	陶器	碗	肥前	10	(13.9)		(2.4)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	貫入多		18C代か
45	SD2-12	陶器	鉢	瀬戸・美濃	5			(4.1)	灰白陶土	普通	灰焼	織織			17C前半か
46	SD2-12	土器	かわらけ		5	(10.5)		(2.4)	磨 鉄密	普通		織織			
47	SD2-14	陶器	皿	瀬戸・美濃	40		(6.3)	(1.4)		良好	長石焼	織織	磨り出し高台 貫入多		志野茶碗 見込み内縁にノミ跡 付明脚に転用か 17C初
48	SD2-14	陶器	碗	肥前			(4.4)	(4.4)	灰白 鉄密	良好	鉄胎 透明焼	織織	磨り出し高台		17C後半～18C前半
49	SD2-14	陶器	鉢	丹波	10			(4.0)	灰白 鉄密	普通	鉄焼	織織			節目7本/条 17C後半～18C 中葉か
50	SD2-15	磁器	小杯	肥前	45	(7.3)	(2.4)	3.5	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台	斑文 器蓋	18C後半
51	SD2-15	磁器	碗	肥前	90		3.0	(2.5)	白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台		管付に砂粒付着 見込み目跡 18 C前半
52	SD2-15	磁器	碗	肥前	45		4.0	(2.7)	白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台		高台内縁 管付に砂粒付着 18C 前～中
53	SD2-15	磁器	碗	肥前	10		(4.1)	(2.2)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	磨り出し高台	高台縁に黄銅 線 高台内縁に 黄銅線	高台内縁に砂粒付着 18C 高台内 縁
54	SD2-15	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(9.8)		(3.8)	灰白 鉄密	良好	長石焼	織織	貫入多		17C後半～18C中葉か
55	SD2-15	陶器	流利	瀬戸・美濃	28	(4.7)		(2.5)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織			
56	SD2-15	陶器	皿	瀬戸・美濃	60		(6.0)	(1.9)	灰白 鉄密	良好	灰焼	織織	型打 付け高台		花押13 紫皿 17C後半か
57	SD2-15	陶器	皿小	瀬戸・美濃	10	(13.0)		(2.8)	灰白 鉄密	普通	灰焼	織織			17C後半か
58	SD2-15	陶器	鉢	瀬戸・美濃	5			(4.5)	灰白+褐	普通	鉄焼	織織			19C前半
59	SD2-15	陶器	鉢	丹波	5			(3.9)	灰白陶	普通	鉄焼	織織			17C後半～18C中葉か
60	SD2-15	陶器	鉢	博多	5			(5.3)	にじみ赤陶	良好	焼き締め	織織			
61	SD2-15	土器	かわらけ		10	(11.4)		(2.4)	磨+黄銅密	普通		織織			節目7本/条 左回転で黄文 18C中～後
62	SD2-18	磁器	碗	肥前	40		(4.0)	(3.8)	灰白	良好	灰焼	織織	磨り出し高台		見込み目跡 18C前～中

第2・3地点

番号	道積	種別	部種	産地	残存率(%)	口径(cm)	長さ(cm)	胴径(cm)	胎土	焼成	胎染状態	成型技法	細輪・胎筋の形状	文様	備考
63	SD-2-18	細頸	瓶	肥前	95	4.3	(2.7)	灰白	緻密	良好	灰胎	縦織	割り出し高台		割付けに鉄帯付着 18C代
64	SD-2-18	陶器	徳川・美濃	50		16.4)	(2.5)	灰	緻密	良好	灰胎	縦織			神谷窯産 19C
65	SD-2-18	陶器	徳川・美濃	5			(7.2)	浅黄	普通	普通	鉄胎	縦織			黒目12本/条 摩滅少19C前半
66	SD-2-18	陶器	徳川	10	(32.0)		(4.5)	にじみ橙	普通	焼き跡の					黒目4本/条 磨明で磨滅なし 19C中～後半
67	SD-2-4	陶器	徳川	75		(4.9)	(1.3)	灰白	良好	割跡胎	縦織	割り出し高台 見込目跡			見込肥の日輪割ぎ 17C後半 ～18C前半
68	SD-2-4	細頸	瓶	徳川・美濃	25	(9.0)	(3.4)	4.4	灰白	良好	透明胎	縦織	割り出し高台		高台内一環跡 19C前～中
69	SD-2-4	陶器	土敷	京・信楽か	5	1.0		4.0	浅黄	良好	透明胎				18C代か
70	SD-2-4	石製品	磁石			長さ5.5cm 幅2.6cm 厚31.3cm									重さ34.8g
71	SD-2-4	古銭	寛永通寶												
72	SD-3-8	細頸	瓶	肥前	90	4.2	(2.2)	灰白	緻密	良好	灰胎	縦織	割り出し高台		高台内一環跡 胎に鉄付着 17C後半
73	SD-3-8	陶器	徳川	10		4.4	(2.1)	浅黄	良好	鉄胎	縦織	割り出し高台			天目輪 19C代か
74	SD-1-8	陶器	瓶	徳川・美濃	5		(1.9)	灰黄	普通	灰石胎	縦織 割り出し				菊田 買入多 17C前半

(6) ビット (第181～185図)

ビットは268基検出された。ビットは、第2-1
～5号柵列に囲まれた範囲と、その西側の第2-3

号溝跡に沿って密集する。それ以外の地域は散漫
な分布であった。

第16表 ビット計測表

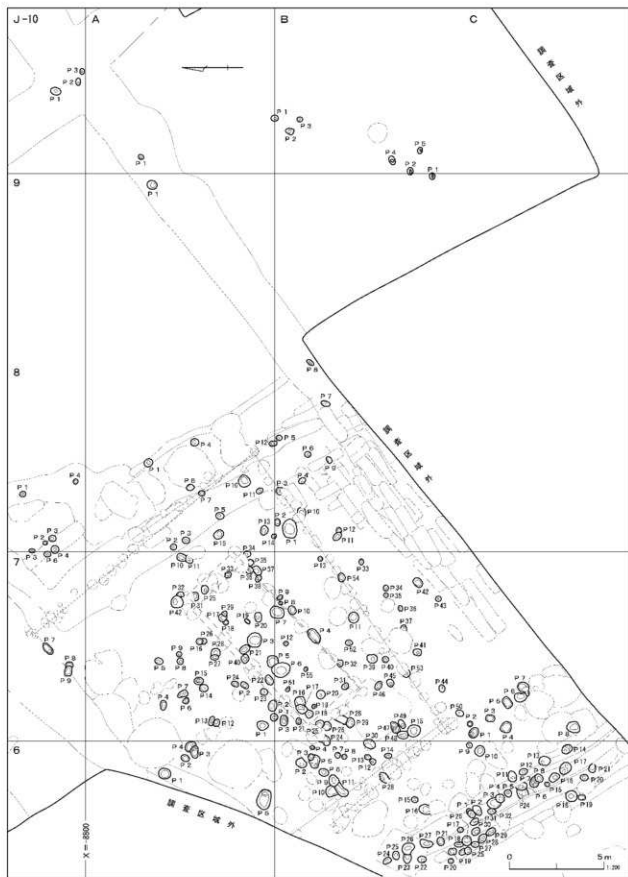
地点	グリッド	番号	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)
3	M5・G2	1	0.33	—	0.17	2	M6・I1	6	0.35	0.33	0.25
3	M5・G2	4	0.57	0.46	0.17	2	M6・I1	7	0.24	0.21	0.14
3	M5・H2	1	0.24	0.24	0.12	2	M6・I1	8	0.27	0.22	0.22
3	M5・H2	2	0.45	0.38	0.15	2	M6・I1	9	0.43	0.40	0.26
3	M5・H2	3	0.32	0.30	0.11	2	M6・I1	10	0.44	0.37	0.17
3	M5・H2	4	0.33	0.26	0.18	2	M6・I1	11	0.46	0.42	0.27
3	M5・I2	1	0.35	0.27	0.10	2	M6・G5	1	0.25	0.25	0.11
3	M5・I2	2	0.33	0.30	0.19	2	N6・D5	1	0.40	0.34	0.13
3	M5・I2	3	0.30	0.28	0.10	2	N6・D5	2	0.39	0.38	0.12
3	M5・I2	5	0.40	0.38	0.15	2	N6・D5	3	0.58	0.56	0.24
3	M5・J2	1	0.40	0.38	0.19	2	N6・D5	4	0.56	0.46	0.37
3	M5・J2	2	0.43	0.40	0.20	2	N6・E5	1	0.44	0.42	0.41
3	M5・J2	3	0.33	0.30	0.16	2	N6・E5	2	0.54	0.36	0.23
3	N5・A2	1	0.40	0.37	0.24	2	M6・H6	1	0.44	0.34	0.23
3	N5・A2	2	0.33	0.30	0.22	2	N6・A6	1	2.10	0.32	0.15
3	M5・G3	2	0.28	0.28	0.10	2	N6・A6	2	0.60	0.58	1.43
3	M5・G3	3	0.31	0.30	0.16	2	N6・A6	3	0.62	0.44	0.25
3	M5・H3	1	0.35	0.34	0.16	2	N6・A6	4	0.54	0.48	0.33
2	M6・I1	1	0.43	0.43	0.17	2	N6・A6	5	1.06	0.76	0.71
2	M6・I1	2	0.24	0.23	0.18	2	N6・B6	2	0.56	—	0.38
2	M6・I1	3	0.22	0.22	0.18	2	N6・B6	3	0.36	0.32	0.44
2	M6・I1	4	0.33	0.18	0.19	2	N6・B6	4	0.24	0.16	0.22
2	M6・I1	5	0.28	0.24	0.21	2	N6・B6	5	—	0.43	0.63

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6・B 6	6	0.44	0.38	0.17	2	N 6・C 6	22	0.39	0.36	0.33
2	N 6・B 6	7	0.26	0.22	0.22	2	N 6・C 6	23	0.56	0.50	0.21
2	N 6・B 6	8	0.28	0.26	0.22	2	N 6・C 6	24	—	0.62	0.24
2	N 6・B 6	9	0.68	0.50	0.31	2	N 6・C 6	25	0.64	0.32	0.25
2	N 6・B 6	10	—	0.62	0.20	2	N 6・C 6	26	0.46	0.38	0.15
2	N 6・B 6	11	—	0.28	0.22	2	N 6・C 6	27	0.34	0.39	0.27
2	N 6・B 6	12	0.32	0.28	0.18	2	N 6・C 6	28	0.53	0.33	0.39
2	N 6・B 6	13	0.30	0.22	0.26	2	N 6・C 6	29	0.52	0.35	0.24
2	N 6・B 6	14	0.42	0.30	0.15	2	N 6・C 6	30	0.46	0.34	0.27
2	N 6・B 6	15	0.36	0.36	0.11	2	N 6・C 6	31	0.48	0.34	0.84
2	N 6・B 6	16	—	0.50	0.16	2	N 6・C 6	32	0.41	0.30	0.31
2	N 6・B 6	17	0.32	0.30	0.20	2	N 6・D 6	1	0.34	0.34	0.18
2	N 6・B 6	18	0.54	0.30	0.22	2	N 6・D 6	2	0.35	0.26	0.20
2	N 6・B 6	19	0.48	0.44	0.32	2	N 6・D 6	3	0.34	0.30	0.24
2	N 6・B 6	20	0.28	0.26	0.31	2	N 6・D 6	4	0.58	0.56	0.33
2	N 6・B 6	21	0.42	0.42	0.37	2	N 6・E 6	1	0.30	0.24	0.48
2	N 6・B 6	22	0.30	0.28	0.39	2	N 6・E 6	2	0.30	0.24	0.36
2	N 6・B 6	23	—	0.44	0.31	2	N 6・F 6	1	0.46	0.26	0.72
2	N 6・B 6	24	0.44	0.26	0.44	2	N 6・F 6	2	0.52	0.30	0.60
2	N 6・B 6	25	0.48	0.40	0.58	2	N 6・F 6	3	0.33	0.30	0.37
2	N 6・B 6	26	0.64	0.50	0.72	2	N 6・F 6	4	0.42	0.29	0.37
2	N 6・B 6	27	0.64	0.44	0.32	2	N 6・F 6	5	0.41	0.40	0.41
2	N 6・B 6	28	—	0.42	0.51	2	N 6・G 6	1	0.44	0.40	0.12
2	N 6・C 6	1	0.60	—	0.54	2	M 6・J 7	3	0.24	0.24	0.05
2	N 6・C 6	2	0.58	0.46	0.78	2	M 6・J 7	4	0.34	0.34	0.18
2	N 6・C 6	3	—	0.60	0.34	2	M 6・J 7	6	0.40	0.28	0.20
2	N 6・C 6	4	0.46	0.38	0.67	2	M 6・J 7	7	0.68	0.28	0.26
2	N 6・C 6	5	0.40	0.32	0.36	2	M 6・J 7	8	0.56	0.44	0.25
2	N 6・C 6	6	0.66	0.42	0.56	2	M 6・J 7	9	0.44	—	0.19
2	N 6・C 6	7	—	0.52	0.44	2	N 6・A 7	1	0.54	0.44	0.17
2	N 6・C 6	8	0.48	0.39	0.54	2	N 6・A 7	2	0.44	0.28	0.38
2	N 6・C 6	9	0.26	0.24	0.17	2	N 6・A 7	3	0.76	0.76	0.49
2	N 6・C 6	10	0.58	0.54	0.26	2	N 6・A 7	4	0.54	0.34	0.39
2	N 6・C 6	11	0.66	0.42	0.94	2	N 6・A 7	5	0.44	0.36	0.36
2	N 6・C 6	12	0.40	0.34	0.42	2	N 6・A 7	6	0.32	0.26	0.17
2	N 6・C 6	13	0.56	0.56	0.92	2	N 6・A 7	7	0.56	0.38	0.31
2	N 6・C 6	14	0.57	0.44	1.01	2	N 6・A 7	8	0.32	0.32	0.24
2	N 6・C 6	15	0.22	0.19	0.22	2	N 6・A 7	9	0.34	0.26	0.32
2	N 6・C 6	16	0.56	0.40	0.53	2	N 6・A 7	10	0.44	0.34	0.23
2	N 6・C 6	17	0.64	0.57	0.64	2	N 6・A 7	11	0.34	0.28	0.35
2	N 6・C 6	18	0.60	0.56	0.16	2	N 6・A 7	12	0.40	0.38	0.21
2	N 6・C 6	19	0.35	0.32	0.31	2	N 6・A 7	13	0.46	0.28	0.36
2	N 6・C 6	20	0.38	0.35	0.12	2	N 6・A 7	14	0.46	0.38	0.28
2	N 6・C 6	21	—	0.37	0.39	2	N 6・A 7	15	0.44	0.40	0.26

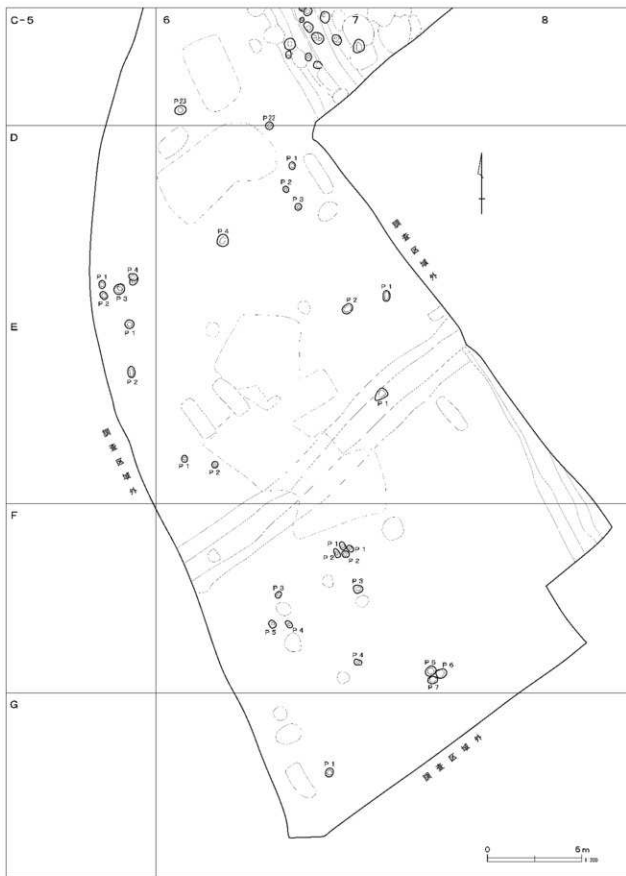
第2・3地点

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N6・A7	16	0.34	0.32	0.29
2	N6・A7	17	0.42	—	0.38
2	N6・A7	18	0.28	—	0.16
2	N6・A7	19	0.34	0.18	0.13
2	N6・A7	20	0.50	0.36	0.29
2	N6・A7	21	0.58	0.38	0.31
2	N6・A7	22	0.52	0.38	0.25
2	N6・A7	23	0.52	0.34	0.20
2	N6・A7	24	0.38	0.28	0.27
2	N6・A7	25	0.44	0.38	0.34
2	N6・A7	26	0.30	—	0.22
2	N6・A7	27	0.44	0.28	0.51
2	N6・A7	28	0.48	—	0.26
2	N6・A7	29	0.28	0.26	0.38
2	N6・A7	31	0.44	—	0.21
2	N6・A7	32	0.38	—	0.20
2	N6・A7	33	0.32	0.30	0.33
2	N6・A7	34	0.36	0.32	0.16
2	N6・A7	35	0.34	—	0.27
2	N6・A7	36	0.38	—	0.36
2	N6・A7	37	0.56	0.36	0.34
2	N6・A7	38	0.38	0.28	0.51
2	N6・A7	40	0.42	0.38	0.29
2	N6・A7	42	0.64	0.64	0.68
2	N6・B7	1	0.42	0.42	0.34
2	N6・B7	2	0.60	0.46	0.64
2	N6・B7	3	0.56	0.38	0.53
2	N6・B7	4	0.88	0.56	0.40
2	N6・B7	5	0.62	0.56	0.10
2	N6・B7	6	0.92	0.74	0.42
2	N6・B7	7	0.76	0.62	0.21
2	N6・B7	8	0.22	0.18	0.27
2	N6・B7	9	0.32	0.24	0.32
2	N6・B7	10	0.44	0.42	0.32
2	N6・B7	11	0.56	0.54	0.46
2	N6・B7	12	0.24	0.24	0.40
2	N6・B7	13	0.24	0.22	0.15
2	N6・B7	15	0.66	0.64	0.23
2	N6・B7	16	0.54	—	0.35
2	N6・B7	17	0.56	0.44	0.55
2	N6・B7	18	0.44	0.40	0.41
2	N6・B7	19	0.24	0.18	0.10
2	N6・B7	20	0.46	0.46	0.46
2	N6・B7	21	0.34	0.28	0.53

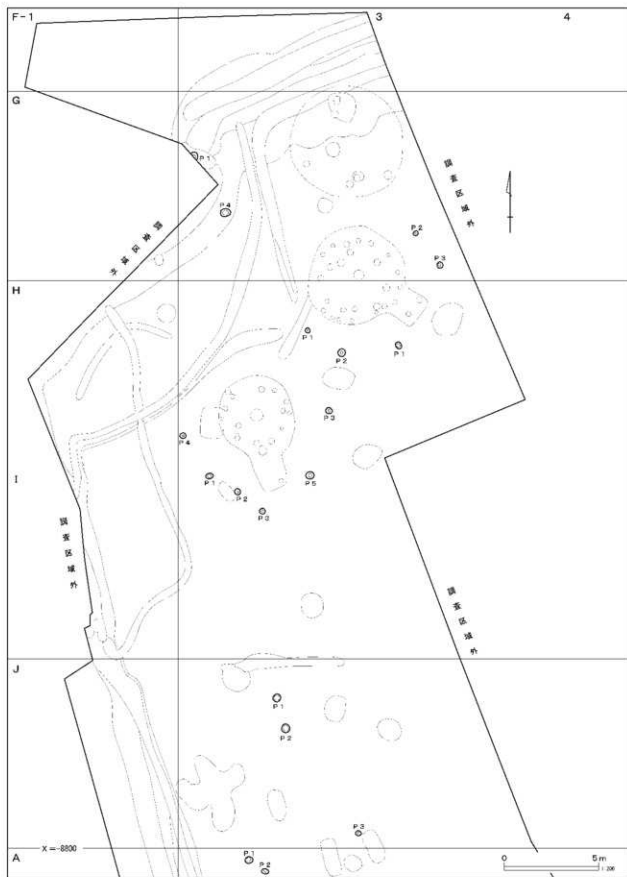
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N6・B7	24	—	0.44	0.02
2	N6・B7	25	0.46	—	0.60
2	N6・B7	26	0.44	—	0.55
2	N6・B7	28	—	0.40	0.40
2	N6・B7	29	0.52	0.42	0.66
2	N6・B7	30	0.64	0.46	0.62
2	N6・B7	31	0.40	0.28	0.48
2	N6・B7	32	0.36	0.32	0.16
2	N6・B7	33	0.30	0.28	0.18
2	N6・B7	34	0.30	0.26	0.28
2	N6・B7	35	0.20	0.18	0.09
2	N6・B7	36	0.28	0.28	0.21
2	N6・B7	37	0.34	0.24	0.16
2	N6・B7	39	0.54	0.44	0.77
2	N6・B7	40	0.34	0.32	0.41
2	N6・B7	41	0.50	0.36	0.45
2	N6・B7	42	0.64	0.42	0.14
2	N6・B7	43	0.26	0.22	0.15
2	N6・B7	44	0.36	0.30	0.27
2	N6・B7	45	0.42	0.32	0.30
2	N6・B7	46	0.44	0.34	0.44
2	N6・B7	47	0.65	0.34	0.44
2	N6・B7	48	0.60	0.43	0.27
2	N6・B7	49	0.46	0.30	0.34
2	N6・B7	50	0.43	0.32	0.33
2	N6・B7	51	0.27	0.21	0.27
2	N6・B7	52	0.37	0.31	0.16
2	N6・B7	53	0.42	—	0.41
2	N6・B7	54	0.44	0.34	0.42
2	N6・B7	55	0.24	0.24	0.25
2	N6・C7	1	0.56	0.46	0.24
2	N6・C7	2	0.32	0.30	0.22
2	N6・C7	3	0.50	0.42	0.43
2	N6・C7	4	0.59	0.50	0.23
2	N6・C7	5	0.52	0.36	0.32
2	N6・C7	6	0.63	0.45	0.44
2	N6・C7	7	0.83	0.50	0.72
2	N6・C7	8	0.72	0.57	0.31
2	N6・D7	1	0.56	0.36	0.14
2	N6・D7	2	0.58	0.43	0.19
2	N6・E7	1	0.63	0.46	0.32
2	N6・F7	1	0.42	0.38	1.01
2	N6・F7	2	0.39	0.34	0.70
2	N6・F7	3	0.56	0.46	0.31



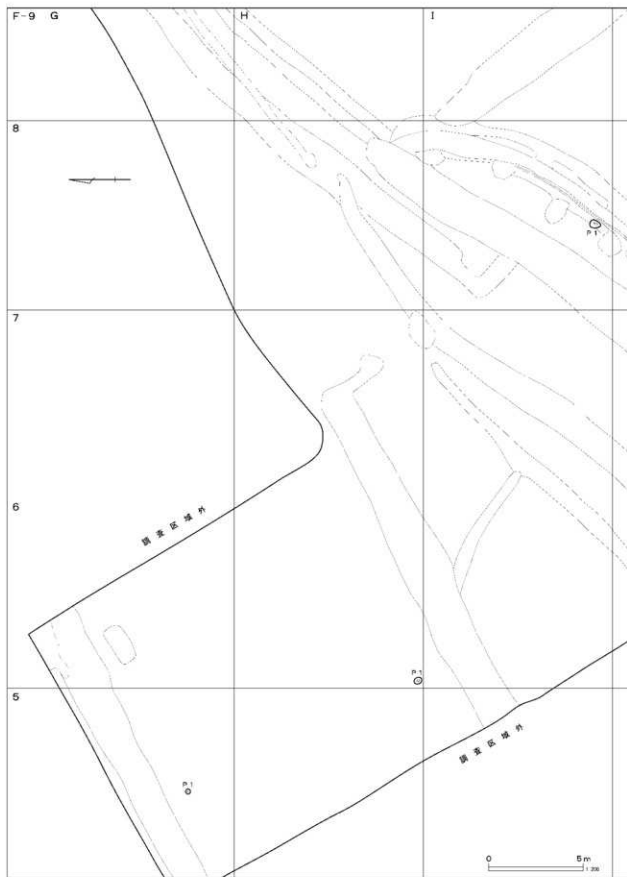
第181図 ビット(1)



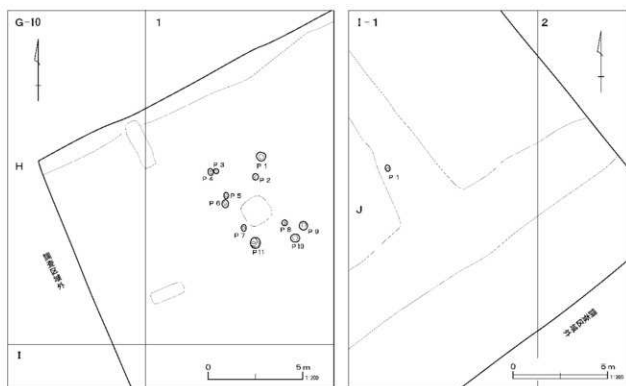
第182図 ピット (2)



第183図 ピット(3)

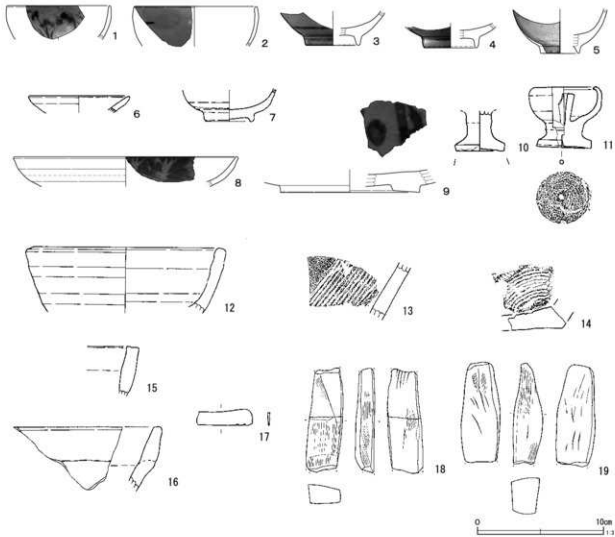


第184図 ピット (4)



第185図 ピット (5)

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6・F 7	4	0.38	0.29	0.13	2	N 6・B 8	3	0.38	0.38	0.24
2	N 6・F 7	5	0.57	0.48	0.25	2	N 6・B 8	4	0.40	0.29	0.66
2	N 6・F 7	6	0.56	0.52	0.16	2	N 6・B 8	5	0.32	0.29	0.21
2	N 6・F 7	7	0.50	0.38	0.24	2	N 6・B 8	6	0.31	0.30	0.52
2	M 6・I 8	1	0.56	0.32	0.26	2	N 6・B 8	7	0.50	0.28	0.21
2	M 6・J 8	1	0.30	0.28	0.69	2	N 6・B 8	8	0.41	0.24	0.76
2	M 6・J 8	2	0.26	0.24	0.34	2	N 6・B 8	9	0.38	0.26	0.42
2	M 6・J 8	3	0.34	0.30	0.25	2	N 6・B 8	10	0.46	—	0.22
2	M 6・J 8	4	0.30	0.26	0.32	2	N 6・B 8	11	0.54	0.30	0.54
2	N 6・A 8	1	0.46	0.42	0.26	2	N 6・B 8	12	—	0.25	0.28
2	N 6・A 8	2	0.32	0.30	0.50	2	N 6・A 9	1	0.50	0.46	0.36
2	N 6・A 8	3	0.40	0.34	0.42	2	N 6・B 9	1	0.31	0.14	0.23
2	N 6・A 8	4	0.36	0.36	0.29	2	N 6・B 9	2	0.37	0.31	0.29
2	N 6・A 8	5	0.40	0.38	0.33	2	M 6・J 10	1	0.46	0.38	0.71
2	N 6・A 8	6	0.40	0.32	0.13	2	M 6・J 10	2	0.34	0.30	0.18
2	N 6・A 8	7	0.28	0.24	0.38	2	M 6・J 10	3	0.24	0.18	0.22
2	N 6・A 8	10	0.54	0.52	0.20	2	N 6・A 10	1	0.28	0.24	0.40
2	N 6・A 8	11	0.32	0.24	0.10	2	N 6・B 10	1	0.31	0.27	0.22
2	N 6・A 8	12	0.30	0.22	0.11	2	N 6・B 10	2	0.41	0.34	0.32
2	N 6・A 8	13	0.56	0.44	0.77	2	N 6・B 10	3	0.27	0.25	0.18
2	N 6・A 8	14	0.24	0.24	0.05	2	N 6・B 10	4	0.44	0.33	0.14
2	N 6・A 8	15	0.50	0.40	0.03	2	N 6・B 10	5	0.28	0.24	0.25
2	N 6・B 8	1	0.93	0.76	0.62	2	M 7・I 1	1	0.24	0.22	0.40
2	N 6・B 8	2	0.34	0.30	0.30						



第186図 グリッド出土遺物

第17表 グリッド出土遺物観察表

番号	種別	器種	産地	焼成率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成 物産状態	成型技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	磁器	碗	肥前	15	(8.2)		(2.7)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	鉄絵		二次的割熟6、18C前半
2	陶器	碗	京・信楽	10	(9.0)		(3.3)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	鉄絵	貫入多	18C
3	磁器	碗	肥前	40		(4.4)	(2.8)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	雨打出し高台		高台内に砂粒付着 18C前半
4	磁器	碗	肥前	30		(4.2)	(2.0)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	雨打出し高台	貫入多	18C
5	磁器	碗	肥前	20		(3.1)	(3.5)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	雨打出し高台		二次的割熟6、18C
6	土器	かわらけ		5	(7.9)			(1.4)	灰白・骨 普通		轆轤		
7	陶器	碗	瀬戸・美濃	80		3.8	2.5	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤	雨打出し高台	貫入多	18C
8	陶器	皿	肥前	5	(18.0)		(2.4)	灰白・赤 粗粒	透す釉 白化土	轆轤			内腹打眼目付 17C末～18C前半
9	陶器	皿	瀬戸・美濃	5				(1.2)	灰白 粗粒	轆轤・透す 釉白化土	轆轤	雨打出し高台	貫入多 右皿 19C前半
10	磁器	仏飯具6		85		3.8	(3.2)	灰白 緻密 良好	灰釉	轆轤			18C前半
11	陶器	燗瓶	瀬戸・美濃	95	4.8	4.3	4.8	灰白 緻密 良好	鉄釉	刷付			たんころ 底部に輪孔径6.3cm 18C末 ～19C初
12	土器	碗		40	(14.8)			(5.1)	骨 緻密 普通		轆轤		砂粒散在 火入れか
13	陶器	磁鉢	瀬戸・美濃	5				(4.5)	灰白 緻密 良好	鉄釉			黒目割減 18C
14	陶器	磁鉢	瀬戸・美濃	5				(1.7)	滑粒 微砂粒	鉄釉	轆轤		黒目割減 18C

番号	種別	器種	産地	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 習	文様	備	考	
15	土器	姉結		5			(3.9)	灰陶	普通							
16	土器	姉結		5			(3.0)	灰陶	普通							スス付着
17	鉄製品	小柄			A 4.4cm B 1.3cm C 0.3cm 長さ3.9g											緑錆
18	石製品	碓石			長さ17.925cm 幅1.55cm 厚さ1.51cm 重さ48.8g 安山岩											
19	石製品	碓石			長さ17.725cm 幅1.26cm 厚さ2.98cm 重さ72.8g 安山岩											

VI 第4・6地点の遺構と遺物

1. 概要

第4・6地点は遺跡範囲の北西部、一般国道16号バイパスの北側に位置している。発掘調査は、第4地点は第2次調査、第6地点は第3次調査である。大木戸遺跡の範囲は南北約480m、東西約580mと広く、標高は東側が高く西側に向かって緩やかに低くなっている。調査区の西側は、滝沼川との標高差が約3～4mあり、そのまま荒川に向かって低地が広がっている。

北側の谷は、現在埼玉栄高校の校舎とグラウンドになっている。谷を挟んで台地は、駱駝の瘤のように西側と東側で北側に張り出している。第4・6地点はその西側の張出部分に当たる。

発掘調査前の状況は、陸田と畑地であった。

旧石器時代は、第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）で第4・6地点に隣接する地点で石器集中が検出されており、本調査区においても、検出される可能性が高いと想定した。調査の結果、石器集中1箇所が検出されたが、出土点数が少なく、定型的な石器が出土しなかったため、所属時期等の細かい検討はできなかった。

縄文時代は、第4地点を中心に後世の遺構覆土中から土器片等が多数出土した。遺構は住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土壇35基が検出された。住居跡は、遺存状態は悪く柱穴のみの検出であった。掘立柱建物跡は、柱穴の覆土が暗褐色土を呈し、近世の掘立柱建物跡とは区別された。

第6地点は、住居跡3軒が検出されたが跡のみで、遺物は殆ど出土しなかった。

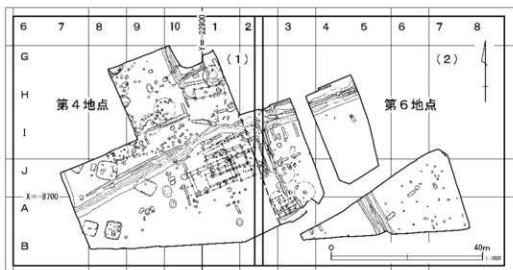
土壇は第4-3・10・19・31・37号土壇から完形に近い土器が出土している。

弥生時代は、第4地点から住居跡が11軒検出された。住居跡は調査区の西側に密集し、第6地点からは弥生時代の住居跡は確認されなかった。しかし、第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）で、第6地点の南側部分から住居跡1軒が検出されおり、住居跡のまとまりが幾つかあった可能性が高い。

住居跡は、調査区外に延びるものや、後世の溝跡等によって一部壊されているものが多く、完全に調査できたのは2軒のみである。住居跡の形状は、コーナーがやや丸くなる方形及び長方形で4本柱が基本であったと思われる。貯蔵穴は、東壁に位置するのが第4-1・2号住居跡、南東に位置するのが第4-10号住居跡である。また、壁面に近くから入り口部敷設に関連すると考えられる、小穴が検出されたのは、第4-1・2・4・6・9・10号住居跡である。その内、第4-1・2・10号住居跡は貯蔵穴の近くにあり、蓋然性が高いと思われるが、第4-6号住居跡に関しては、他の住居跡と主軸方位が異なり、検討の必要がある。

近世は、第1・5・7地点と同じく、台地の張出部を切り取るように、溝跡が東西方向に掘られている。

掘立柱建物跡群は、東西方向に走る大溝がくの字状に曲がる部分に位置し、何回かの建て替えが行われていたことが窺える。柵列が伴っている。



第187图 第4・6地点全体图(1)



第188图 第4・6地点全体图(2)

2. 旧石器時代

旧石器時代の調査は、東西ラインを意識して、2×2mの小グリッドを調査区の北側に2箇所、南側に4箇所設定し、ローム層を掘り下げ調査を行った。

その結果、L6・J1、M6・A1、A2グリッドから石器集中1箇所を検出した。

ローム層の堆積状況は、ほぼ平坦である。第III層のソフトローム化は第V層第1暗色帯上部まで達しているが、第IV層はブロック状に確認することができる。第VI層を確認することができた。大木戸遺跡で第VI層の分離が可能な地点は少なく、最も標準層位に対比できる地点である。第2暗色帯は上下に分離することができた。

第4-1石器集中 (第190図、第192図)

遺物はM6・A1グリッドを主体にM6・A2、

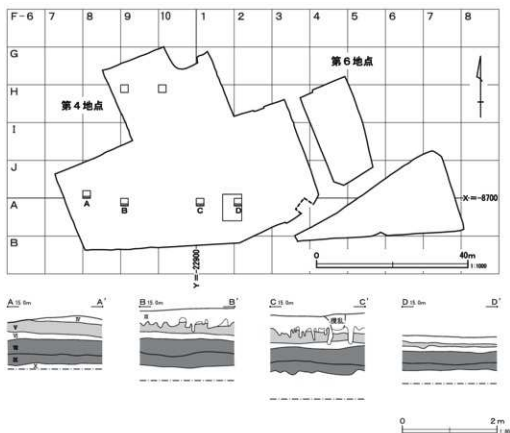
L6・J1グリッドにかけて、南北4.5m、東西3.5mの範囲に散漫に分布している。

石器点数は17点で、器種組成は掻・削器2点、石核1点、剥片4点、砕片9点である。石器石材は黒曜石が主体で10点、60%を占め、ガラス質黒色安山岩、硬質頁岩等が使われている。

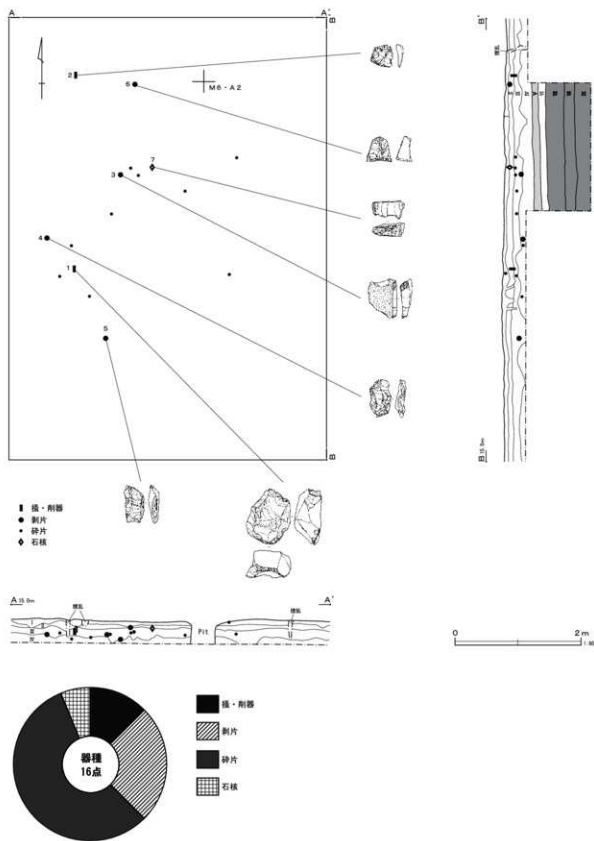
石器の出土層位は第III層から第IV層上面にかけてである。定型石器は少なく時期を特定できる資料は少ないが、1の硬質頁岩の掻器からナイフ形石器以降の、旧石器時代終末期の石器群と思われる。

出土石器 (第192図)

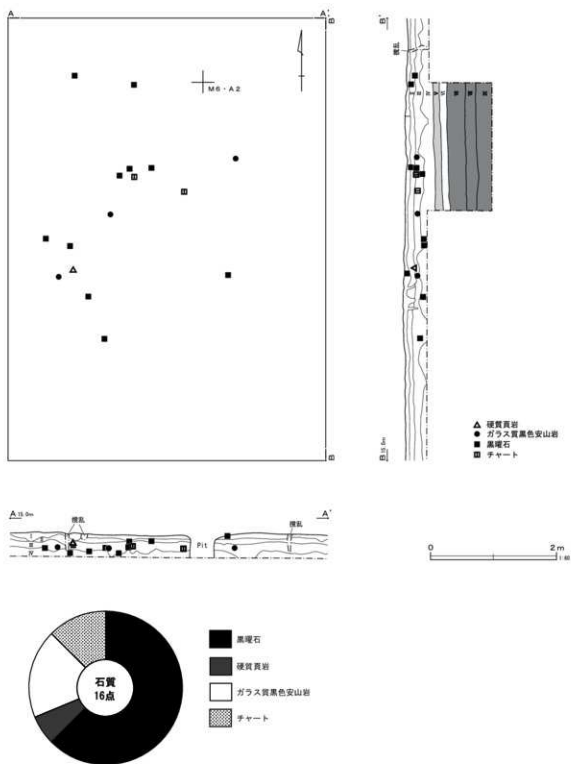
1は掻器である。外形は楕円形を呈し、横断面は台形である。刃部は下端を円弧状に、比較的細かい剝離加工が施され、下面からは丸盤状に緩やかに湾曲している。石器石材は、暗灰黄色に縞状



第189図 第4・6地点旧石器調査区



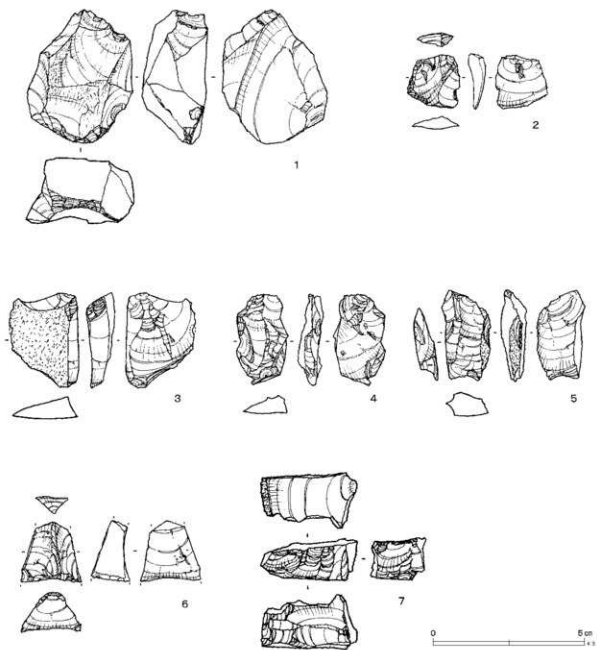
第190图 第4-1号石器集中(1)



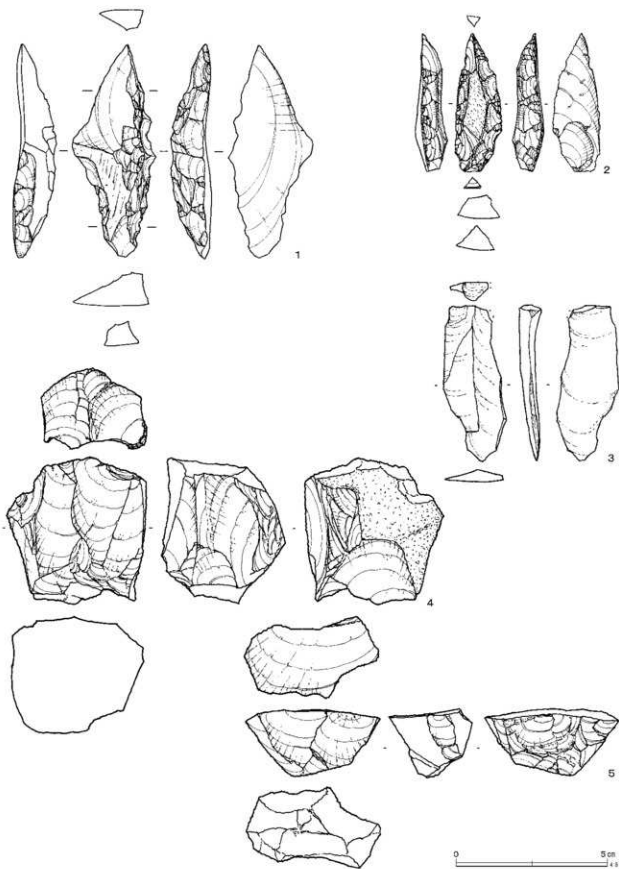
第191図 第4-1号石器集中(2)

に浅黄色が入る硬質頁岩が用いられている。石器の素材は厚手剥片であるが、正面及び側面の剝離面の状況から、石核利用の掻器と考えられる。正面の剝離面と右側面の剝離面が漸しく前後関係は

明らかでないが、左側面を打面に、右側縁を作業面にする小口状の石核を意図していたと思われるが、思うような剝離は取れなかったようで、打面から1cm未満のところでステップフレーキングを



第192图 第4-1号石器集中出土遗物



第193図 グリッド出土石器

おこし石核としては諦め、搦器へ加工したと思われる。

2は小形横広剥片の一端に細かい調整加工が施されおり、削器として分類した。打面が厚く端部はフィンジを起こしている。

3～6は黒耀石の剥片である。3は正面に大きく自然面を残している。4と5は打面が潰れており、6は上半部を欠損している。いずれも剥片剥離の時点で破損と思われ、形状の整った剥片は作出されていなかったと思われる。

7は小形の石核と考えられる。上面の剥離面は凹面で、そこを打面に正面を作業面とし小形の剥片を何枚か剥がしている。

グリッド出土石器 (第193図)

1はナイフ形石器である。外形は切出状を呈し、素材は厚手横長剥片を右位に用いており、右刃である。横断面は、上半部は直角三角形直角、基部付近は台形状である。

右側縁の調整加工は、基端から先端まで急角度の規格的剥離が施されており、基部中央部で一部

対向剥離が施されている。側刃縁は右側縁よりひと回り小さい規格的剥離が施されている。

2は角錐状石器である。外形は両側縁が弧状を描き、細身で先端が鋭利な先端状を呈する。素材剥片は基部右側を打面とした厚手の剥片が用いられ、正面中央部に自然面を大きく残している。調整加工は両側縁とも急角度の規格的剥離で打面を除去し、横断面も台形状にしている。石器石材は良質の黒耀石が使われている。

3は縦長剥片である。風化が進んでおり細部は不明である。第6地点から出土した。

4・5はガラス質黒色安山岩の石核である。4は上面を単打面とし、正面の作業面の状況から幅広い縦長剥片を作出していたと思われる。5は分割面を打面とし、側縁から小形の幅広剥片を作出していたと思われる。石核の単独資料で、旧石器時代か縄文時代か判別は難しいが、第1次調査区でガラス質黒色安山岩を用いた旧石器時代の石器群が検出されており、何らかの関連性が想定される。

第18表 第4-1号石器集中・グリッド出土石器観察表

No	遺構名	グリッド	遺物 番号	北-南 (m)	西-東 (m)	標高 (m)	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	図R/Ni
1	4-1 石器集中	M6・A・1	17	2.96	8.00	14.61	Ⅲ	搦器	硬質頁岩	4.39	3.34	1.81	29.10	192-1
2	4-1 石器集中	M6・A・1	3	9.92	8.00	14.57	Ⅲ	削器	黒耀石	1.75	1.70	0.55	1.20	192-2
3	4-1 石器集中	M6・A・1	5	1.48	8.71	14.47	Ⅲ	剥片	黒耀石	3.15	2.40	0.85	4.90	192-3
4	4-1 石器集中	M6・A・1	13	2.50	7.57	14.45	Ⅲ	剥片	黒耀石	1.70	1.70	0.70	3.40	192-4
5	4-1 石器集中	M6・A・1	19	4.05	8.50	14.52	Ⅲ	剥片	黒耀石	2.85	(1.55)	0.80	3.70	192-5
6	4-1 石器集中	M6・A・1	2	0.05	8.93	14.64	Ⅲ	剥片	黒耀石	(1.80)	(2.00)	1.25	3.30	192-6
7	4-1 石器集中	M6・A・1	8	1.37	9.22	14.64	Ⅲ	石核	黒耀石	2.50	1.40	0.95	3.70	192-7
8	4-1 石器集中	M6・A・1	6	1.38	8.87	14.56	Ⅲ	砂片	黒耀石	2.25	1.50	0.50	1.30	
9	4-1 石器集中	M6・A・1	7	1.49	8.99	14.56	Ⅲ	砂片	チャート	(2.00)	0.90	0.35	0.60	
10	4-1 石器集中	M6・A・1	9	1.73	9.72	14.53	Ⅲ	砂片	チャート	(2.05)	0.95	0.65	1.30	
11	4-1 石器集中	M6・A・1	10	1.20	0.53	14.55	Ⅲ	砂片	ガラス質黒色安山岩	2.30	1.40	0.30	0.70	
12	4-1 石器集中	M6・A・1	14	2.60	7.95	14.44	Ⅲ	砂片	黒耀石	1.70	1.70	0.30	0.40	
13	4-1 石器集中	M6・A・1	15	2.11	8.57	14.53	Ⅲ	砂片	ガラス質黒色安山岩	2.50	1.10	0.75	1.50	
14	4-1 石器集中	M6・A・1	16	3.08	7.78	14.55	Ⅲ	砂片	ガラス質黒色安山岩	1.00	1.50	0.70	0.60	
15	4-1 石器集中	M6・A・1	18	3.40	8.25	14.48	Ⅲ	砂片	黒耀石	1.05	2.10	0.85	1.00	
16	4-1 石器集中	M6・A・1	20	3.03	0.42	14.72	Ⅲ	砂片	黒耀石	1.90	1.60	0.65	1.40	
17		L6・J・5	30					ナイフ形 石器	黒色頁岩	6.97	2.61	1.05	14.10	193-1
18	SD1							角錐状 石器	黒耀石	4.55	1.55	1.05	6.00	193-2
19		L6・J・4	2					剥片	黒色頁岩	5.15	2.10	0.70	4.90	193-3
20	SD1							石核	ガラス質黒色安山岩	4.80	4.60	4.15	114.30	193-4
21	SD1							石核	ガラス質黒色安山岩	2.20	4.45	2.80	22.70	193-5

3. 縄文時代

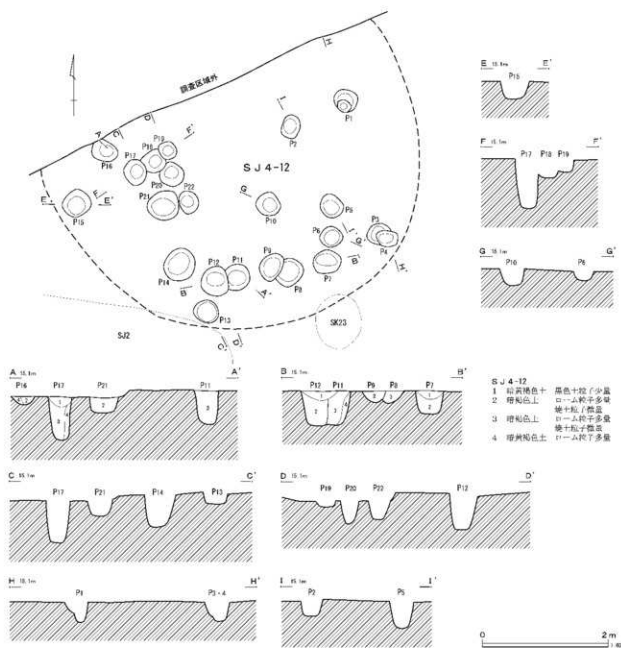
第4・6地点からは、縄文時代後期の住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土壇35基、縄文時代の集石土壇1基が検出された。

遺構の多くは調査区の北西側で検出され、その周辺の弥生時代の遺構や、近世の第4-1号溝跡内からも、縄文時代後期の遺物が多量に検出されていることから、縄文時代の遺構の範囲は第4地点の北西方向に続いていると考えられる。

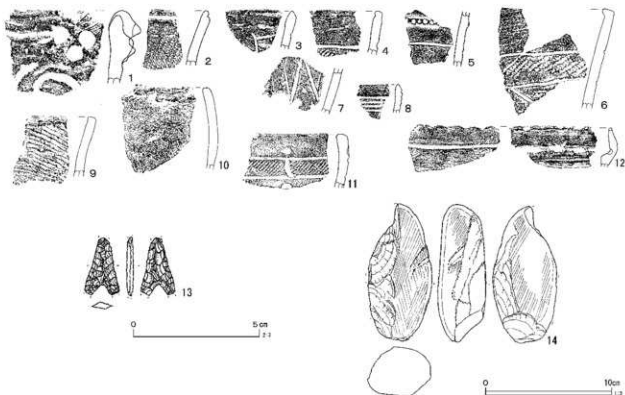
(1) 住居跡

第4-12号住居跡 (第194・195図)

L5・I8、9、J8グリッドに位置する。住居跡の北側3分の1程度が、調査区域外となり検出されなかった。住居跡の南側の一部で、弥生時代の第4-2号住居跡、第4-23号土壇と重複している。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は出土した遺物の時期から橢圓形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。



第194図 第4-12号住居跡



第195図 第4-12号住居跡出土遺物

ピットの配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径5.90m、短径3.90mを測る。

ピットは、22本が検出された。深さはP1=0.30m、P2=0.25m、P3=0.22m、P4=0.30m、P5=0.43m、P6=0.14m、P7=0.35m、P8=0.20m、P9=0.20m、P10=0.27m、P11=0.54m、P12=0.55m、P13=0.15m、P14=0.55m、P15=0.28m、P16=0.13m、P17=0.67m、P18=0.18m、P19=0.10m、P20=0.35m、P21=0.25m、P22=0.30mである。

遺物は縄文土器、石器が出土している(第195図1~14)。

土器は後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B1式が出土した。

1~3は堀之内1式の深鉢形土器である。1は口縁部に1条沈線、円文を施し、体部は地文縄文上に沈線を施す。2も口縁部に1条沈線を施し、

沈線下に縄文を施す。3は沈線文を施す。

4~6は朝顔形の深鉢形土器である。4、6は口縁部に隆帯を施さない。5は横位の隆帯を巡らせた口縁部近くの破片である。堀之内2式。

7は格子目文を施す深鉢形土器の胴部破片である。加曾利B1式である。

8、11は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に並行沈線を施す。加曾利B1式である。

9は器面全体に縄文、10は無文の深鉢形土器である。9・10は堀之内式と思われる。

12は浅鉢形土器で、口縁部を小波状とし、外面に横線が廻り内面に円文を施す。加曾利B1式である。

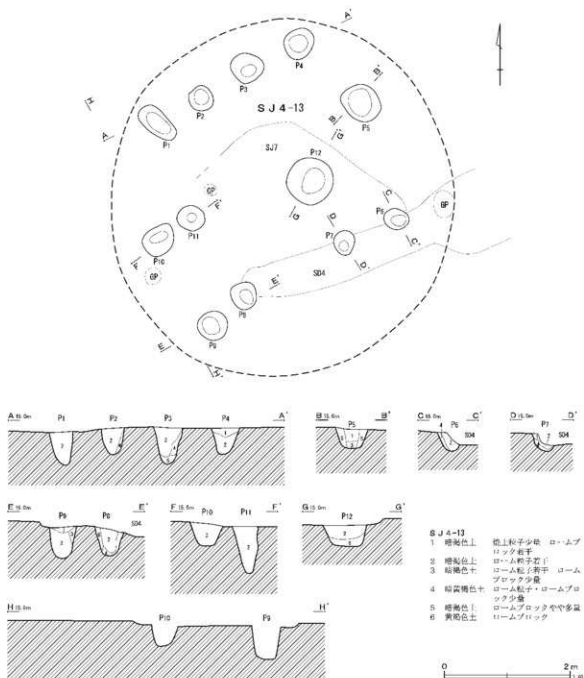
13・14は出土した石器である。13は無茎の石鏃で、基部には逆V字状に大きく抉りが入っている。14は敲石である。石器の周縁部分に敲打痕が認められる。

第4-13号住居跡 (第196・197図)

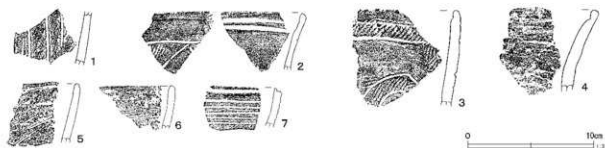
L5・H、I9グリッドに位置する。北東部分で第4-14号住居跡と接している。また弥生時代の第4-7号住居跡と大きく重複し、住居跡内南側には、近世の第4-4号溝跡が東西方向に横断している。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は、出土した遺物の時期から柄鏡

形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。ピットの配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径5.70m、短径5.55mを測る。

ピットは、12本が検出された。深さはP1=0.55m、P2=0.43m、P3=0.57m、P4=0.39m、P5=0.30m、P6=0.31m、P7=0.28m、



第196図 第4-13号住居跡



第197図 第4-13号住居跡出土遺物

P 8 = 0.50m, P 9 = 0.55m, P 10 = 0.35m, P 11 = 0.75m, P 12 = 0.38mである。

遺物は縄文時代後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B 1式土器が出土している(第197図1~7)。

1は沈線文を施した深鉢形土器の胴部破片である。堀之内1式と思われる。

2は朝顔形の深鉢形土器で、沈線内に縄文を充填施文する。口縁部内面に2条の沈線が巡る。3は直立気味にたちあがる形態の深鉢形土器である。沈線間に縄文を充填施文する。体部には曲線的なモチーフを施す。4は口縁部が外反する形態の深鉢形土器である。無文である。2~4は堀之内2式である。

5は擦痕、6は楕円状工具による文様を施す深鉢形土器である。堀之内式と思われる。

7は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に多条の並行沈線を施す。縄文を施文する。加曾利B 1式である。

第4-14号住居跡(第198・199図)

L 5・H 9、10グリッドに位置する。住居跡の南西側には、第4-13号住居跡が接して検出されている。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は出土した遺物の時期から柄鏡形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。

ピットの配置から主体部分は円形と推定され

る。推定される主体部の規模は、長径5.85m、短径5.65mを測る。

ピットは、15本が検出された。深さはP 1 = 0.20m, P 2 = 1.05m, P 3 = 0.63m, P 4 = 0.40m, P 5 = 0.49m, P 6 = 0.15m, P 7 = 0.60m, P 8 = 0.48m, P 9 = 0.47m, P 10 = 0.90m, P 11 = 0.45m, P 12 = 0.20m, P 13 = 0.39m, P 14 = 0.44m, P 15 = 0.27mである。

出土遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内式が出土している(第199図1~8)。

1は深鉢形土器の口縁部破片で、3条の沈線下に縄文を施す。2は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

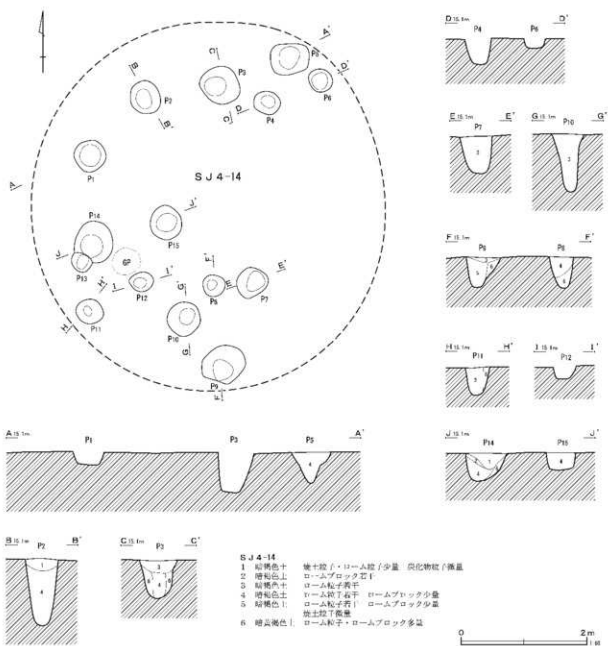
3~7は朝顔形の深鉢形土器である。

3~6は口縁部の破片である。3は口縁部に隆帯を施さない土器で、体部には沈線間に縄文を充填施文する。内面に1条の沈線が巡る。4は口縁部に隆帯が巡り、突起・8の字状貼付を施す。突起内面には渦巻文を施す。体部には2条沈線間に縄文を充填施文する。5は口縁部に隆帯、内面に1条の沈線が巡り、体部には沈線間に縄文を充填施文する。6は突起部の破片である。楕円形の文様を施す。

7は胴部破片である。横線・斜沈線間に縄文を充填施文する。

8は内面に横線・点列を施す。

1・2は堀之内1式、3~8は堀之内2式と思われる。



第198図 第4-14号住居跡



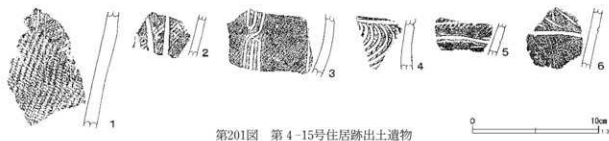
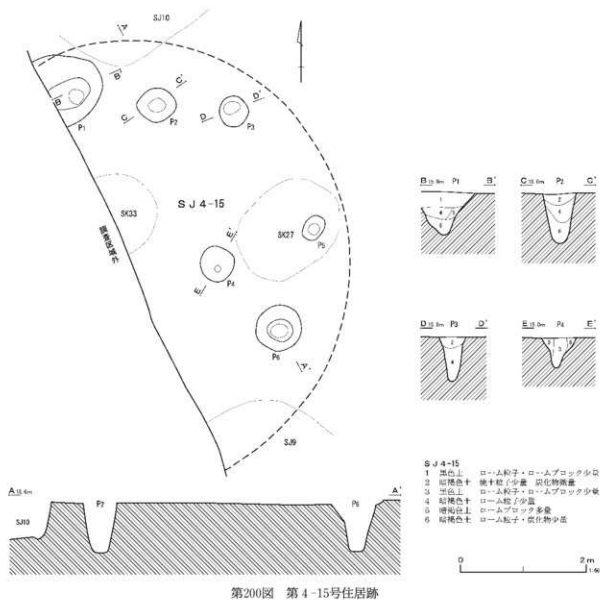
第199図 第4-14号住居跡出土遺物

第4-15号住居跡 (第200・201図)

L5・G8、9、H8、9グリッドに位置する。住居跡の西側半分は、調査区域外のため確認することができなかった。また住居跡の北側の一部が弥生時代の住居跡である第4-10号住居跡、南側

の一部が第4-9号住居跡と重複している。住居跡内からは、第4-27、33号土壌が重複して検出された。

平面形は出土した遺物の時期から椀鏡形と考えられるが張出部分は確認できなかった。ピットの



配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径7.05m、短径3.50mを測る。

ピットは、6本が検出された。深さはP 1=0.67m、P 2=0.80m、P 3=0.73m、P 4=0.50m、P 5=1.18m、P 6=0.75mである。

遺物は縄文時代後期前葉の堀之内式が出土している（第201図1～6）。

1は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

2～4は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。2は直線的に推移する胴部の破片で、縦位の沈線を施す。3は丸みを帯びた形態の胴部破片で、縦位の沈線を蛇行させながらモチーフを施す。4は横線下に多条の曲線的な沈線を施す。

5・6は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。縄文を施文する。

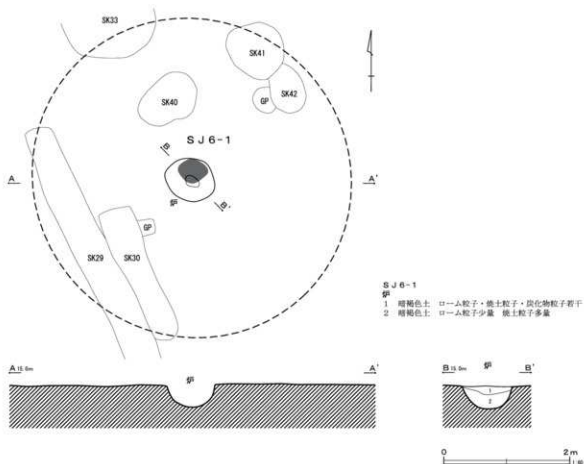
1～4は堀之内1式、5・6は堀之内2式と思われる。

第6-1号住居跡（第202図）

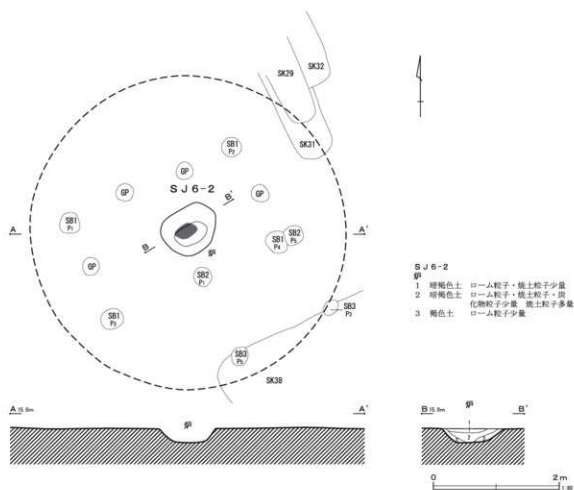
L 6・J 2、3グリッドに位置する。

住居跡は縄文時代以降の、複数の土壇やグリッドピット、溝跡と重複しており、炉跡のみが検出され、掘り込みや住居跡に伴うピットなどは検出することができなかった。炉跡からは遺物は検出されなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。

炉跡からは、多量に焼土が検出されている。炉跡の規模は、長径0.80m、短径0.70m、深さ0.35mを測る。



第202図 第6-1号住居跡



第203図 第6-2号住居跡

第6-2号住居跡 (第203図)

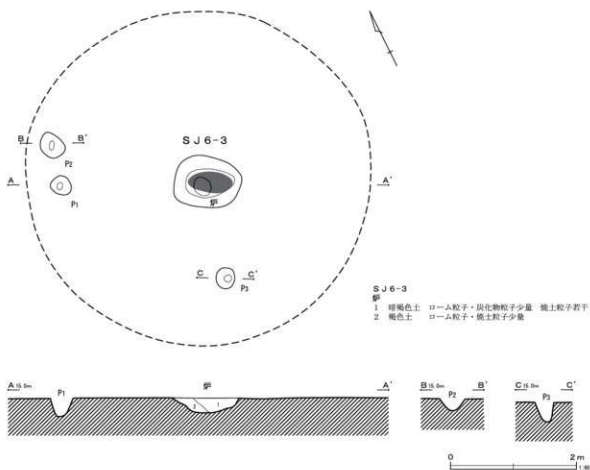
L6・J2、3、M6・A2、3グリッドに、位置する。住居跡は縄文時代以降の複数の掘立柱建物跡や土壇、ピットなどと重複し、炉跡は検出することができたが、掘り込みやピットなどは確認することができなかった。炉跡からは遺物は出土しなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。

炉跡内からは、多量に焼土が検出されている。炉跡の規模は、長径0.90m、短径0.75m、深さ0.20mを測る。

第6-3号住居跡 (第204図)

L6・J3、M6・A3グリッドに位置する。住居跡に伴う遺物は検出されなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。また掘り込みは確認することができなかった。検出された炉跡とピットの配置から、推定される主体部の規模は、径5.50mを測る。

炉跡は、主体部の中央付近に位置するものと思われ、規模は長径1.50m、短径0.80m、深さ0.25mを測る。ピットは、3本が検出された。深さはP1=0.30m、P2=0.20m、P3=0.30mである。



第204図 第6-3号住居跡

(2) 掘立柱建物跡

第6-8号掘立柱建物跡 (第205図)

L 6・G10、H10グリッドに位置する。周辺からは近世の掘立柱建物跡も検出されているが、他の遺構との切り合い関係や、ピット内の覆土が他の縄文時代の遺構の覆土と同様であったことから、縄文時代の掘立柱建物跡とした。

ピットは8本検出されたが、東側が調査区域外となり、建物跡の全容は不明である。ピットは長方形に並んでおり、長軸方向のP 4とP 7のピットを中心を結んだ距離は、6.75m、短軸方向のP 1とP 7のピットを中心を結んだ距離は、3.00mである。建物跡の長軸方向を主軸とすれば、

N-48°-Eである。

検出されたピットの平面形はほぼ円形をしている。各ピットの規模は、P 1は長径0.45m、短径0.45m、深さ0.43mである。P 2は長径0.58m、短径0.53m、深さ0.90mである。P 3は長径0.60m、短径0.55m、深さ0.58mである。P 4は長径0.43m、短径0.38m、深さ0.43mである。P 5は長径0.48m、短径0.43m、深さ0.85mである。P 6は長径0.45m、短径0.45m、深さ0.46mである。P 7は長径0.62m、短径0.55m、深さ0.80mである。P 8は長径0.51m、短径0.50m、深さ0.60mである。

遺物は出土しなかった。

(2) 土壌

第4-1号土壌 (第206図・第210図1・2)

L5・J10グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は円形で、長径1.05m、短径1.00m、深さは1.30mである。

遺物は縄文土器が少量出土した。第210図1・2は深鉢形土器の胴部破片である。1は地文縄文上に沈線を施す。2は沈線のみを施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-2号土壌 (第206図・第210図3~6)

L5・J8グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径1.04m、深さは0.47mである。

第210図3~6は出土した遺物である。3・4は深鉢形土器の口縁部である。3は地文縄文上に円文、曲線的な沈線を施す。4は外反する口縁部破片である。1条沈線が巡り、沈線以下を無文とする。5・6は深鉢形土器の胴部破片である。5は地文縄文上に沈線を施す。6は櫛歯状工具による文様を施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-3号土壌 (第206図・第210図7・8、25)

L5・J7、M5・A7グリッドに位置する。垂直に深く掘り込まれた土壌で、底面中央はピット状に浅く掘り込まれている。平面形は楕円形で、長径1.18m、短径は1.00m、深さは1.98mである。底面のピットの深さ0.21mである。

第210図7・8、25は出土した遺物である。7は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。沈線間に縄文を充填施文する。8は丸みを帯びた胴部破片。曲線的な沈線を施し、沈線間に縄文を充填施文する。25は口縁部から底部まで残存する深鉢形土器である。胴部は緩く丸みを帯び、屈曲して口縁部が外傾して立ち上がる形態の土器である。括れ部に横位の隆帯、8の字状の貼付文を施す。底部には網代痕を残す。残存度は80パーセントである。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-5号土壌 (第206図・第210図9~18)

M5・A9グリッドに位置する。プラスチックとなる土壌で、底面の中央にはピット状の掘り込みが確認された。長径1.50m、短径1.21m、深さ1.78mである。ピットの深さは0.60mである。

第210図9~18は出土した遺物である。9~12は深鉢形土器の口縁部破片である。9は口縁部に横線と刺突を施す。10・11は口縁部に円文を巡らせ、円文下に斜沈線を施す。12は沈線文を施す。

13~16は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。17は屈曲し無文の口頸部を有する深鉢形土器である。括れ部から胴部にかけての破片で、地文縄文上に渦巻文を施す。18は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-7号土壌 (第206図)

M5・B8、B9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.75m、短径0.68、深さは0.45mである。

第4-9号土壌 (第206図・第210図19~23)

L5・H9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.45m、短径1.34m、深さ0.27mである。

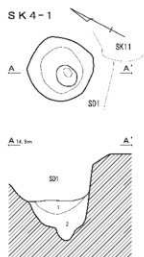
第210図19~23は出土した遺物である。19・20は深鉢形土器の口縁部破片である。内面に1条沈線が巡る。胴部がゆるく張る形態の深鉢形土器と思われる。21・22は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。23は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に並行沈線を施す。

19~22は縄文時代後期前葉の堀之内2式、23は後期中葉の加曾利B1式である。

第4-10号土壌 (第206図・第210図24・26)

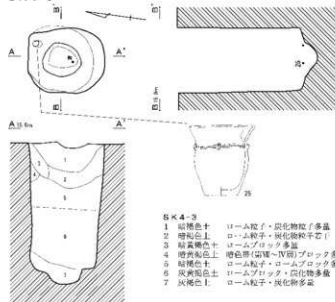
L5・G9、H10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.55m、短径1.05m、深さ0.15mである。

第210図24・26は出土した土器である。24は深鉢

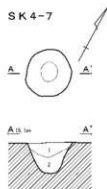


SK 4-1
1 暗褐色土 ローム粒子少量
炭化物粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量

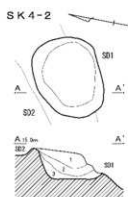
SK 4-3



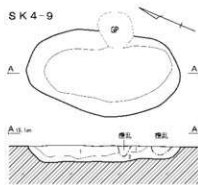
SK 4-3
1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子多量
2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
3 暗褐色土 ロームアロック多量
4 暗褐色土 暗色帯(深層-VIV層)アロック多量
5 暗褐色土 ローム粒子、ロームアロック多量
6 灰黄色土 ロームアロック、炭化物多量
7 灰褐色土 ローム粒子、炭化物多量



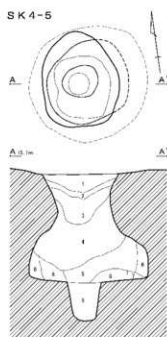
SK 4-7
1 暗褐色土 ローム粒子、炭
土粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量



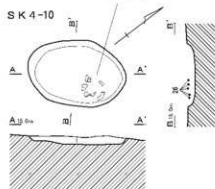
SK 4-2
1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子多量
粘土粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子、炭化物
粘土少量



SK 4-9
1 暗褐色土 ローム粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量

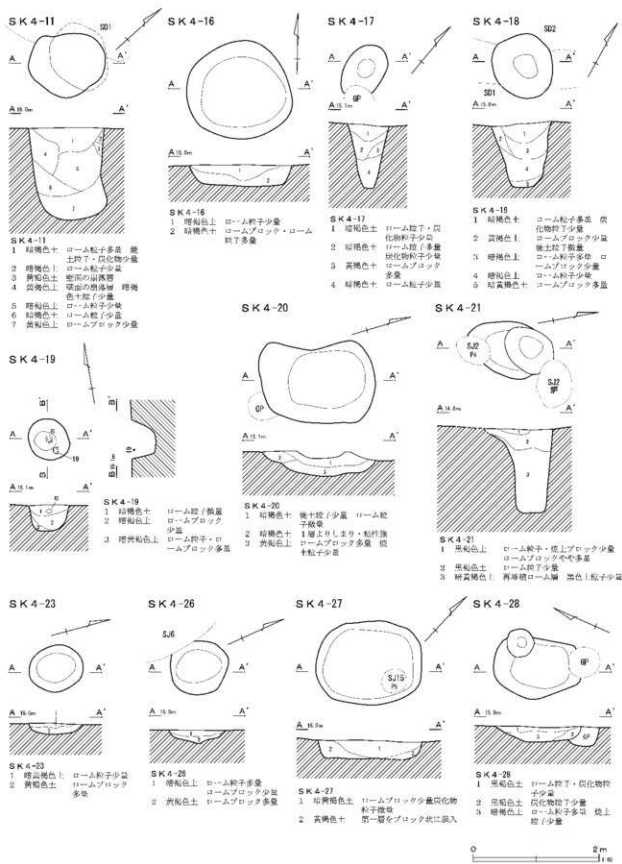


SK 4-5
1 暗褐色土 ローム粒子、粘土粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
4 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
5 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子少量
6 暗褐色土 ロームアロック多量
7 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量
8 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量
9 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量

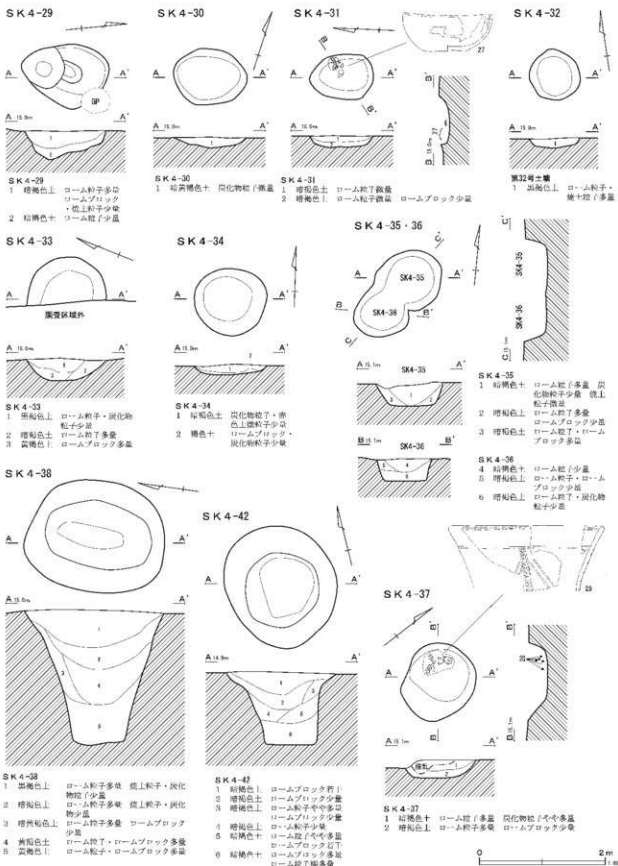


SK 4-10
1 暗褐色土 ローム粒子多量

第206図 土壌(1)



第207図 土壌(2)



第208号 土層 (3)

形土器の胴部破片である。縦位に沈線間の点列を垂下させ、斜沈線を施す。地文に縄文を施す。縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

26は口縁部から胴部まで残存する深鉢形土器である。胴部がかり、頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がる形態の深鉢形土器である。括れ部直下に隆帯を2条巡らせ、8の字状の貼付文をつないでいる。口縁部には小突起を付し、幅広い口頸部に隆帯が垂下する。残存度は50パーセント。口縁部内面に1条の沈線が巡る。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-11号土壙 (第207図・第211図1・2)

L5・J10グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は楕円形で、長径1.23m、短径は1.00m、深さは1.46mである。

第211図1・2は出土した土器である。1は朝顔形の深鉢形土器の口縁部である。2は地文縄文上に横線と斜沈線を連続的に施す深鉢形土器である。縄文時代後期前葉の堀之内2式と思われる。

第4-16号土壙 (第207図・第211図3・4)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.66m、短径1.53m、深さ0.32mである。

第211図3・4は出土した土器である。3は内面に横線を施す深鉢形土器の口縁部破片である。細沈線を施す。4は深鉢形土器の胴部破片である。地文縄文上に横線を施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内2式と思われる。

第4-17号土壙 (第207図・第211図5)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.93、短径0.62m、深さは1.00mである。

第211図5は出土した朝顔形深鉢形土器の口縁部破片である。横位の隆帯、8の字状貼付文を施す。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-18号土壙 (第207図・第211図6~15)

L5・I10グリッドに位置する。第4-1・2号

溝と重複する。平面形は円形で、残存する長径1.00m、短径0.96m、深さ1.03mである。

第211図6~15は出土した土器である。6は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部内面に1条の沈線が巡る。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。7~11、14・15は地文縄文上に沈線文、12・13は縄文のみを施す深鉢形土器の胴部破片である。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内式である。

第4-19号土壙 (第207図・第211図16~19)

M5・A9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.70m、短径0.63m、深さ0.41mである。

第211図16~19は出土した土器である。16は丸みを帯びた鉢形土器の口縁部である。17は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。18は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。19は深鉢形土器の無文の底部で、堀ノ内式。17は縄文時代後期前葉の堀之内1式、18は堀之内2式、16は後期中葉の加増利B1式である。

第4-20号土壙 (第207図・第211図20~22)

L5・J8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.82m、短径1.17m、深さ0.40mである。

第211図20~22は出土した土器である。20は深鉢形土器の口縁部破片である。小突起を施す。口縁部内面に1条の沈線が巡る。20は沈線、21は縄文のみを施す深鉢形土器の胴部破片である。20は縄文時代後期前葉の堀之内2式、21・22は堀之内式である。

第4-21号土壙 (第207図・第211図23~38)

L5・J8グリッドに位置する。第4-2号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.40m、短径0.85m、深さ1.34mである。

第211図23~38は出土した遺物である。23は口縁部に2条の沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。24・25は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。26~29は器面全体に縄

文のみを施す深鉢形土器である。30・31は口縁部内面に1条沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。30は沈線文を施す。32は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。隆帯が巡り、沈線間に縄文を充填施文する。33は胴部破片である。並行沈線、曲線的な沈線を2条一組で施す。34～37は格子目文を施す深鉢形土器である。34は口縁部破片で、口唇部に刺突を施す。口辺部に1条沈線が巡り、横線以下に格子目文を施す。35～37は胴部破片である。

23～32は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、23～25は堀之内1式、30～32は堀之内2式である。33～37は後期中葉の加曾利B1式である。

38は定角式の磨製石斧である。刃部を欠損もので、残存する器面は丁寧に磨かれている。

第4-23号土壌 (第207図)

L5・J8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.85m、短径0.75m、深さ0.18mである。

第4-26号土壌 (第207図)

L5・I9グリッドに位置する。第4-6号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.88m、短径0.87m、深さ0.20mである。

第4-27号土壌 (第207図・第211図39)

L5・G8、H8グリッドに位置する。第4-15号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.70m、短径1.31m、深さ0.30mである。

第211図39は口縁部が内湾して立ち上がる鉢形土器の口縁部破片。沈線間に縄文を充填施文する。縄文時代後期中葉の加曾利B2式である。

第4-28号土壌 (第207図・第211図40～43)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.33m、短径0.97m、深さ0.25mである。

第211図40～43は出土した遺物である。40は口縁部内面に1条沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。41は胴部がまる形態の深鉢形土器の胴

部破片。沈線間に縄文を充填施文する。42は器面全体に櫛歯状工具による文様を施す深鉢形土器の胴部破片である。43は並行沈線を施す鉢形土器の胴部破片である。縄文を充填施文する。

40～42は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、40・41は堀之内2式である。43は後期中葉の加曾利B1式である。

第4-29号土壌 (第208図・第211図44～46)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.39m、短径0.96m、深さ0.40mである。

第211図44、46は出土した土器である。44は沈線を施した深鉢形土器の胴部破片である。45は注口土器の胴部破片である。46は縄文のみを器面全体に施す深鉢形土器の胴部破片である。

44、46は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、45は加曾利B1式と思われる。

第4-30号土壌 (第208図)

L5・G9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.16m、短径0.88m、深さ0.17mである。

第4-31号土壌 (第208・210図27)

L5・G9、H9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.71m、深さ0.17mである。

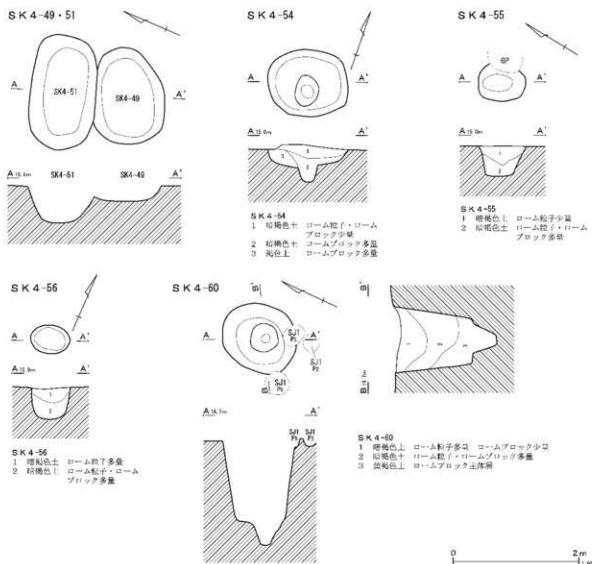
第210図27は出土した無文の浅鉢である。やや丸みを帯びた体部で、口縁部は直立気味に立ち上がる形態の土器である。底部には縄代痕を残す。残存度は70パーセントである。堀之内2式と思われる。

第4-32号土壌 (第208図)

L5・G8、G9グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径0.81m、短径0.80m、深さ0.16mである。

第4-33号土壌 (第208図・第211図47)

L5・G8、H8グリッドに位置する。第4-15号住居跡と重複する。西側部分が調査区域外のた



第209図 土壌(4)

め検出されなかったため、平面形は不明である。残存する長径1.22m、短径0.74m、深さ0.31mである。第211図47は出土した土器で、沈線と縄文を施す深鉢形土器の胴部破片。縄文時代後期前葉の堀之内式である。

第4-34号土壌(第208図)

L6・J1グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.15m、短径1.08m、深さ0.16mである。

第4-35号土壌(第208図・第211図48)

M5・A9グリッドに位置する。第4-36号土壌

と重複するため平面形は不明である。残存する長径1.01m、短径0.97m、深さは0.39mである。

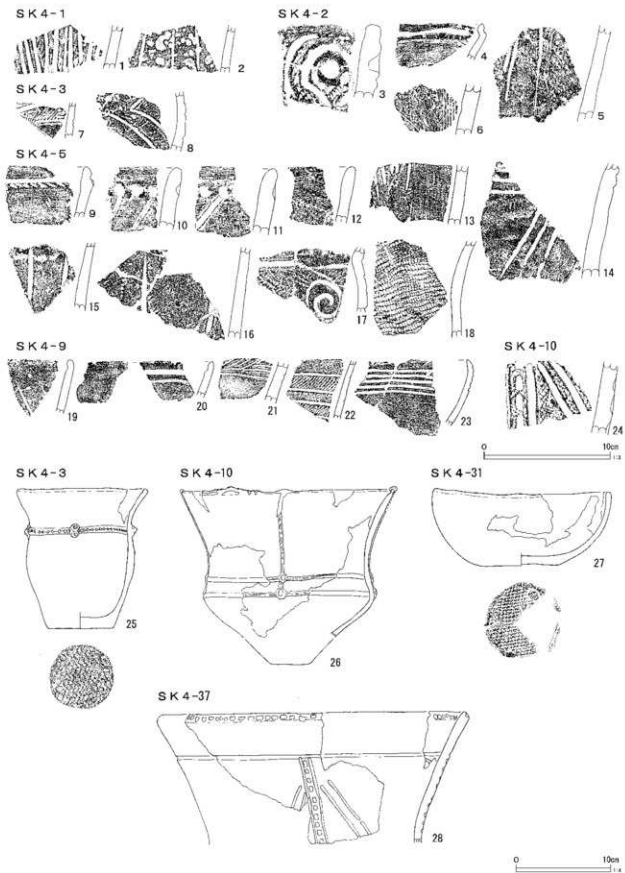
第211図48は出土した深鉢形土器の胴部破片である。縦位に沈線と点列を垂下させており、斜沈線をつないでいる。縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-36号土壌(第208図)

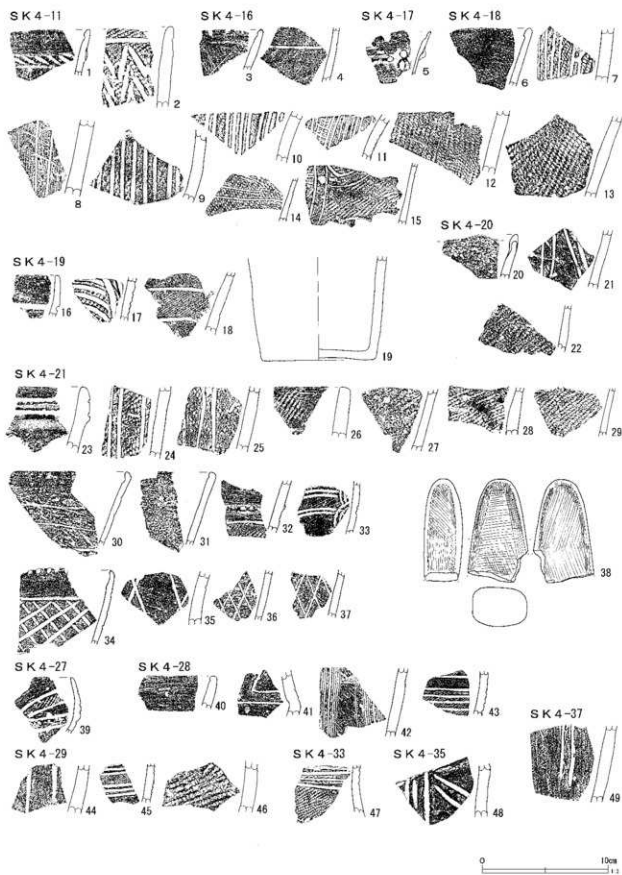
M5・A9グリッドに位置する。残存する長径0.81m、短径0.78m、深さ0.36mである。

第4-37号土壌(第208図・第210図28・第211図49)

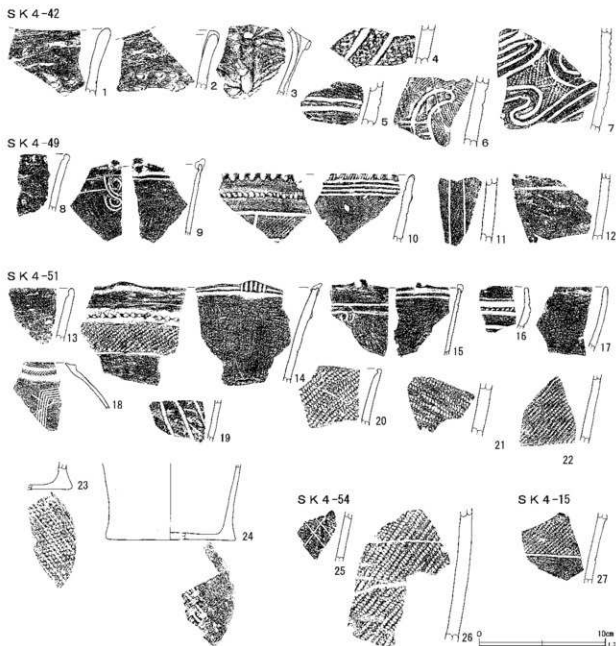
M5・A9グリッドに位置する。平面形は楕円



第210図 土城出土遺物(1)



第211図 土壙出土遺物(2)



第212図 土壇出土遺物(3)・集石土壇出土遺物

形で、長径1.23m、短径1.08m、深さ0.31mである。

第210図28、第211図49は出土した土器である。第210図28は口縁部が外反気味に立ち上がる形態の深鉢形土器である。口縁部に点文が巡る。口辺部に一定の無文部において、横線をめぐらせる。横線下に縦線に沈線間の点列を垂下させ、斜沈線を施す。残存度は10パーセントである。堀之内式である。

第211図49は沈線文を施す深鉢形土器の胴部下半の破片である。堀之内式である。

第4-38号土壇(第208図)

M5・A10グリッドに位置する。土壇は漏斗状に深く掘り込まれている。平面形は楕円形で、長径2.23m、短径1.81m、深さ2.12mである。

第4-42号土壇(第208・第212図1~7)

M6・A1、A2グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.95m、短径1.81m、深さ1.15

mである。

第212図1～7は出土した土器である。1・2は深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部は波状の構成をとり、無文の口縁部の下に隆帯が巡る。3は瓢形形態の土器で、微隆起によって文様を施す。4は地文縄文上に沈線文、5は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片。6・7は沈線によって曲線的な文様を施し縄文を充填施文した深鉢形土器の胴部破片である。1～5は縄文時代後期前葉の堀之内1式、6・7は堀之内2式と思われる。

第4-49号土壙 (第209図・第212図8～12)

L5・J10グリッドに位置する。第4-51号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.53m、短径1.18m、深さは0.26mである。

第212図8～12は出土した土器である。8は口縁部内面に1条の沈線が巡る深鉢形土器である。9は朝顔形の深鉢形土器で、突起を施す。突起下に8の字状に沈線を施す。内面には2条の沈線が巡る。10は直線的に立ち上がる形態の深鉢形土器で、口縁部に隆帯を施す。隆帯下に並行沈線、区切り沈線を施し、沈線間に縄文を充填施文する。口唇部には刺突と刻みを施す。11・12は深鉢形土器の胴部破片で沈線を施す。

8～12は縄文時代後期前葉の堀之内1式であり、8～10は堀之内2式である。

第4-51号土壙 (第209図・第212図13～24)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈で、長径1.82m、短径1.05m、深さ0.61mである。

第212図13～24は出土した土器である。13は口縁部内面に1条の沈線が巡る深鉢形土器である。14は朝顔形の深鉢形土器で、口縁部に横位の隆帯が巡り、隆帯と横線間に縄文を充填施文する。突起を施す。15は口縁部が直線的に立ち上がる形態の深鉢形土器である。突起を施す。体部には並行沈線と弧線を施す。16は体部で丸みを帯び、口縁

部が内湾気味に立ち上がる形態をした鉢形土器の口縁部破片である。口縁部の沈線間に刻みを施す。17は無文の鉢形土器である。器面は研磨されている。18は注口土器の口縁部破片である。刻み、集合沈線を施す。19は沈線を施す深鉢形土器の胴部破片である。20～22は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。23・24は底部の破片である。縄文痕を残している。

13～24は縄文時代後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B1式を含んでいる。13～15は堀之内2式、16～18は加曾利B1式である。20～24は堀之内2式もしくは加曾利B1式である。

第4-54号土壙 (第209図・第212図25・26)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径1.07m、深さ0.54mである。

第212図25・26は出土した土器である。25は格子目状の沈線を施す深鉢形土器の胴部破片である。26は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

25は縄文時代後期中葉の加曾利B1式、26は後期前葉の堀之内1式と思われる。

第4-55号土壙 (第209図)

L5・J10グリッドに位置する。グリッドピットと重複する。平面形は楕円形で、残存する長径0.76m、短径0.60m、深さ0.48mである。

第4-56号土壙 (第209図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.63m、短径0.45m、深さ0.47mである。

第4-60号土壙 (第209図)

M5・A8グリッドに位置する。第4-1号住居跡と重複する。土壙はほぼ垂直に深く掘り込まれ、底面にはピット状の掘り込みが検出された。平面形はほぼ円形で、長径1.23m、短径1.06m、深さ1.36mである。底面のピット状掘り込みの深さ0.36mである。

(3) 集石土塚

第4-15号土塚 (第213図・第212図27)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.50m、短径は1.20m、深さは0.35mである。焼礫は最大で10cm程度、焼礫の総重量は3770.7gである。

第212図27は朝顔形の深鉢形土器の胴部破片である。沈線間に縄文を充填施文する。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

(4) グリッド出土遺物

グリッドから出土した遺物には縄文土器・土製品・石器がある。

出土土器 (第214図～221図)

縄文土器は前期から後期中葉の土器が認められる。前期・中期の土器は少数であり、後期前葉の堀之内1式、堀之内2式、後期中葉の加曾利B1式がややまとまって出土しており、少数ながら加曾利B2式の出土もある。

第1類 (第215図1・2)

縄文時代前期の土器を一括する。

第215図1は諸磯b式である。口縁部に沿って竹管文を施す。2は前期末の土器で単節LRの結節縄文を施す。

第2類 (第215図3～6、第216図29・30)

縄文時代中期の土器を一括する。

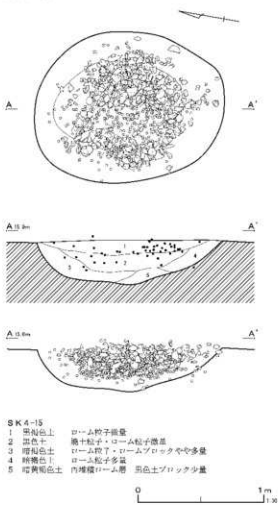
第215図3・4は中期前半の阿玉台式である。3は波状口縁の破片である。3・4ともに弧状の隆帯を貼付する。胎土に雲母を含む。

第215図5・6、第216図29・30は中期後半加曾利E式のキャリバー形深鉢形土器。5は口縁部。隆帯下に単節RLの縄文を施文する。6は頸部付近の破片で単節RLを施す。胴部には懸垂文を施す。29・30は胴部破片である。

第3類 (第214図1・第215図7～32)

縄文時代後期前葉の堀之内式のうち、沈線のみが認められる土器を一括する。

S K 4-15



第213図 集石土塚

第214図1は括れ部を有し、胴部がやや強くはる形態の深鉢形土器である。突起を施す。多条の縦位沈線や弧状の沈線を施す。胴部下半を欠損する。残存度は20パーセントである。堀之内式。

第215図7～15は括れ部で強く屈曲し、口辺部が外反して立ち上がる形態の深鉢形土器である。いずれも堀之内1式である。括れ部以下の胴部には縄文を施す土器があり、第4類に含まれている可能性がある。7は突起を施す。8・9は2条の沈線間に点文を施す。10も突起を施す。11～15は口縁部に1条の沈線が巡る。

第215図16～32は胴部でゆるく括れる形態の深鉢形土器である。口辺部から体部にかけて、直線

的なモチーフ、曲線的なモチーフを施す。称名寺式の形態・文様の系統を引く土器であり、16～22、28～32は堀之内1式、23～27は堀之内2式と思われる。

16は2条の沈線を口縁部に施す。17は沈線間に円文を施す。18は円文、19～22は沈線を口縁部に施す。23～27は口縁部内面に1条の沈線が巡る。28～32は胴部の破片である。28～30は縦位、斜位の沈線、31・32は曲線的な沈線を施す。

第4類 (第215図33～49、第216図1～28・31～42)

縄文時代後期前葉の堀之内式のうち、地文縄文を施す深鉢形土器を一括する。第215図33～47、第216図1～13は堀之内1式、第215図48・49は堀之内2式と思われる。

第215図33～49、第216図1～12は朝顔形深鉢形土器および括れを有する深鉢形土器である。

33～36は突起部の破片。33は隆帯を施す。37～47は口縁部に1条の沈線が巡り、沈線以下に文様を施す。48には口縁部の沈線がなく、49は口縁部に2条の沈線を施す。第216図1～11は口縁部に沿って沈線を施す。12・13は円文を施す。

第216図14～28、31～42は縄文施文の深鉢形土器胴部破片である。14・15・16は区画内に縄文を充填施文する。16、21～25は曲線的な文様、17・18は横線、19・20、26は蕨手状のモチーフを地文縄文上に施す。28、31～42も地文縄文上に沈線を

施す。36～42は斜沈線・横線を地文縄文上に施す。

第216図43は口縁部破片で地文縄文上の一部に沈線が認められる。

第216図44～49は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。44～47は口縁部、48・49は胴部破片である。

第5類 (第217図1～51)

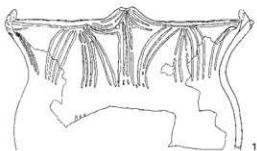
いわゆる朝顔形の形態をした堀之内2式の深鉢形土器とそれに類する土器を一括する。

第217図1～13は口縁部に隆帯を施さない土器である。1・2は地文縄文上に2条一組の沈線を施文する。第217図14～36は朝顔形深鉢形土器のうち口縁部に隆帯を施す土器である。15～28は口縁部内面に1条の沈線を施す。29～35は口縁部内面に2条以上の沈線を施す土器である。

第217図36は隆帯以下に格子目文を施す。口縁部内面には1条の沈線を施す。

第217図37・38は胴部が張る形態の土器。37は隆帯、貼付文を括れ部に施し、胴部には沈線間に縄文を充填施文したモチーフを施す。口縁部内面には多条の沈線文と刻み等を施す。38も隆帯を施し、口縁部内面に2条の沈線が巡る。

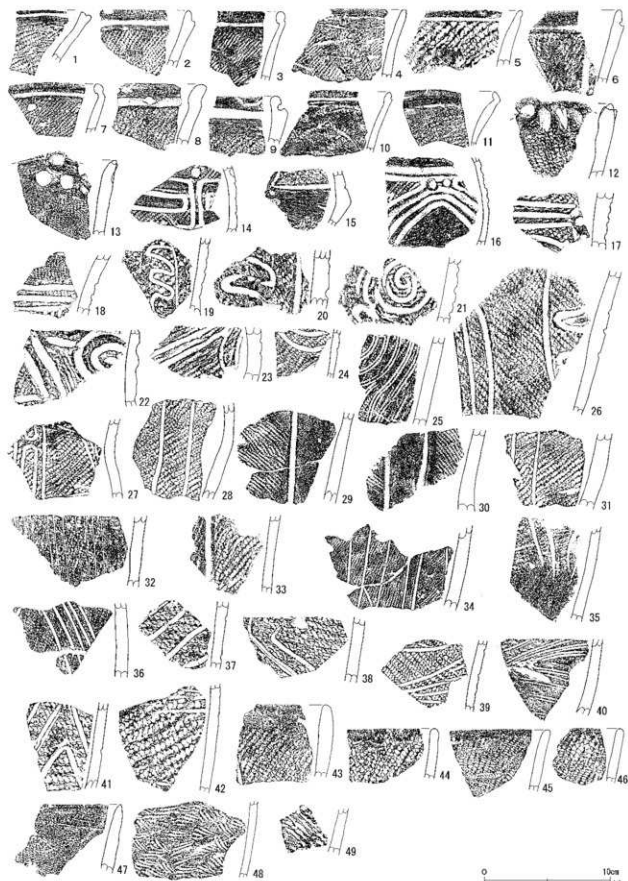
第217図39は隆帯下に縄文帯を施す第217図40～43は口縁部に2条の隆帯を施す土器である。40、42は口縁部内面に2条の沈線、41、43は1条の沈線が巡る。第217図44～46は隆帯以下に縄文を施文する。44・45は1条の沈線、46は4条の沈



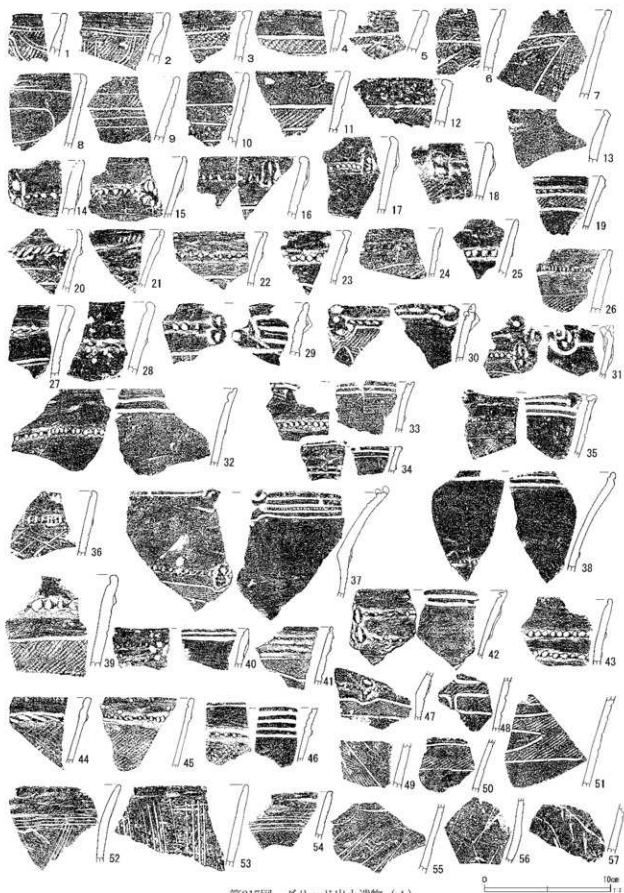
第214図 グリッド出土遺物(1)



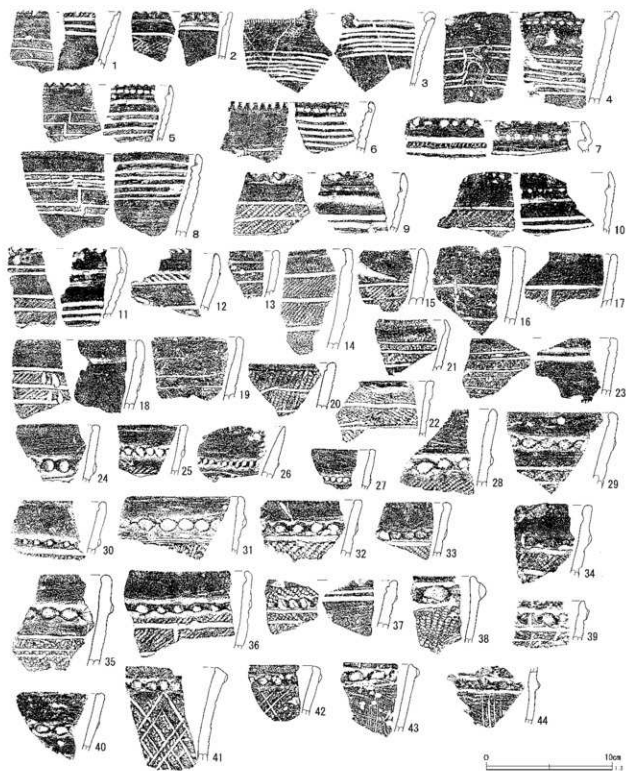
第215図 グリッド出土遺物(2)



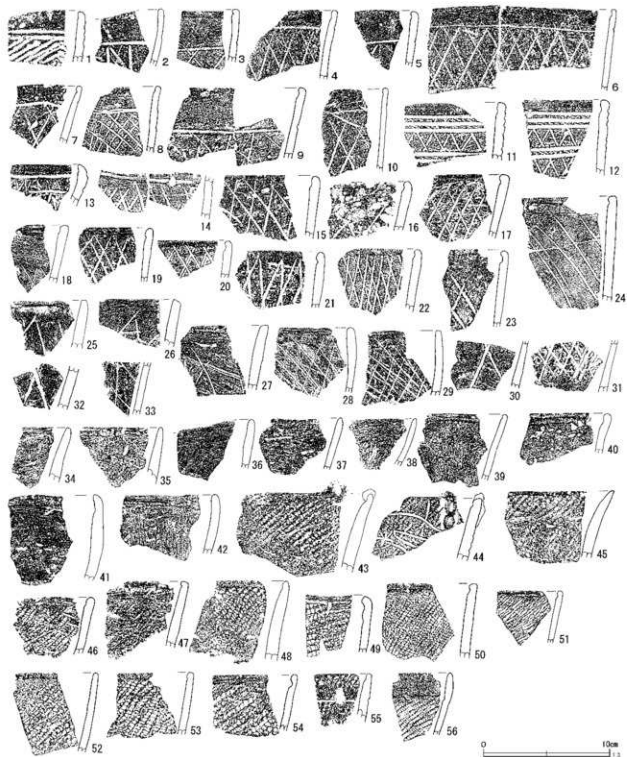
第216図 グリッド出土遺物(3)



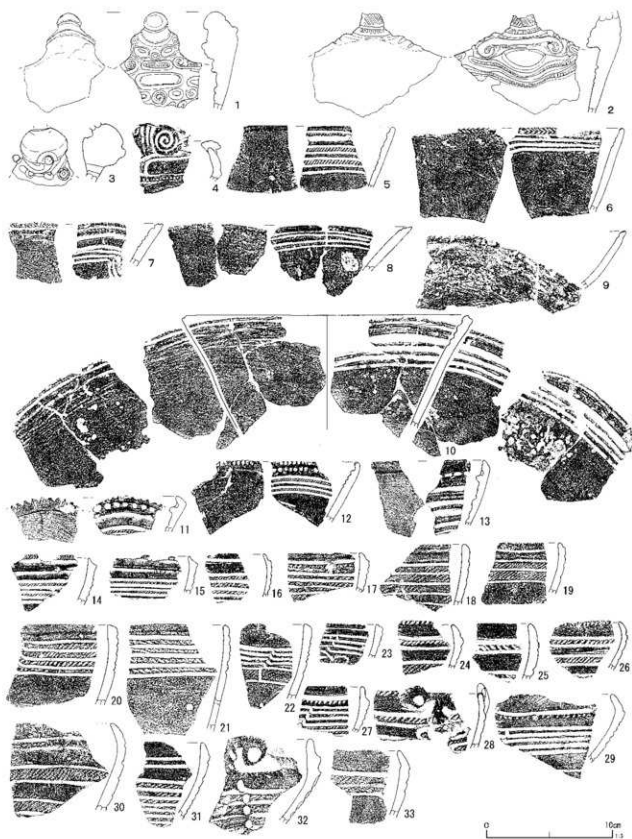
第217図 グリッド出土遺物(4)



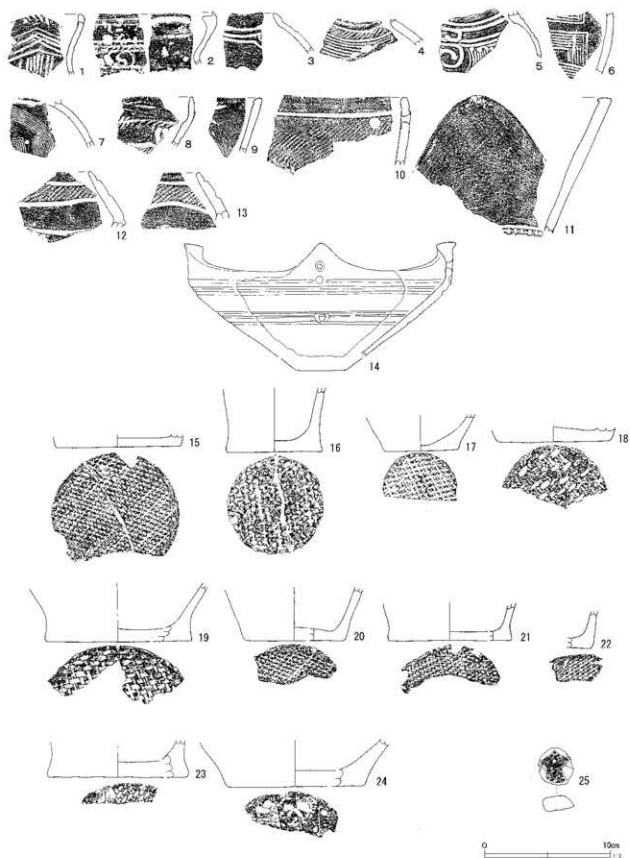
第218図 グリッド出土遺物 (5)



第219図 グリッド出土遺物(6)



第220図 グリッド出土遺物(7)



第221図 グリッド出土遺物(8)

線を口縁部内面に施す。第217図47～51は胴部の破片である。充填縄文による文様を施す。

第6類 (第217図52～57)

後期前葉の土器群のうち縄文を施文せず、櫛歯状工具による文様、細沈線による文様を施す土器を一括する。52～54は櫛歯状工具による文様、55～57は細沈線を斜位に施す。いずれも堀之内式と思われる。

第7類 (第218図1～23)

縄文時代後期中葉の土器のうち、並行する沈線を施す深鉢形土器を一括する。ほとんどが加曾利B1式である。

1～11は内文を施す。1～3、5～7、9、11・12は口唇部に刻みを施す。また、2、4～7、9～11は口縁部内面に円文が巡る。

12は口縁部に沈線間の刻みか巡る。13～23は内文をもたない土器で、19～23はやや粗雑な平行沈線である。17は区切り沈線を施す。18は()状に沈線を加える。

第8類 (第218図24～44)

縄文時代後期中葉、加曾利B1式の紐線文土器を一括する。

24～36は紐線文の上部に一定の無文部を設けているもの。紐線より下位には並行沈線を施す。36には区切り沈線が見られる。37は地文縄文上に紐線文を貼付する。紐線文以下に41・42は格子目文、43は櫛歯状工具による文様を施す。44は胴部破片である。櫛歯状工具による文様を施す。

第9類 (第219図1～56)

縄文時代後期前葉から後期中葉の格子目文土器、無文土器、器面全体に縄文を施文する土器を一括する。

1～31は斜沈線・格子目文を施す。1～14は口縁部に横線が巡り、横線以下に斜沈線、格子目文を施す。11・12は口縁部に3条の横線、格子目文上にも2条の沈線を施す。15～29は斜沈線・格子目文のみを施す。30～33は胴部破片である。

34～42は無文の深鉢形土器である。43～56は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。

第10類 (第220図1～33)

縄文時代後期前葉から中葉の堀之内2式・加曾利B1式の浅鉢形土器、鉢形土器を一括する。

1～8、10は体部から口縁部へ直線的に移行する形態の土器である。1～4は突起部の破片である。いずれも内文の並行沈線や刻みを施す。

11～13は加曾利B1式の浅鉢形土器で、体部にやや丸みを帯びた形態である。口縁部内面に円文が巡る。内文の並行沈線間には刻みを施す。

14～33は体部で丸みをおびて、内湾気味に口縁部へ移行する鉢形土器である。

第11類 (第221図1～7)

縄文時代後期前葉から中葉の堀之内2式から加曾利B1式の注口土器を一括する。1～3は口縁部、4・5、7は胴部上半、6は胴部の破片である。

第12類 (第221図8～14)

後期中葉の加曾利B2式を一括する。各種の土器を含んでいる。

8は口縁部が内傾して立ち上がる形態の深鉢形土器である。主文様には()状の沈線を施す。9は口縁部が外傾して立ち上がる形態の深鉢形土器である。沈線文を施す。10は口縁部が内湾する形態の土器で、横線以下に縄文を施文する。11は無文の波状口縁土器である。体部に沈線間の点文を施す。12・13はソロバン玉形の鉢形土器である。14は波状4単位構成の浅鉢形土器である。円孔、並行沈線、円文、0状の沈線などを施す。残存度は10パーセントである。

第13類 (第221図15～24)

底部を一括する。いずれも底面に圧痕が認められる。

出土土製品 (第221図25)

第221図25は土製円盤である。土器片を利用している。

出土石器 (第222~224図)**石鏃** (第222図1~4)

1~4は無茎の石鏃である。1・2、4の基部には袂が入る。3は欠損のため不明である。

1は基部の表裏面に研磨面が認められるもので、局部磨製石鏃と考えられる。沈線間に縄文を充実施文する。

石錐 (第222図5・6)

5は素材である剥片の形状を利用して、最小限の剥離を施して先端部を作り出している。6は石核の端部を利用して石錐として使用しているものである。

播器 (第222図7)

7は裏面には加工が施されず、表面のみに剥離を加えているものである。刃部は丸みを帯び、肉厚な基部は断面が三角形状となっている。

剥片 (第222図8・9)

8は横長、9は縦長の剥片で、それぞれ2次加工が施されている。

石核 (第222図10)

10は、使用後に廃棄された残核であると考えられる。

磨製石斧 (第222図11~17)

11・12は小型の定角式の磨製石斧である。11は器面全体に丁寧な磨きを加えられるが、裏面の中央には敲打痕が大きく残存している。

13~17は、欠損や再加工のため全体の形状が明瞭ではない。13は基部の破損後、側縁に細加工が施されている。14は敲石として再利用されたものと考えられ、側縁や基部に敲打痕が認められる。

15は刃部の欠損後に、再加工が施されている。16・17は基部のみが残存するものである。

打製石斧 (第222図18~20、第223図21~23)

18以外は、側縁中央に大きく袂の入るいわゆる分銅形の打製石斧である。18は基部のみが残存するもので、側縁は直線的にやや開くいわゆる撥形の打製石斧であると考えられる。

礫器 (第223図24~26)

24は裏面に大きく原礫面を残すもので、器面は被熱のため赤化している。25・26は楕円形状の自然礫の端部のみに、粗い剥離を加えているものである。

敲石 (第223図27~32)

棒状のものを一括した。いずれも端部に敲打痕が認められる。29は平坦な割れ口の面を使用している。32は表裏面の中央部に、敲打による浅い凹みか認められる。

凹石 (第223図33図)

33は表裏面と、右側面の中央部に敲打による浅い凹みか認められる。

磨石 (第224図34~43)

平坦な表裏面や、面を持つ側縁部を磨面として使用するものである。34は側縁に面取り状に敲打を加えられるもので、敲石としても使用されたものである。表面はやや赤化している。36は表面が赤化しており、被熱のため破砕したものと考えられる。40は破損した下端面が磨耗し、その後敲打を加えられている。

軽石 (第224図44・45)

44は扁平な板状に加工を施しているものである。45は厚みを持つが、表裏面と側面は平坦に加工が施されている。

砥石 (第224図46)

46は表面に幅広い浅い凹みか認められるもので、使用によって凹んだものと考えられる。

石皿 (第224図47)

47は石皿の破片で、縁を有するものである。

石錘 (第224図48・49)

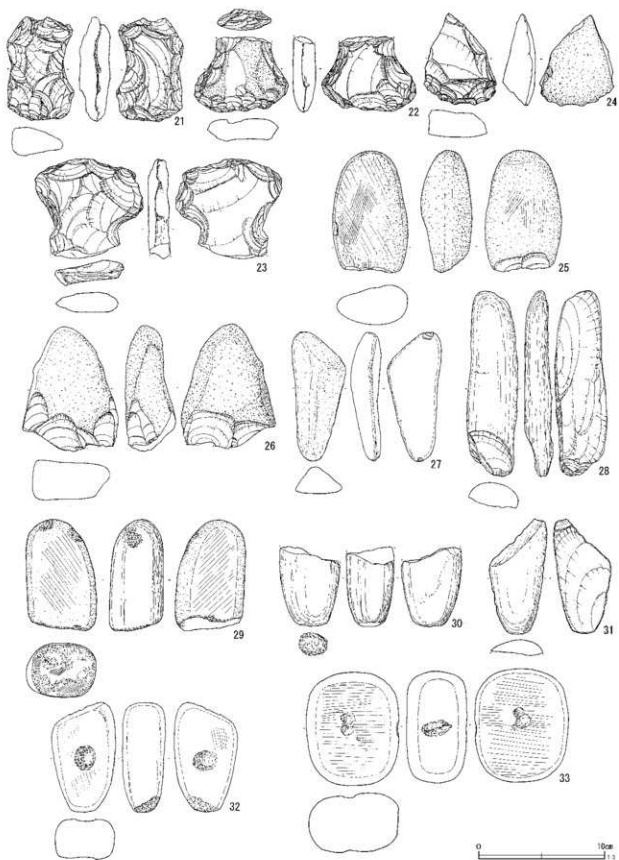
48・49は、扁平な楕円形状の石材の両端に、浅い袂を入れて使用したものと考えられる。

石棒 (第224図50)

50は基部の破片である。表裏面は平坦に磨かれ、断面は扁平な形状となっていることから、石剣である可能性も考えられる。



第222図 グリッド出土遺物 (9)



第223図 グリッド出土遺物 (10)



第224図 グリッド出土遺物 (11)

第19表 出土石器観察表

図版No	出土遺構	器械	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第195図13	第4-12号住居跡	石鏃	チャート	(2.30)	(1.40)	0.35	0.7	
第195図14	第4-12号住居跡	敲石	砂岩	(10.90)	(5.05)	3.85	259.2	
第211図38	第4-21号土壇	磨製石斧	砂岩	(8.15)	4.70	3.00	219.2	
第222図1	グリッド	石鏃	黒曜石	1.60	1.35	0.30	0.5	
第222図2	M6・A1	石鏃	珪質頁岩	1.95	1.30	0.45	0.8	
第222図3	グリッド	石鏃	黒曜石	1.95	1.40	0.45	1.0	
第222図4	グリッド	石鏃	チャート	2.15	1.80	0.40	0.8	
第222図5	グリッド	石鏃	黒曜石	2.95	1.95	1.20	3.8	
第222図6	グリッド	石鏃	黒曜石	2.85	2.55	1.45	8.2	
第222図7	L6・J1	播器	チャート	2.75	1.55	1.15	4.2	
第222図8	M5・A8、A9	剝片	黒曜石	2.65	3.25	0.90	5.6	
第222図9	グリッド	剝片	黒曜石	(0.90)	0.95	0.30	0.3	
第222図10	L5・G8	石核	黒曜石	1.60	3.00	0.90	3.2	
第222図11	L5・J10	磨製石斧	砂岩	5.60	3.30	1.40	42.6	
第222図12	グリッド	磨製石斧	砂岩	(5.90)	3.30	1.90	38.9	
第222図13	試掘トレンチ	磨製石斧	砂岩	7.10	5.05	2.75	134.8	
第222図14	L6・T1	磨製石斧	緑泥片岩	10.10	4.35	3.15	213.5	
第222図15	L5・J10	磨製石斧	緑泥片岩	(9.70)	4.90	2.15	131.1	
第222図16	グリッド	磨製石斧	砂岩	(6.05)	(4.70)	(3.30)	104.1	
第222図17	グリッド	磨製石斧	砂岩	(5.95)	(5.30)	(3.25)	165.4	
第222図18	L6・J1	打製石斧	緑泥片岩	(6.50)	3.70	1.60	59.2	
第222図19	L5・J8	打製石斧	ホルンフェルス	9.20	7.20	2.05	138.2	
第222図20	L6・J2	打製石斧	ホルンフェルス	(12.70)	(7.30)	3.85	296.7	
第223図21	L5・I10	打製石斧	ホルンフェルス	8.20	5.25	2.45	119.4	
第223図22	グリッド	打製石斧	頁岩	(5.90)	7.35	1.75	100.1	
第223図23	L5・I10	打製石斧	ホルンフェルス	7.85	8.40	1.75	153.4	
第223図24	グリッド	礫器	砂岩	7.25	5.80	2.55	119.8	
第223図25	グリッド	礫器	砂岩	9.55	6.95	4.00	305.7	
第223図26	グリッド	礫器	黒色頁岩	9.85	7.45	3.90	343.9	
第223図27	グリッド	敲石	砂岩	10.15	4.25	2.45	109.5	
第223図28	グリッド	敲石	緑泥片岩	14.60	4.10	(3.25)	176.8	
第223図29	グリッド	敲石		8.65	5.50	4.25	320.8	
第223図30	グリッド	敲石	安山岩	(6.30)	4.80	3.80	140.4	
第223図31	グリッド	敲石	安山岩	9.05	4.55	(1.54)	73.6	
第223図32	グリッド	敲石	安山岩	8.65	5.05	3.30	213.8	
第223図33	グリッド	凹石	安山岩	8.95	7.35	4.85	499.0	
第224図34	グリッド	磨石	砂岩	(7.15)	(6.35)	(3.25)	136.1	
第224図35	グリッド	磨石	花崗岩	(5.90)	(4.50)	(3.15)	92.8	
第224図36	グリッド	磨石	砂岩	(6.30)	(7.65)	(4.95)	237.0	
第224図37	グリッド	磨石	安山岩	(4.15)	(4.35)	(4.35)	107.9	
第224図38	L5・J9	磨石	閃緑岩	9.00	4.95	4.40	355.2	
第224図39	グリッド	磨石	安山岩	(6.10)	(5.55)	(3.00)	180.7	
第224図40	L6・J1	磨石	閃緑岩	8.80	5.40	3.70	293.7	
第224図41	グリッド	磨石	安山岩	(5.20)	(5.65)	(3.02)	106.1	
第224図42	グリッド	磨石	安山岩	(7.40)	(5.20)	(4.25)	223.5	
第224図43	グリッド	磨石	安山岩	(6.25)	(4.55)	3.35	140.0	
第224図44	グリッド	脛石	脛石	5.05	3.55	1.87	4.1	
第224図45	グリッド	脛石	脛石	6.55	5.80	4.49	39.4	
第224図46	グリッド	砥石	砂岩	10.25	8.20	3.49	419.2	
第224図47	グリッド	石皿	安山岩	(12.80)	(7.35)	(5.60)	667.8	
第224図48	グリッド	石鏃	黒色頁岩	5.35	7.10	1.65	88.3	
第224図49	グリッド	石鏃	緑泥片岩	5.80	8.00	1.00	75.2	
第224図50	グリッド	石棒	片岩	(9.00)	3.60	2.25	140.5	

4. 弥生時代

大木戸遺跡の弥生時代の遺構・遺物は、第4地点にまとまっており、住居跡が11軒検出された。他の調査区からは弥生時代の遺構・遺物は検出されておらず、集落範囲は比較的狭と考えられる。

住居跡の分布は調査区西側に偏り、東側に隣接する第6地点では、当該期の遺構はまったく検出されなかった。今回の調査で、集落の範囲は南北約50m、東西は約40m程度の範囲に密集している。しかし、第1次調査では第6地点の南側部分で、当該期の住居跡が1軒検出されている。今回の調査した密集部とはやや離れており、別に幾つかの住居跡のまとまりがある可能性がある。

(1) 住居跡

今回の調査で住居跡は11軒検出されたが、全体が調査できたのは4軒のみで、他は住居跡の半分以上が調査区外となるため、遺物は少なく住居の規模や主軸方位等が把握できなかった。また、全体が調査区に入った住居跡でも、遺存状況が良好なものは少なかった。その中で、第4-2号住居跡は一括廃棄されたと思われる、完形に近い土器がまとまって出土した。他の、第4-1号住居跡は攪乱が一部床面まで達しており、覆土の多くが攪乱されている為、遺物は殆ど検出されなかった。第4-4号住居跡は耕作等によって、西側が削平されていた。また、第4-5号住居跡は北西側が第4-1号溝跡によって壊され、住居跡の規模等は不明である。第4-11号住居跡は、掘り方で検出され僅かに好跡が残ったが、殆ど削平されていたため、詳細は不明である。

第4-1号住居跡 (第225図)

M5・A8、B8グリッドに位置する。

平面形は、横長の長方形を呈し四隅はやや丸くなる。長軸4.7m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.5mである。主軸方位はN-12.5°-Eを指す。

住居跡の覆土に攪乱が多く入っており、遺物は

殆ど検出されなかった。

貯蔵穴は東壁のやや北側に寄った地点から検出され、長径0.52m、短径0.47mの楕円形で深さは床面から0.22mである。貯蔵穴を囲むように幅0.35m、現状の高さ0.03mの盛土状の高まりが、C字状に囲んでいる。

入り口に伴うと思われるP4は貯蔵穴の南側から見つかった。ピットは6箇所検出されたが、P1とP3とP2・5が主柱穴と考えられ、4本柱の住居跡であったと思われる。P1は北西の柱穴で深さは0.2mである。P3は南西の柱穴で、深さは0.4mで柱痕が観察された。P2・5は南東の柱穴で隣接して2基検出された、深さはP2が0.22m、P5が0.28mと他の柱穴とあまり変わらず、立て替え等の可能性がある。北東の柱穴は攪乱によって検出できなかった。P6とP7は柱穴間に位置し、主柱穴としては不自然である。P6は深さ0.18mで覆土はP2と共通するが、P7は0.1mと浅い。

好跡は西側寄りの中央に位置する。長径0.8m、短径0.55mの楕円形を呈し焼土粒子、炭化物が多く検出された。

壁溝は北側と南側にコ字状にめぐり、入り口から貯蔵穴付近は、掘られていなかった。

第4-2号住居跡 (第226~230図)

L5・J8グリッドに位置する。

柱穴の新旧関係から、第4-2号住居跡は2時期の建て替えが行われたことが明らかになった。

平面形は、隅丸長方形である。長軸5.4m、短軸4.9m、確認面からの深さは0.4mである。主軸方位はN-80°-Wを指す。

遺構の遺存状態は良好で、覆土上面に一部攪乱が見られるだけである。

貯蔵穴は東壁のやや北側に寄った地点から検出され、長径0.6m、短径0.48mの楕円形で深さは床面から0.28mで、小形の無須壺が完全な形で出土

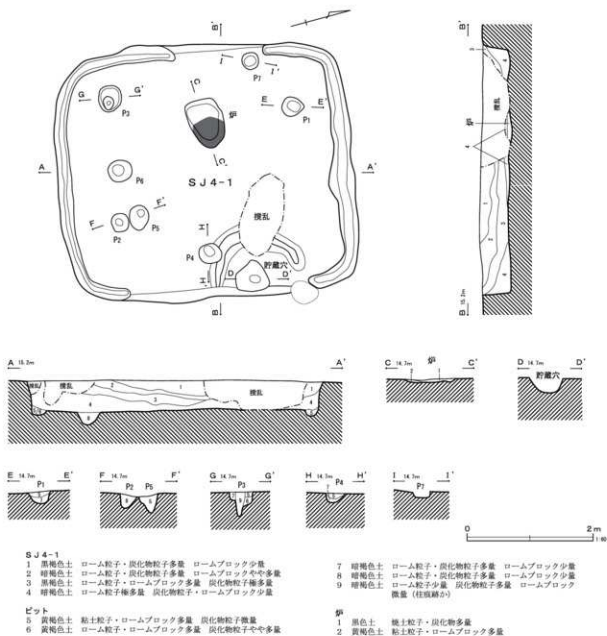
した。貯蔵穴を囲むように幅0.38m、現状の高さ0.1mの盛土状の高まりがC字状に囲んでいる。

入り口に伴うと思われるピットが2基（P5・P6）貯蔵穴の南側に並んでいた。P5は深さ0.35m、P6は深さ0.1mである。支柱柱は新段階（第226図）が4箇所検出された。P1は北東で深さ0.45m、P2は北東で深さ0.65m、P3は南東で深さ0.66m、P4は南西で深さ0.53mである。

古段階のP1は深さ0.45m、P2は深さ0.6m、P3は深さ0.62m、P4は深さ0.54mである。

弁跡は西側にやや寄った中央に位置する。長径0.78m、短径0.55mの楕円形を呈し、深さは0.2mである。覆土の上層は、焼土粒子、炭化物が多く検出され、下層は被熱ロームである。壁溝は検出されなかった。

遺物は完形に近いものがまとまっており、一括



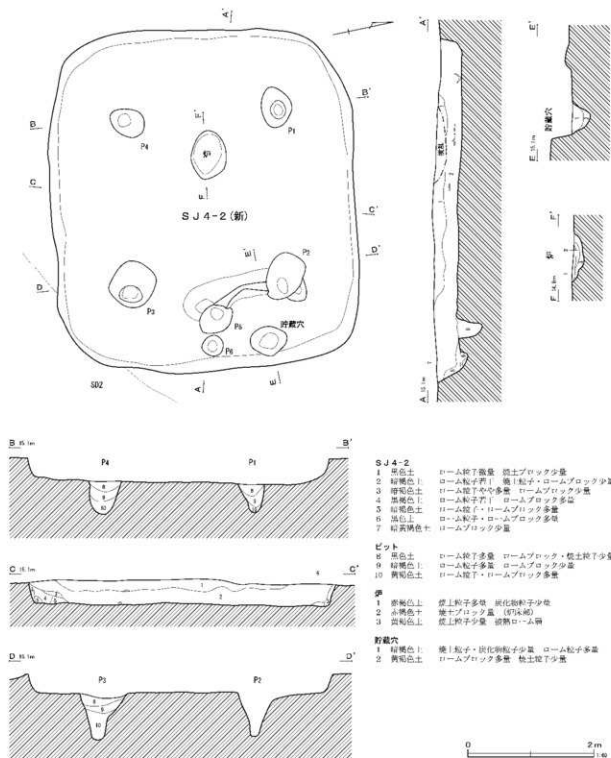
第225図 第4-1号住居跡

廃棄された状態で検出された。出土状況は2つの
まとりが見られる。

一つは、西側のほぼ中央部に位置する。9の大
形の壺が口縁を上にして潰れた状態で出土した。

それを中心に壺(2・3・5)が取り囲むように
出土し、その外周をほぼ完形に近い台付甕(16・
19・13)が囲んでいる。

一方のまとりは、北東部のコーナー付近から

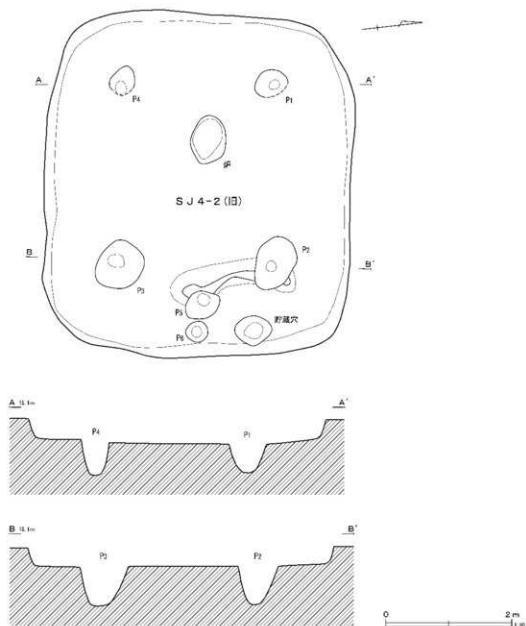


第226図 第4-2号住居跡(1)

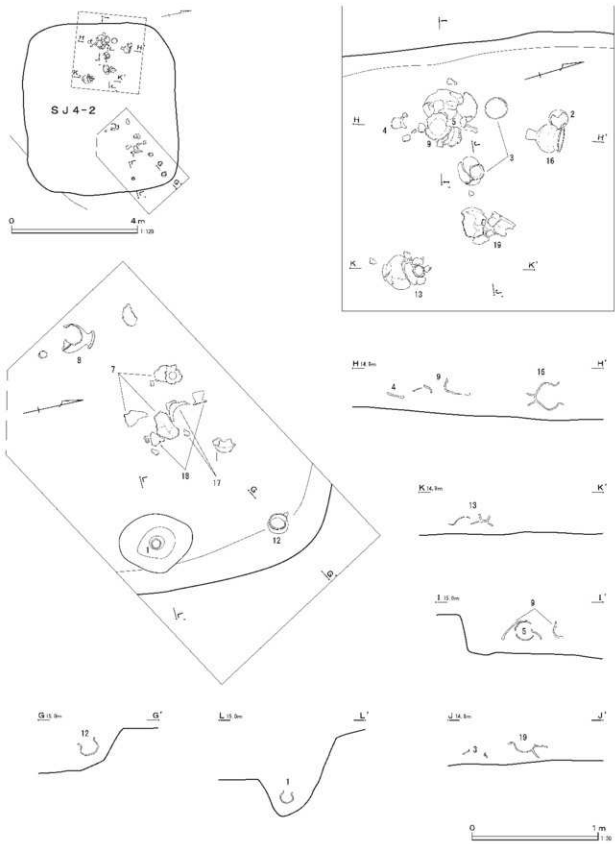
出土し、貯蔵穴が近くにある。壺（7・8）、台付
甕（12・17・18）が出土している。12は壁面近く
から出土している。17・18は残存率が低く20～

30%程度である。

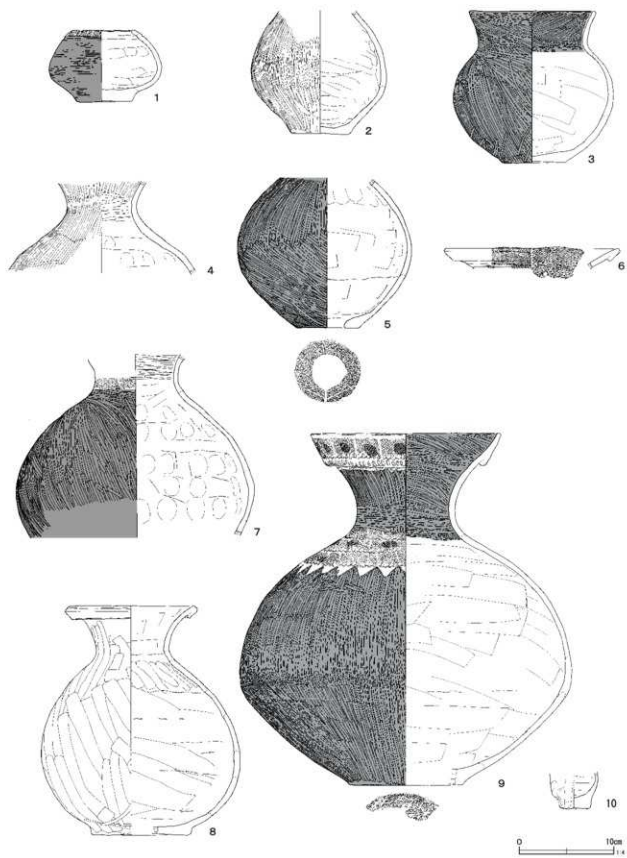
貯蔵穴中から、1の小形無頸壺がほぼ完形の状
態で出土している。



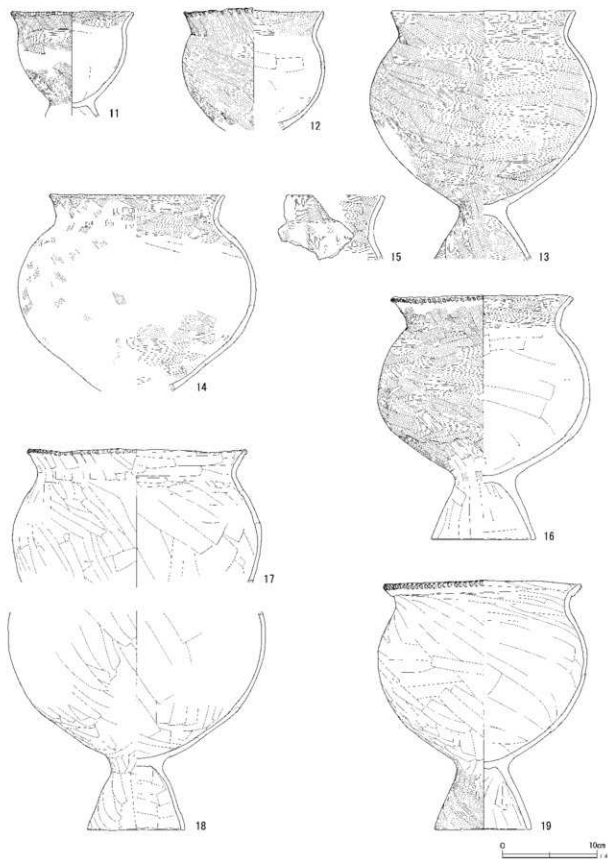
第227図 第4-2号住居跡(2)



第228图 第4-2号住居跡遺物分布图



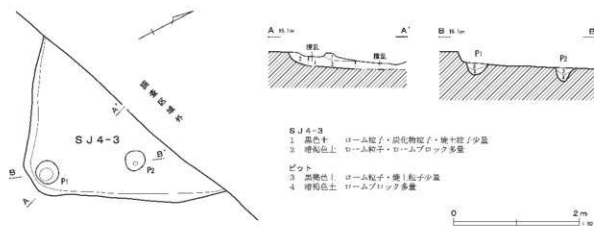
第229图 第4-2号住居跡出土遺物(1)



第230図 第4-2号住居跡出土遺物(2)

第20表 第4-2号住居跡出土土物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	無須壺	100	6.4	6.0	7.5	石・砂・白	普通	赤彩
2	壺	75		6.0	(13.0)	雲・石・砂・白	良好	赤彩か
3	壺	95	13.0	6.7	16.1	赤・白	良好	赤彩
4	壺	20			(9.8)	白	普通	
5	壺	95		6.6	(15.7)	長・白	普通	赤彩、底部木葉痕・穿孔
6	壺	5	(18.3)		(2.1)	石・砂・白	普通	赤彩
7	壺	70			(19.2)	白	普通	赤彩
8	壺	85	13.5	(10.5)	24.1	砂・赤・白	普通	
9	壺	40	20.0	(11.8)	37.3	角・白・黒	良好	赤彩・底部木葉痕
10	手捏	85			(3.9)	赤・白	普通	赤彩か
11	台付甕	70	12.6	(5.0)	(11.1)	砂・白	普通	
12	甕 台付か	80	14.5		(13.0)	赤・白・黒	普通	
13	台付甕	80	(19.0)		(26.4)	石・赤・黒	良好	
14	甕	85	(18.2)		(20.8)	長・砂・赤	普通	
15	甕	5			(6.9)	黒	普通	
16	台付甕	100	18.6	11.0	25.8	石・赤	普通	
17	甕	30	(23.0)		(14.1)	砂・赤・白	良好	
18	台付甕	20		10.2	(23.2)	角・白・黒	良好	
19	台付甕	80	20.5	10.2	26.3	赤・白	普通	



第231図 第4-3号住居跡

第4-3号住居跡 (第231図)

L5・J7グリッドに位置する。住居跡は南側コーナーのみの検出で、北側は調査区外となる。

平面形は方形になると思われるが、全体は把握できない。規模は不明で深さは確認面からの0.28mである。

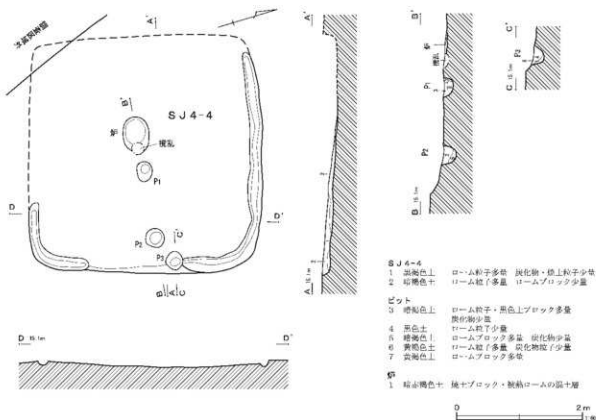
住居跡に伴う施設はピット2箇所のみであった。P1はコーナー部にあり性格は不明である。P2は主柱穴の可能性がある。深さはP1が0.19m、P2が0.21mで覆土は共通する。

第4-4号住居跡 (第232図)

M5・A7、A8、B8グリッドに位置する。

平面形は、隅丸方形になると思われるが、南西部は耕作等により壁溝まで削平されており、遺構の遺存状況は良好ではなかった。大きさは、現況で一辺が約3.5mである。確認面からの深さは、西側の最も残りの良いところで0.08mを測る。主軸方位はN-73°Wを指す。

ピットは、南東の壁際から房跡に向けて3箇所確認された。P2とP3は東側の壁溝が切れると



第232図 第4-4号住居跡

ここに位置し、入り口施設に関連するものと思われる。深さはP2が0.22m、P3が0.20mである。P1は炉跡の東側に近く、深さは0.15mである。炉跡は焼土ブロックが確認された。周溝はピットと炉跡のラインを挟んでコ字状に廻ると思われるが、上記したように南西側が削片されているため不明である。

第4-5号住居跡 (第233~235図)

L5・J9グリッドに位置する。

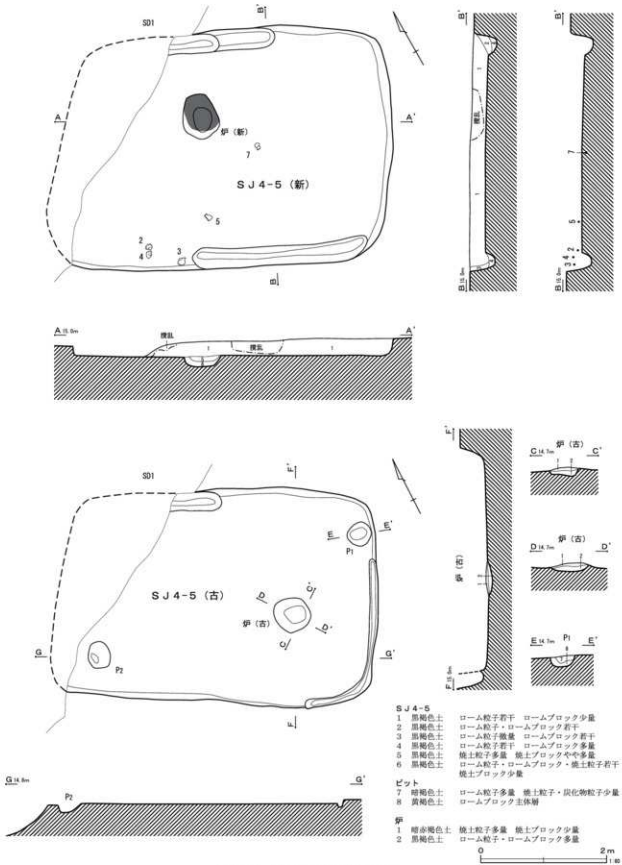
北西側は第4-1号溝跡によって壊されている。住居跡は、貼床と炉跡の状況から、新田2面が確認された。

第4-5号住居跡(新)の平面形は、炉跡の位置から長方形を呈すると思われる。長軸は現況で5.0m、短軸は3.8m、確認面からの深さは0.3mである。住居跡の主軸はN-63°-Wを指す。

炉跡は北側に偏り、南から2m北から1mの場合所に位置している。支柱穴は検出されなかった。壁溝は東壁の一部と、南壁の東側から検出された。周溝の幅は0.3m、深さは0.4mである。

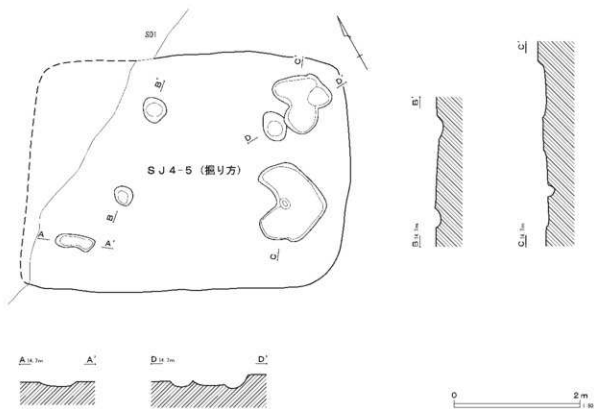
遺物は、炉跡の南側に甕形壺(7)がほぼ完全な形で出土した。胴部には穿孔が施されている。南東壁近くからまとまって出土した、ほぼ完形の小形壺(2)である。

第4-5号住居跡(古)の平面形は、新段階の住居跡より一回り小さく、長軸は現況で5.0m、短軸は3.4mである。炉跡は東側に偏り、住居の主軸はN-63°-Wを指す。ピットは北東と南西の対角線上に2箇所検出された。P1は深さ0.15m、P2は深さ0.1mである。周溝の幅は0.15m、深さは0.3mである。

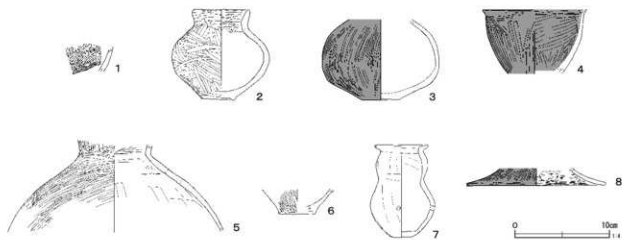


- S J 4-5
- 1 黒褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量
 - 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干
 - 3 黒褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック若干
 - 4 黒褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック多量
 - 5 黒褐色土 焼土粒子多量 焼土ブロックやや多量
 - 6 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子若干 焼土ブロック少量
- ピット
- 7 黒褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物粒子少量
 - 8 黒褐色土 ロームブロック主体層
- 伊
- 1 暗赤褐色土 焼土粒子多量 焼土ブロック少量
 - 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- 0 2m

第233図 第4-5号住居跡(1)



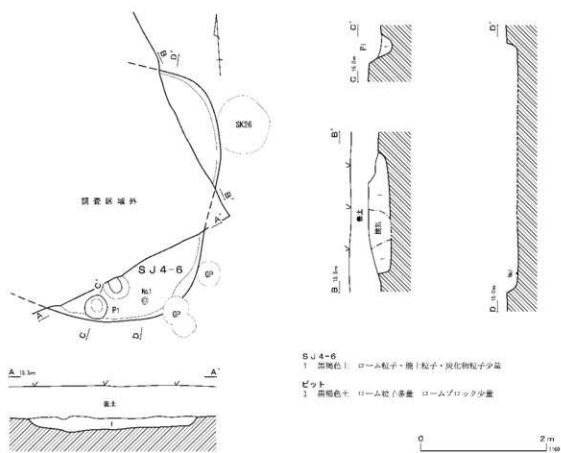
第234图 第4-5号住居跡(2)



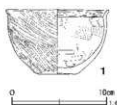
第235图 第4-5号住居跡出土遺物

第21表 第4-5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	5			(2.8)	良・白	普通	赤彩
2	小型壺	95	5.7	3.5	9.6	角・白	普通	
3	壺か壇	50		(3.8)	(8.5)	白	普通	赤彩
4	鉢	30	(10.9)		(6.7)	赤・白	良好	赤彩
5	壺	35			(9.9)	角・赤・白	普通	
6	壺	5			(2.7)	白	普通	
7	壺	95	5.5	2.0	9.8	角・白	良好	
8	高坏	20		(14.8)	(1.8)	角・白・黒	良好	赤彩



第236図 第4-6号住居跡



第237図 第4-6号住居跡出土遺物

第4-6号住居跡 (第236・237図)

L5・I9グリッドに位置する。調査区の西側コーナーにかかるため、住居跡の北東部と南東部の一部が調査された。

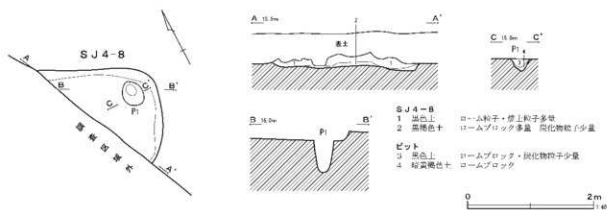
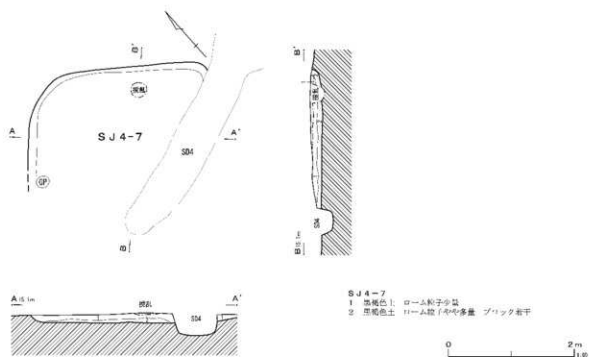
平面形は隅丸方形を呈し、南北の長さは4.1m、

東西は不明である。主柱穴は調査範囲の関係から検出されなかったが、ピットは南壁近くから1箇所検出された。P1の深さ0.17mである。ピットの北側に、高さ0.08mの盛土状の高まりが僅かに確認された。盛土状の高まりは貯蔵穴を囲む場合が多いため、P1の西側に貯蔵穴があると考えられる。また、P1が入り口部に関連するピットと考えると、住居の主軸方位はN-15°-Eを指すと考えられる。

遺物は、P1東側の床直から鉢1個体が出土した。残存率は60%あり、形状の分かる状態で出土した。色調はにぶい黄橙である。

第22表 第4-6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	鉢	60	(10.7)	4.0	6.8	白・黒	普通	



第238図 第4-7・8号住居跡

第4-7号住居跡 (第238図)

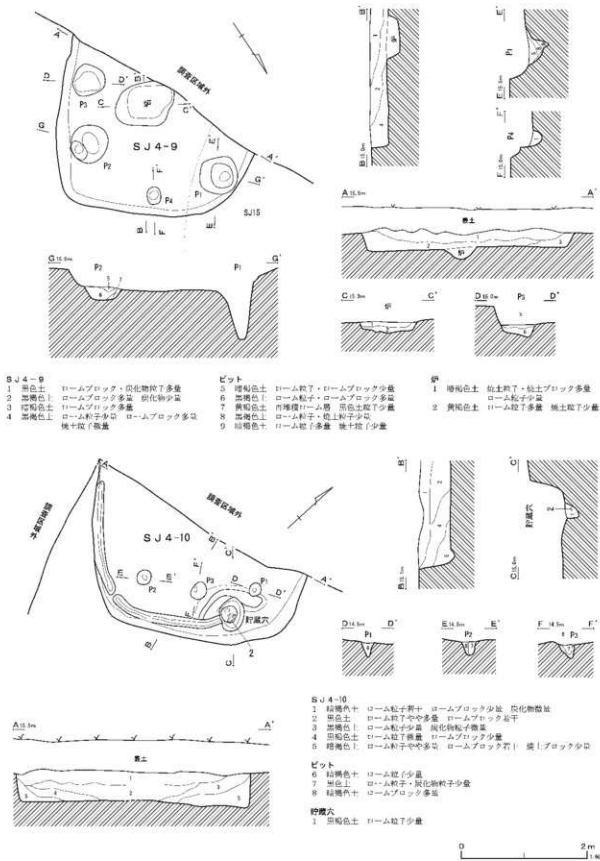
L5・I9グリッドに位置する。第4-6・4-8号住居跡の東側に隣接している。住居跡は殆どが床面下まで耕作等によって削平されたおり、遺存状況は悪く、北西の壁の一部のみが検出された。遺構確認面からの深さは残りの良い部分で0.2mである。柱穴または炉跡等の付属設備は検出されず、規模は不明である。

遺物は殆ど検出されなかった。

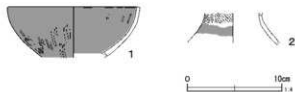
第4-8号住居跡 (第238図)

L5・H9グリッドに位置する。第4-6号住居跡と第4-9号住居跡に挟まれるかたちで隣接している。住居跡北東コーナー部のみが調査され、殆どが調査区外となるため、規模等は不明である。遺構確認面からの深さは0.2mである。ピットは1箇所、住居跡コーナーから検出されたが、性格は不明である。深さは0.5mである。

遺物は殆ど検出されなかった。



第239図 第4・9・10号住居跡



第240図 第4-10号住居跡出土遺物

第23表 第4-10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	20	(13.8)		(5.3)	白	普通	赤彩
2	壺	20			(3.5)	白	普通	赤彩

第4-9号住居跡 (第239図)

L5・H8、H9グリッドに位置する。西側は調査区外となるため、1/3程度が調査された。

平面形は、コーナーがやや丸くなる方形か長方形を呈すると思われる。短軸は3.2m、確認面からの深さは0.2mである。竪跡は、調査区外との境に近いがほぼ全体が調査でき、焼土粒子と焼土ブロックが多く検出された。北側壁付近に小形のピットが1箇所検出された。掘り方をみると壁に向かって斜めになっており、入り口に伴うピットと考えられる。P4の深さは0.15mである。竪跡とP4の位置から、住居跡の主軸方位はN-51°Wを指すと考えられる。

主柱穴と思われるピットが3箇所検出されたが、P3に関してはP2及び竪跡との距離が近すぎるように思われる。P1は深さ0.32m、P2は深さ0.22m、P3は深さ0.2mである。壁溝は確認されなかった。

第4-10号住居跡 (第239・240図)

L5・G8グリッドに位置する。北側が調査区外となるため、全体の1/5程度しか調査できなかった。

平面形は、コーナーがやや丸くなる方形を呈すると思われる。短軸は計測可能な部分で3.5m、確認面からの深さは0.4~0.5mと遺存状況は良好である。住居跡の主軸方位はN-56°Eを指すと思

われる。

貯蔵穴は南壁の東側に寄った地点から検出され、長径0.55m、短径0.4mの楕円形で深さは床面から0.2mである。覆土中から壺(2)が出土している。貯蔵穴を囲むように幅0.35m、現状の高さ0.1mの盛土状の高まりが、C字状に囲んでいる。

ピットは、南壁と並行するように3箇所検出された。P1・2は主柱穴と思われる。P1の深さは0.22m、P2の深さは0.2mである。P3はP1とP2の中間に位置し、南壁に向かって斜めに掘られており、入り口に関連するピットと思われる。深さは0.23mである。

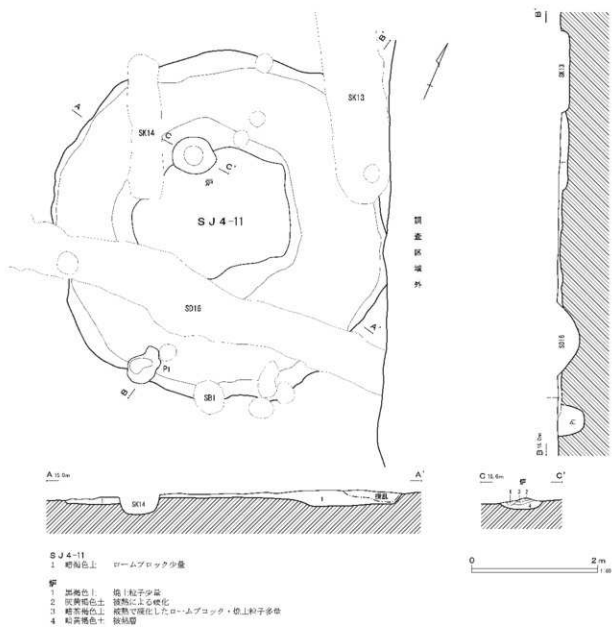
壁溝は貯蔵穴を始点に南西壁に沿って掘られている。幅は0.17m、深さは0.08mである。

第4-11号住居跡 (第241図)

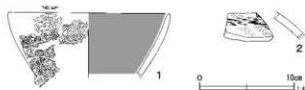
L6・G1、H1グリッドに位置する。

遺構の遺存状態は悪く、遺構確認の段階でドーナツ状に幅広い浅い凹地がめぐり、中央が若干高くなっている状態で、掘り方面まで耕作等で削平されていた。

平面形は隅丸方形になると思われるが、現況では径約5.5mの円形に近い。北西部から竪跡が検出された、住居跡の主軸方位はN-45°Eを指すとされる。竪跡は上面に焼土粒子、炭化物が少量含まれ、下層は被熱のためロームが硬化している。



第241図 第4-11号住居跡



第242図 グリッド出土遺物

第24表 グリッド出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	5	(16.6)		(6.8)	赤・白・黒	普通	赤彩
2	甕	5			(3.1)	赤・角・白	普通	

5. 近 世

(1) 建物群 (掘立柱建物跡・柵列跡)

第4・6地点では、大略3つの掘立柱建物跡群が認められる。内訳は、単独の第1号掘立柱建物跡、第4-2～5・7号掘立柱建物跡 (SB6は欠番) の5棟、および第6-1・2号掘立柱建物跡の2棟である。重複関係をもつものがあるため、同時に何棟が存在していたかは不明である。

第4-1号掘立柱建物跡は、幅約3mでほぼ東西に走る第1号溝跡を挟んで他の2群と対峙する形となっている。他の2群は掘立柱建物跡が重複していることから近い位置での建て替えが行われていることが分かる。そして、第4-1号溝跡によって区画された屋敷地内に位置していると考えられる。なお、第6-8号溝跡がこの屋敷地を東西に分ける溝であるとの可能性を指摘しておきたい。

第4-1号掘立柱建物跡 (第244図)

L5・H10、L6・H1グリッドに位置する。

建物の範囲内に土坑やピットが存在するが、本遺構には伴わないと判断した。新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行1間(2.4m)、面積は18.48㎡である。主軸方位はN-82°-Eを指す。

柱穴の規模は40×50cm～75×80cmの円形または楕円形で、深さは50～75cmと比較的規模が大きいといえる。

P7からは、瀬戸・美濃系の陶磁器 (小坏) が1点 (第260図1) 出土した。

第4-2号掘立柱建物跡 (第245～248図)

L5・J10、L6・J1、I1グリッドに位置する。

4面廂をもつ建物跡である。第4-3～5号掘立柱建物跡のほか幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

母屋の規模は、桁行4間(9.9m)×梁行2間(4.9m)、面積は48.51㎡である。廂を含めた規模は、

桁行7間(11.7m) 梁行4間(6.7m)、主軸方位はN-69°-Eを指す。

母屋の桁行南から2間目の柱間が大きく(3.8m)、3間目が小さい(1.9m)といえる。母屋の柱間は、桁行1.9～3.8m(平均2.48m)、北側梁行2.3～2.6mである。南側では、P9-10間に柱穴は確認されなかった。

廂は母屋から90cm(半間)張り出す形となる。この部分を除いた廂部分での柱間は、桁行1.8～2.1m(平均1.97m)を測る。

母屋の柱穴規模は、55×66cm～90×105cmで、多くは円形または楕円形であるが、隅柱の内、P1・9・10はやや隅丸方形に近い。深さは70～110cmである。

廂の柱穴規模は、25×30cm～50×67cmで、円形または楕円形で、深さは20～54cm。

第4-2号掘立柱建物跡は、今回の調査で検出された掘立柱建物跡の中で、最も規模の大きなものである。

P2～10・14・16・31・33では、柱痕跡(第1層)が確認された。

遺物は、P21から肥前系の磁器碗(2)、P10・4から瀬戸・美濃系の陶器碗(3・4)、P10・6からかわらけ(5・6)、P15・32から砥石(7・8)、そしてP6・9からは寛永通宝(9・10)が出土した。

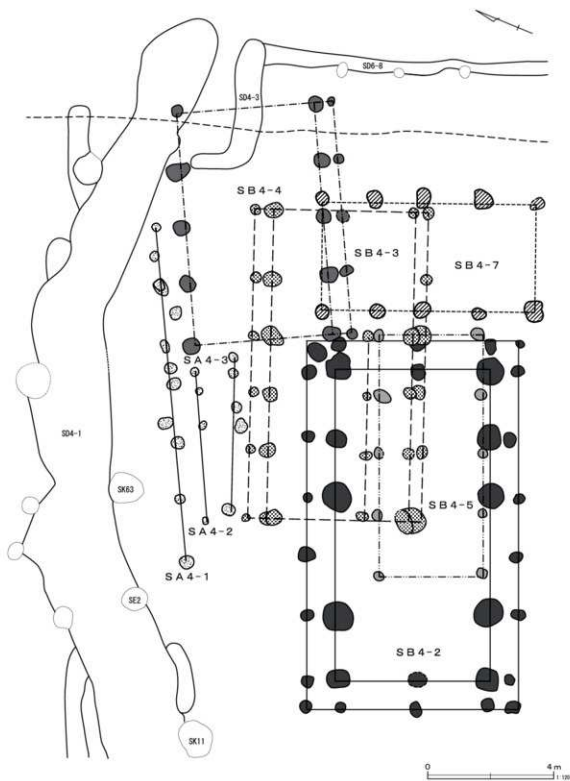
第4-3号掘立柱建物跡 (第249・250図)

L6・I1、I2、L6・J1、J2グリッドに位置する。

第4-2・4・5・7号掘立柱建物跡のほか、幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

桁行に廂または(縁)をもつ。

母屋の規模は、桁行5間(9.8m)×梁行1間(5.5m)、面積は53.9㎡である。廂(縁)を含めた規模は、桁行5間×梁行3間(6.7m)、面積は78.39



第243图 第4地点掘立柱建物跡配置図

m²、主軸方位はN-69°Eを指す。

母屋の柱間は、桁行1.9～3.8m(平均2.48m)、北側桁行2.3～2.6mである。南側では、P 8・12間に柱穴は確認されなかった。廂(縁)は母屋から90cm(半間)張り出す形となる。

母屋の柱穴規模は、32×35cm～55×65cmで円形または楕円形で、深さは49～92cmである。

廂の柱穴規模は、25×27cm～58×67cmで、円形または楕円形で、深さは33～76cmである。

3間にわたる、間仕切りと推定される柱穴をもつ(P 25～28)。この部分の柱間は1.8～2.0m(平均1.9m)である。P 5・7・9・25～27は床支えの柱穴であろうか。

遺物は、P 4からはかわらけ1点、P 8からはかわらけ3点、P 11からはかわらけ1点が出土している(11～15)。掘立柱建物を建てるにあたっての地鎮行為の痕跡であろうか。

第4-4号掘立柱建物跡(第251・252図)

L 6・I 1、I 2、L 6・J 1グリッドに位置する。

第4-3・7号掘立柱建物跡のほか幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。東側の桁行に廂(縁)を有する。

母屋の規模は、桁行4間(7.4m)×梁行1間(4.4m)、面積は32.56m²である。廂(縁)を含めた規模は、桁行4間(7.4m)×梁行2間(5.0m)、面積は37.0m²、主軸方位はN-63°Eを指す。

母屋の柱間は、桁行1.7～2.0m(平均1.85m)。廂(縁)は母屋から60cm張り出す形となる。

母屋の柱穴規模は、25×30cm～55×80cmで円形または楕円形で、深さは28～90cmと幅がある。

廂の柱穴規模は、20×30cm～30×43cmで、円形または楕円形で、深さは20～57cm、P 12-14間の柱穴P 13は確認されなかった。

位置・方位関係から、第4-1号柵列跡(方位N-62°E、距離10.8cm)との関連性あると考えられる。因みに、第4-1号柵列跡の北端部は、第4-4

号掘立柱建物跡の西側桁行の北から2間目と一致する。

第4-2号柵列跡については、第4-4号掘立柱建物跡の延長線上90cm(半間)から始まるという位置関係である。

P 2・10から鉄製品が各1点ずつ(第260図16・17)検出された。

第4-5号掘立柱建物跡(第253図)

L 6・J 1グリッドに位置する。

第2・3号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行1間(3.3m)、面積は25.41m²である。主軸方位はN-63°Eを指す。

柱間は桁行1.8～2.0m(平均1.93m)である。

柱穴の規模は、28×30cm～38×60cmの円形または楕円形で、深さは38～63cmと比較的小規模であるが、柱穴の径に較べて深度は大きいといえる。

P 5からは砥石、P 1からはかわらけ、P 10からは焙烙のそれぞれ小破片(第260図19～21)が出土した。

第4-7号掘立柱建物跡(第254図)

L 6・I 1、I 2、L 6・J 1、J 2グリッドに位置する。

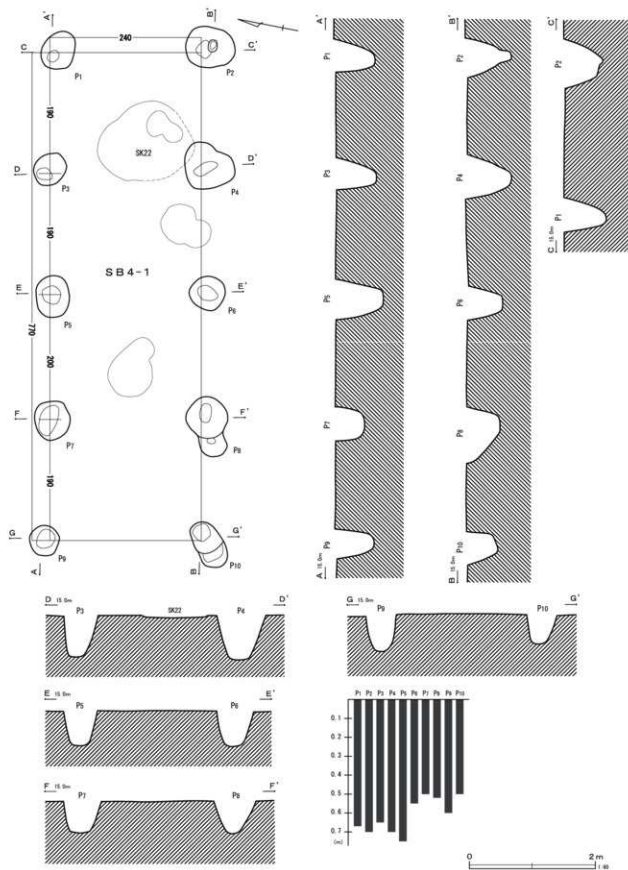
第4-3・4号掘立柱建物跡およびピットと重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(6.8m)×梁行1間(3.4m)、面積は23.12m²である。主軸方位はN-21°Wを指す。柱間は桁行1.5～1.9m(平均1.7m)である。

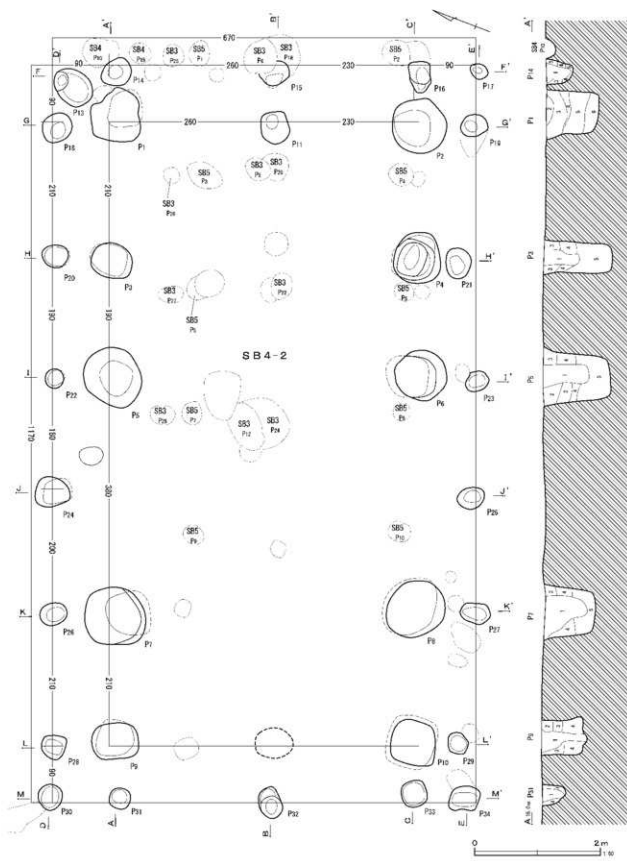
柱穴の規模は32×35cm～60×62cmの円形または楕円形で、深さは40～63cmと全体的に小規模である。

P 6では、柱痕跡(第5層)が確認された。

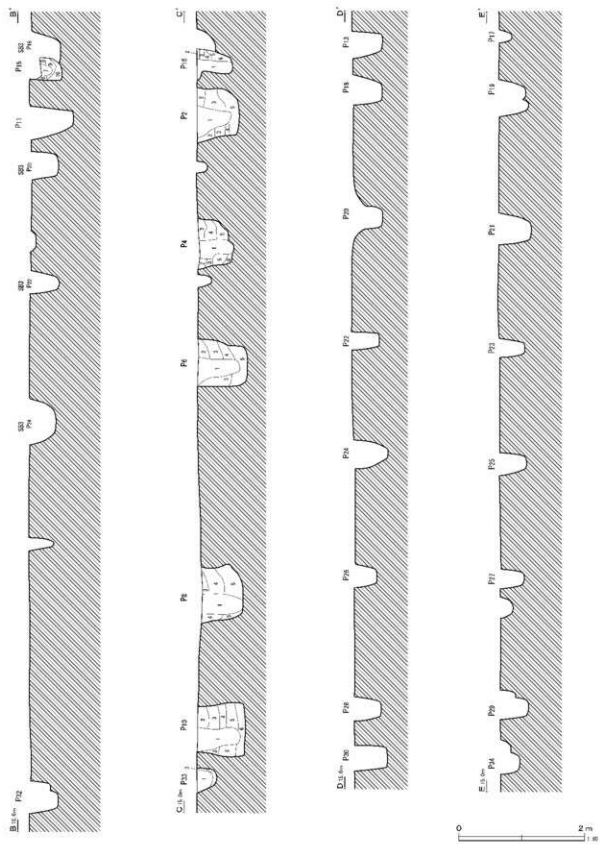
P 3からは、釘の一部と思われる鉄製品が出土した(第260図22)。



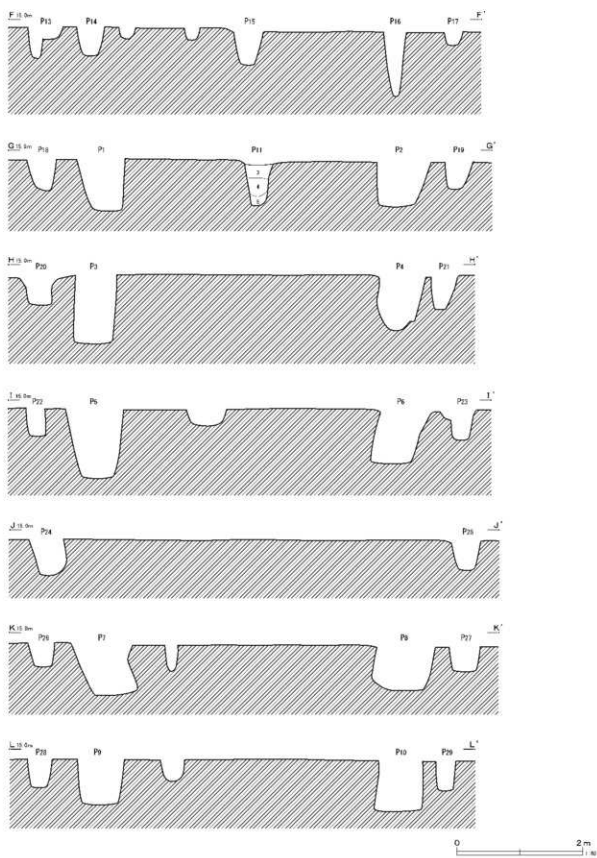
第244图 第4-1号掘立柱建物跡



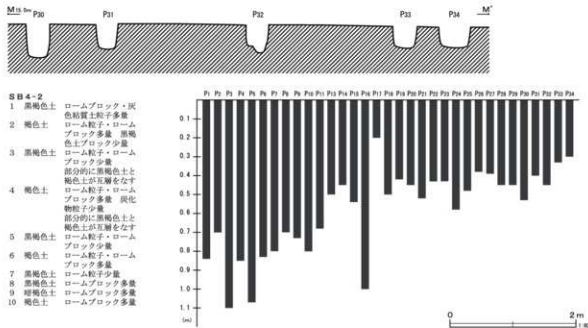
第245图 第4-2号掘立柱建物跡(1)



第246图 第4-2号掘立柱建物跡(2)



第247图 第4-2号掘立柱建物跡(3)



第248図 第4-2号掘立柱建物跡(4)

第4-1号柵列跡(第255図)

L 5・I 10、L 6・I 1グリッドに位置する。

P 1～12が確認された。総延長10.8mにわたる。柱間の並びが不規則な点があること、柱穴の重複があることなどから、柱穴の建て替えがあったとも考えられる。

柱間は0.5～2.0m(平均1.2m)、柱穴の規模は、25×28cm～38×43cmで円形または楕円形、深さは12～72cmと幅がある。方位はN-62°-Eを指す。軸方位から推して、第4-2号柵列と同じく、第4-4号掘立柱建物跡(N-63°-E)との関連が想定される。

第4-2号柵列跡と第4-4号掘立柱建物跡との距離は45cm程である。本柵列跡は第4-4号掘立柱建物跡の西側桁行の北から2間目から始まり、第4-2号柵列跡(N-63°-E)とも平行関係にあるといえる。

遺物は出土しなかった。

第4-2号柵列跡(第255図)

L 6・I 1グリッドに位置する。

P 1～4が確認された。総延長4.8m、3間である。

柱間は0.7～2.9m(平均1.6m)、柱穴の規模は、16×23cm～23×32cmで円形または楕円形、深さは28～35cmを測る。方位はN-63°-Eを指す。本柵列の方位から推して、第4-1号柵列跡(N-63°-E)と同じく、第4-4号掘立柱建物跡(N-63°-E)との関連が想定される。

第4-4号掘立柱建物跡の、北側桁行の延長線上を西へ0.4m程の距離に位置する。第4-1号柵列跡との距離は0.8m程である。

遺物は出土しなかった。

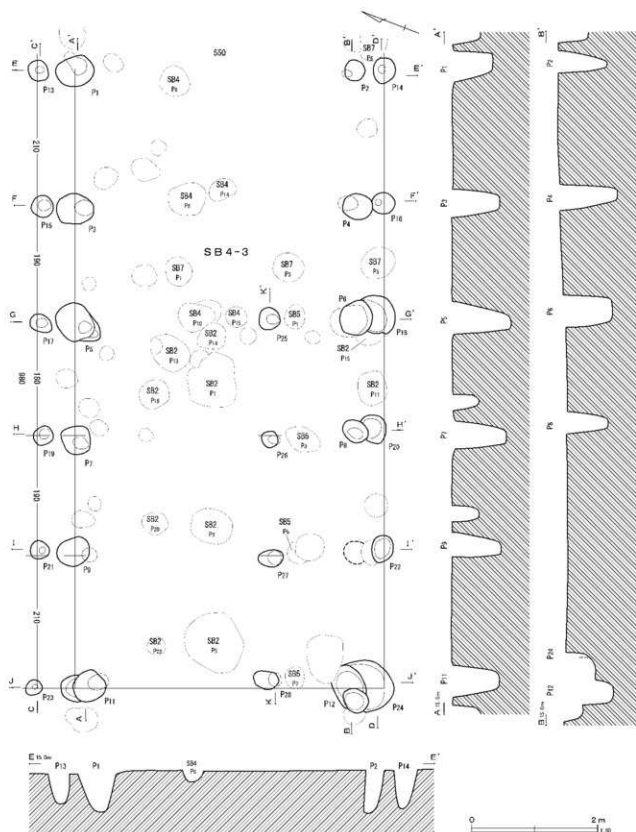
第4-3号柵列跡(第255図)

L 6・I 1グリッドに位置する。

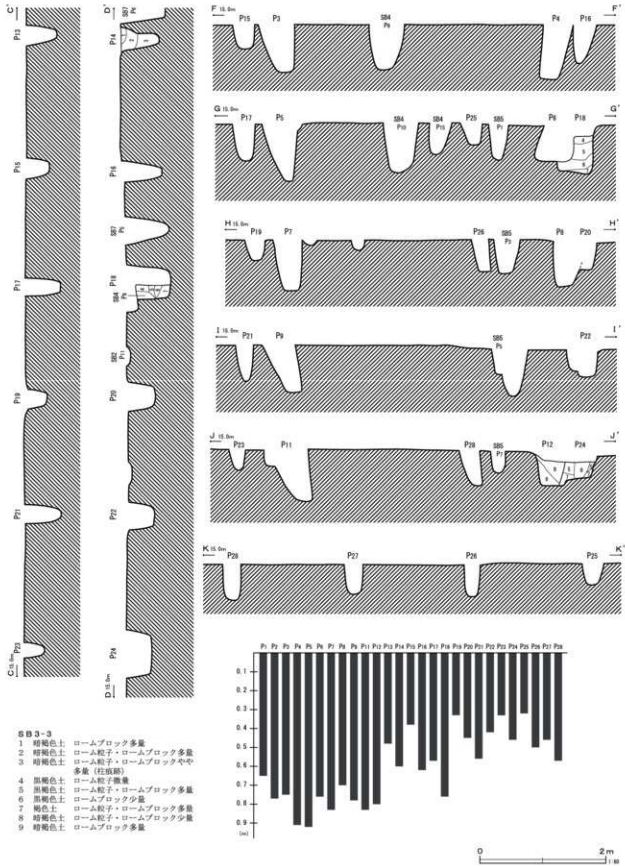
P 1～6が確認された。総延長4.4mである。重複する柱穴が存在することから、建て替えの可能性が想定される。

柱穴の規模は、25×30cm～37×43cmの円形または楕円形、深さは19～68cmと幅がある。方位はN-68°-Eを指す。本柵列の方位と位置から推して、第4-3号掘立柱建物跡(N-69°-E・距離60cm)との関連が想定される。第3号掘立柱建物跡との距離は60cm程である。

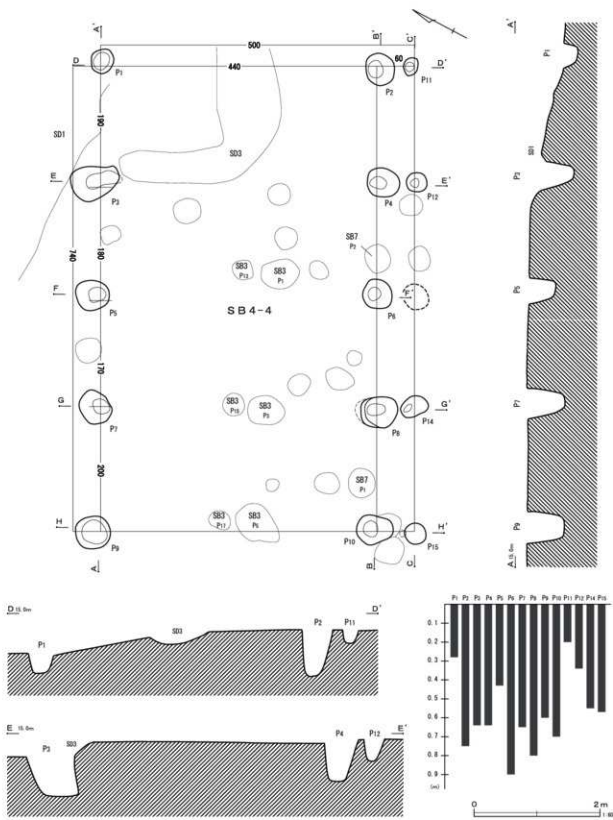
遺物は出土しなかった。



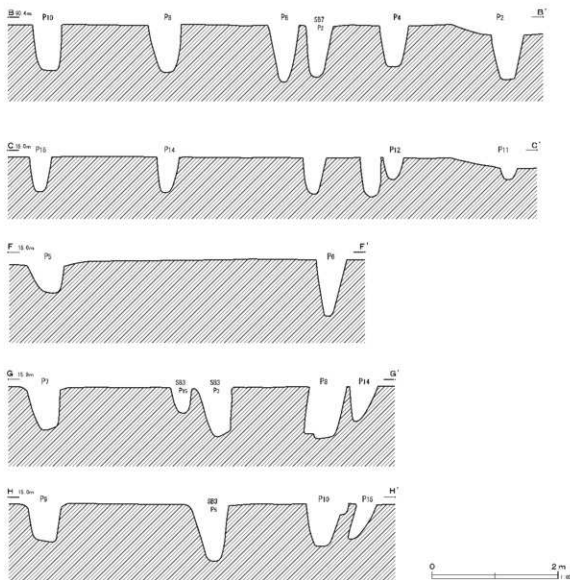
第249图 第4-3号掘立柱建物迹(1)



第250図 第4-3号掘立柱建物跡(2)



第251图 第4-4号掘立柱建物迹(1)



第252図 第4-4号掘立柱建物跡(2)

第6-1号掘立柱建物跡(第258図)

L6・J3、M6・A2、A3グリッドに位置する。

第6-2・3号掘立柱建物跡、第6-38・44・49号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行3間(5.1m)×梁行1間(2.9m)、面積は14.79㎡である。主軸方位はN-24°-Wを指す。柱間は桁行1.6~1.8m(平均1.7m)である。

柱穴の規模は28×30cm~31×35cmの円形または楕円形で、深さは42~85cmである。柱穴の径に

較べて深度は大きいといえよう。

P6では、柱痕跡が確認された。遺物は出土しなかった。

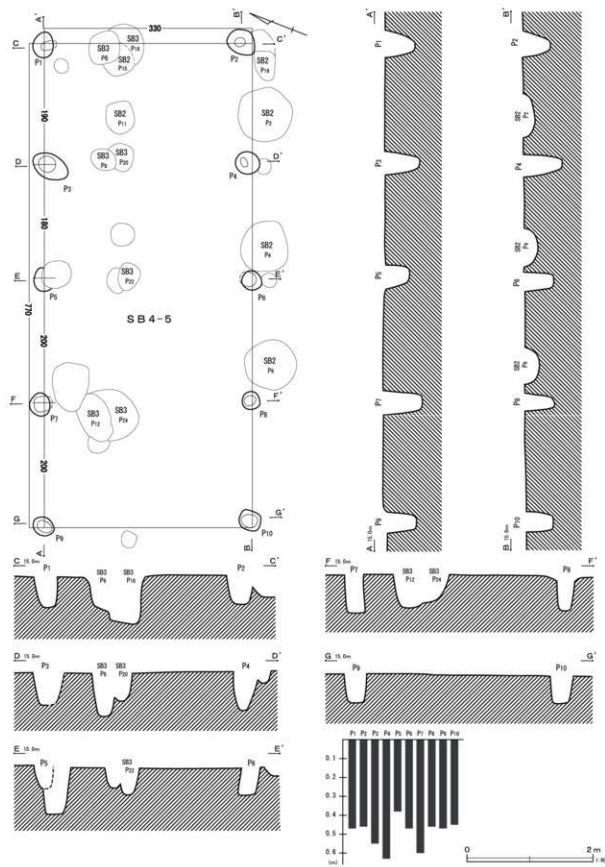
第6-2号掘立柱建物跡(第257図)

M6・A3グリッドに位置する。

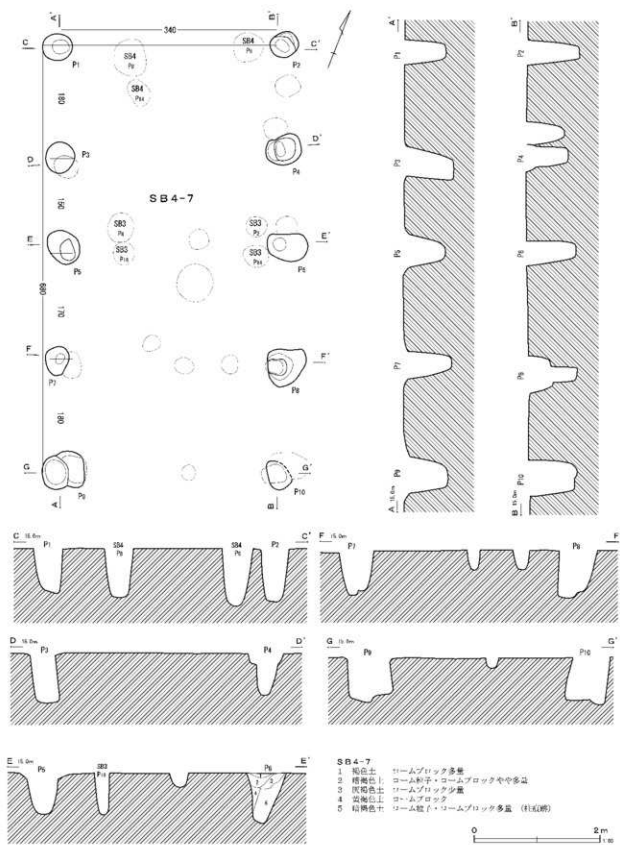
第6-1・3号掘立柱建物跡、第6-38号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行南北1間(2.9m)×梁行東西2間(3.0m)、面積は8.7㎡である。主軸方位はN-27°-Wを指す。柱間は梁行1.5mである。

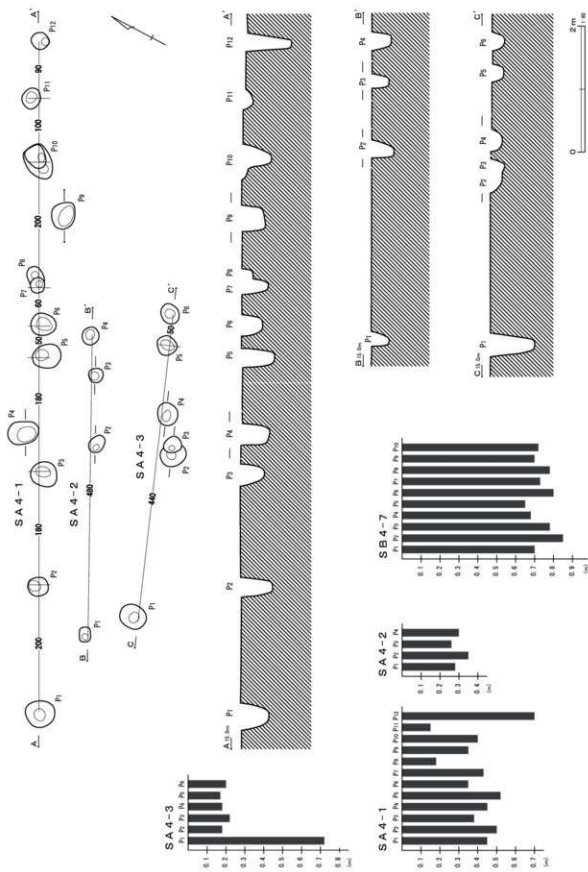
柱穴の規模は21×25cm~30×35cmの円形または楕円形で、深さは35~57cmと小規模である。



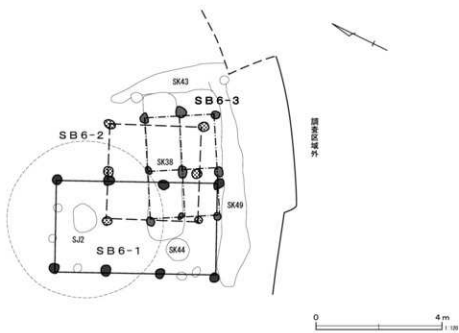
第253图 第4-5号掘立柱建物迹



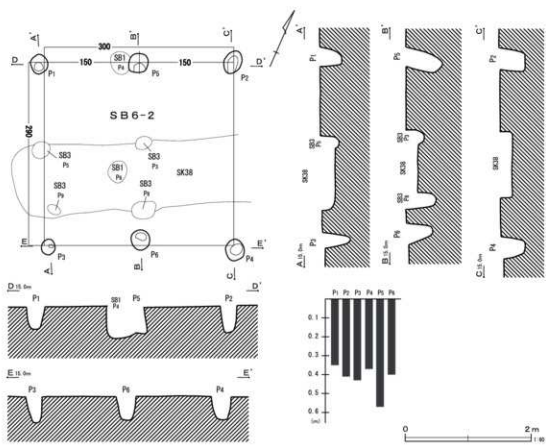
第254図 第4-7号掘立柱建物跡



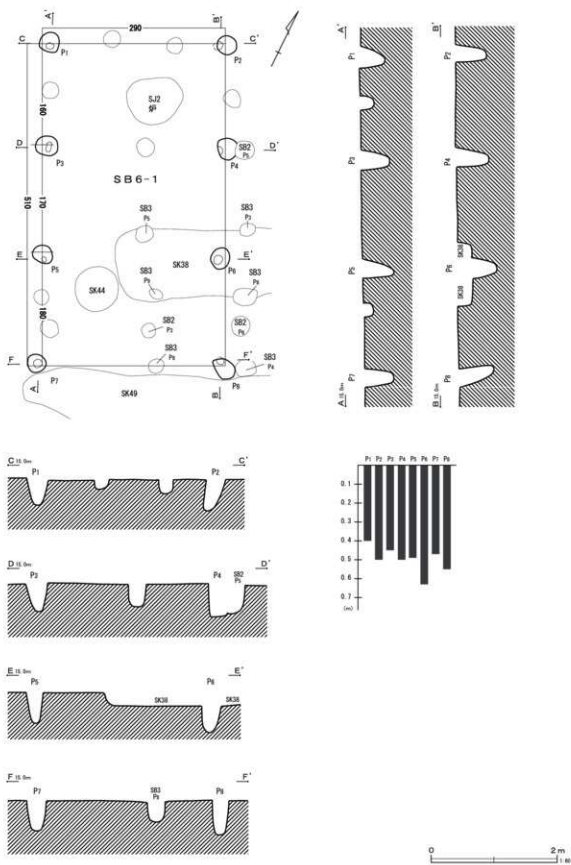
第255图 栅列



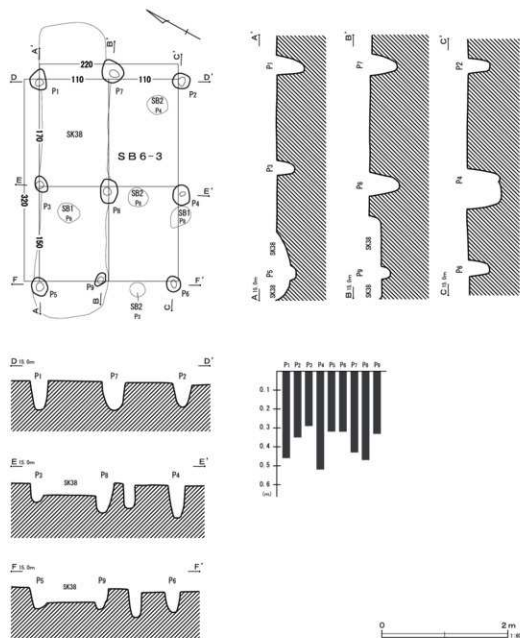
第256图 第6地点掘立柱建物配置图



第257图 第6-2号掘立柱建物跡



第258图 第6-1号掘立柱建物跡



第259図 第6-3号掘立柱建物跡

遺物は出土しなかった。

第6-3号掘立柱建物跡 (第259図)

M6・A3グリッドに位置する。

第6-1・2号掘立柱建物跡、第6-38号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行2間(3.2m)×梁行2間(2.2m)、面積は7.04㎡の、総柱建物である。主軸方

位はN-62°-Eを指す。柱間は、桁行1.4~1.8m(平均1.6m)、梁行1.0~1.2m(平均1.1m)である。

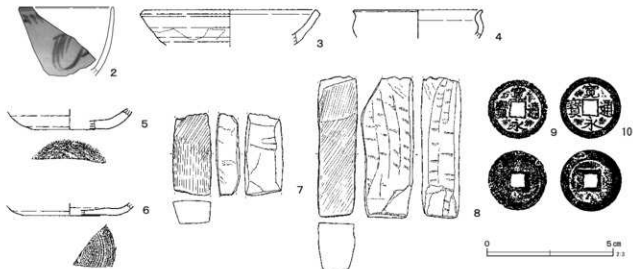
柱穴の規模は15×24cm~35×38cmの円形または楕円形で、深さは29~52cmと小規模である。柱穴の径に較べて深度は大きいといえよう。

遺物は出土しなかった。

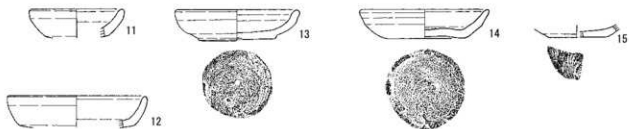
SB4-1



SB4-2



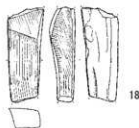
SB4-3



SB4-4



SB4-5



SB4-5・6



SB4-6



SB4-7



第260図 掘立柱建物跡出土遺物

第25表 掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	類別	部類	産地	焼(平%)	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	構成 物	物理状態	成形技法	器種・原形 分類	文様	備考
1	SB4-1	陶器	小杯	瀬戸・美濃	20	(7.3)	(3.3)	3.3	灰白	普通	鉄胎	縦織	刷り出し高台		17C後半 P7
2	SB4-2	磁器	碗	肥前	5			(5.5)	灰白磁器	良好	灰胎	縦織		唐文か	18C前~中
3	SB4-2	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(12.4)		(2.8)	灰白磁砂胎	普通	灰胎	縦織			17C代か P7
4	SB4-2	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(10.4)		(2.3)	灰白	良好	灰胎	縦織			買入多 18C P4
5	SB4-2	土器	かわらけ		25		(6.0)	(1.4)	焼	普通		縦織	底部回転未切り跡し		顕著しい P15
6	SB4-2	土器	かわらけ		10		(7.4)	(1.0)	焼	普通		縦織	底部回転未切り跡し		P5
7	SB4-2	石製品	礎石												P31
8	SB4-2	石製品	礎石												P20
9	SB4-2	古銭	寛永通宝												
10	SB4-2	古銭	寛永通宝												
11	SB4-3	土器	かわらけ		10	(7.4)		(2.2)	焼	普通		縦織			P11
12	SB4-3	土器	かわらけ		15	(11.0)	(9.0)	(2.4)	焼	普通		縦織	底部回転未切り跡し		顕著しい P8
13	SB4-3	土器	かわらけ		95	9.6	6.0	2.4	洗青磁器	普通		縦織	底部回転未切り跡し		P8
14	SB4-3	土器	かわらけ		90	10.0	6.1	2.3	焼 砂粒	普通		縦織	底部回転未切り跡し		唐文状にターナー付着 付明部に転用か P8
15	SB4-3	土器	かわらけ		20	(4.4)	(3.0)		こたゝ肌	普通		縦織	底部回転未切り跡し		P4
16	SB4-4	鉄製品	釣針か			A3.3cm	B2.1cm	C0.4cm	D0.3cm	重23.6g					顕化著しい P2
17	SB4-4	鉄製品	釘			A3.3cm	B0.7cm	C0.6cm	D0.5cm	重22.2g					顕化著しい P10
18	SB4-5	石製品	礎石												P5
19	SB4-5-6	土器	かわらけ		5	(5.4)	(1.4)		黄い陶器 砂胎	普通		縦織	底部回転未切り跡し		顕著しい P1
20	SB4-5-6	土器	類焼		5			(5.5)	灰黄	普通					外面保存者 P5
21	SB4-6	土器	かわらけ		5	(12.4)		(1.9)	焼	普通		縦織			P1
22	SB4-7	鉄製品	釘			顕化著しい	A3.5cm	B1.6cm	C0.3cm	D0.5cm	重23.8g	P1			

(2) 土壌

第4-6号土壌 (第261図)

L5・G10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.65m、短軸は0.77m、深さは0.10mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-12号土壌 (第261図)

L6・H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。東側は調査区外となるため、長軸は不明である。短軸は0.94m、深さは0.70mである。長軸方位はN-69°-Eを指す。

遺物は第270図1～7が出土した。1は肥前系の白磁の小鉢、2・3は肥前系の碗、5～7は瀬戸・美濃系と丹波系の摺鉢、4は瀬戸・美濃系の瓶と思われる。

他に礎が多数検出されている。

第4-13号土壌 (第261図)

L6・G1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.65m、短軸は0.90m、深さは0.17mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-14号土壌 (第261図)

L6・G1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.28m、短軸は0.50m、深さは0.21mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-22号土壌 (第261図)

L6・H1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、北西側が深くなっている。長径は1.45m、短径は1.20m、深さは0.19mである。長軸方位はN-37°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-24号土壌 (第261図)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.33m、短径は1.09m、深さは0.13mである。長軸方位はN-23°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-25号土壌 (第261図)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.15m、短径は1.03m、深さは0.11mである。長軸方位はN-83°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-39号土壌 (第261図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.11m、短軸は0.57m、深さは0.11mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-40号土壌 (第261図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.77m、短軸は0.41m、深さは0.06mである。長軸方位はN-57°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-41号土壌 (第261図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.15m、短軸は0.63m、深さは0.24mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-43土壌 (第262図)

L5・H10、I10グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。東側を第4-44号土壌によって切られているため、長軸は不明である。短軸は0.86m、深さは0.09mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-44土壌 (第262図)

L5・H10、I10、L6・H1、I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.30m、短軸は0.98m、深さは0.44mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-45土壌 (第262図)

L5・H10、L6・H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。南側を4-44号土壌、東側を4-46号土壌によって切られているため大きき

は不明である。深さは現況で0.12mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-46号土壌 (第262図)

L6・H1、L6・I1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。南側を第4-44・47号土壌によって切られているため、短径は不明である。長径は0.93m、深さは0.22mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-47号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は方形になると思われるが、西側を第4-44号土壌、東側を第4-48号土壌によって切られているため、大きさは不明である。深さは現況で0.14mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-48号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.53m、短軸は0.76m、深さは0.24mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-52号土壌 (第262図)

M6・A1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.03m、短軸は0.45m、深さは0.18mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-53号土壌 (第262図)

M6・A1、M6・A2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.52m、短軸は0.56m、深さは0.12mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-57号土壌 (第262図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で2.56m、短軸は0.56m、深さは0.05mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

す。

遺物は出土していない。

第4-58号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径は1.50m、短径は0.47m、深さは0.06mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-65号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.93m、短径は0.38m、深さは0.06mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-59号土壌 (第262図)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側は第4-60号土壌と接している。長軸は1.10m、短軸は0.50m、深さは0.13mである。長軸方位は、N-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-69号土壌 (第262図)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。南側は第4-59号土壌と接している。長軸は1.32m、短軸は0.48m、深さは0.13mである。長軸方位は、N-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-63号土壌 (第262図)

L5・I10、L6・I1グリッドに位置する。北西部を第4-1号溝跡によって一部削平されているが、平面形は楕円形である。長径は1.06m、短径は0.93m、深さは0.20mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-64号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。径は約1.00mで深さは0.51mである。

遺物は出土していない。

第4-66号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円

形を呈する。長径は0.93m、短径は0.46m、深さは0.07mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-6号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.90m、短径は0.37m、深さは0.13mである。長軸方位はN-47°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-1号土壌 (第263図)

L4・H4グリッドに位置する。第6-3・4・6号溝跡の中に位置する。平面形は楕円形で底部は2箇所深い部分がある。長径は1.83m、短径は1.30mで、掘り込みは深く1.78mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-2号土壌 (第263図)

L6・J6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.16m、短径は1.00m、深さは0.35mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-3号土壌 (第263図)

L6・J6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.35m、短軸は0.75m、深さは0.38mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物はかわかけの破片が出土した。

第6-4号土壌 (第263図)

M6・A5、A6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.42m、短軸は1.03m、深さは0.14mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-5号土壌 (第263図)

L6・J7グリッドに位置する。南側は第6-6号土壌と重複している。平面形は円形を呈し、南側がやや深くなっている。長径は0.78m、短径は0.60m、深さは0.35mである。

遺物は出土していない。

第6-6号土壌 (第263図)

L6・J7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は現況で1.05m、短径は0.93m、深さは0.14mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-7号土壌 (第263図)

M6・B3グリッドに位置する。南側が調査区外になる。平面形は円形を呈する。径は0.76m、深さは0.21mである。

遺物は出土していない。

第6-8号土壌 (第264図)

M6・A3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側が調査区外となるため長軸は不明である。短軸は0.62m、深さは0.36mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-9号土壌 (第264図)

M6・A4グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側が調査区外となるため長軸は不明である。短軸は0.56m、深さは0.30mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-10号土壌 (第264図)

L4・H4、H5グリッドに位置する。第6-11号土壌と重複する。平面形は円形を呈し、開口部より掘り込み部分は袋状になっている。深さは1.83mである。

遺物は出土していない。

第6-11号土壌 (第264図)

L4・H4、H5グリッドに位置する。底面北西側に第6-10号土壌が掘られていた。平面形は長方形を呈する。長軸は2.00m、短軸は0.73m、深さは0.29mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-13号土壌 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方

形を呈する。長軸は3.57m、短軸は0.53m、深さは0.19mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第6-14号土壌 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。中央が大きく攪乱されていた。長軸は3.20m、短軸は0.50m、深さは0.11mである。長軸方位はN-21°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-15号土壌 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側は第6-14号土壌と重複し、攪乱が入っていた。短軸は0.56m、深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-16号土壌 (第264図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.05m、短軸は0.54m、深さは0.20mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-17号土壌 (第265図、第270図8)

L6・I2グリッドに位置する。第6-17~24号土壌が重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は4.27m、短軸は0.47m、深さは0.30mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は8の瀬戸・美濃系の皿が出土した。

第6-18号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形で、北側を攪乱で壊されている。長軸は現況で5.66m、短軸は0.55m、深さは0.14mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-19号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側は第6-18号土壌によって切られているため、不明である。長軸は現況で6.90m、短軸は0.55m、深さは0.10mである。長軸方位は

N-15°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-20号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。東西部分を6-17・18号土壌によって切られているため規模は不明である。北側の短軸面から平面形は長方形になると思われる。深さは0.18mである。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第6-21号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。北側を第6-22号土壌に切られているため長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.45m、深さは0.12mである。

遺物は出土していない。

第6-22号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。西側を第6-19号土壌に切られており、規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-23号土壌 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。長軸両端を第6-19・24号土壌によって切られているため、規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-24号土壌 (第265図、第270図9)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.50m、短軸は0.75m、深さは0.20mである。長軸方位はN-17°-Wを指す。

遺物は、9の瀬戸・美濃系の菊島の破片が出土した。

第6-25号土壌 (第266図)

L6・I2、I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.07m、短軸は0.58m、深さは0.22mである。長軸方位はN-75°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-26号土壌 (第266図)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.10m、短軸は0.42m、深さは0.19mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。

遺物は瀬戸・美濃系の鉢、かわらけの破片が出土した。

第6-27号土壌 (第266図)

L6・I3、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。西側は第6-26・33号土壌と重複するため、長軸は不明である。短軸は0.58m、深さは0.16mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-33号土壌 (第266図、第270図13)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。一辺の長さは1.42m、深さは0.43mである。

遺物は、13の古銭が出土した。

他にかわらけの破片が出土している。

第6-28号土壌 (第266図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.5m、短軸は0.6m、深さは0.3mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-36号土壌 (第266図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.22m、短軸は0.52m、深さは0.13mである。長軸方位はN-63°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第6-29号土壌 (第267図、第270図10～12)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は7.40m、短軸は0.55m、深さは0.30mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は10～12が出土した。10は瀬戸・美濃系の皿、11は肥前の皿、12は焙烙である。

他に瀬戸・美濃系の高炉、甕、皿の破片、焙烙

とかわらけの破片が出土している。

第6-30号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。西側の一部が第6-29号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.23m、短軸は0.54m、深さは0.25mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-31号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北西側を第6-29号土壌と重複している。長軸は2.25m、短軸は0.62m、深さは0.14mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-32号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。西側を第6-29号土壌と重複しているため、短軸の大きさは不明である。長軸は1.38m、深さは0.14mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-34号土壌 (第267図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.62m、短軸は0.50m、深さは0.19mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は瀬戸・美濃系の碗破片が出土した。

第6-35号土壌 (第267図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.53m、短軸は0.38m、深さは0.25mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

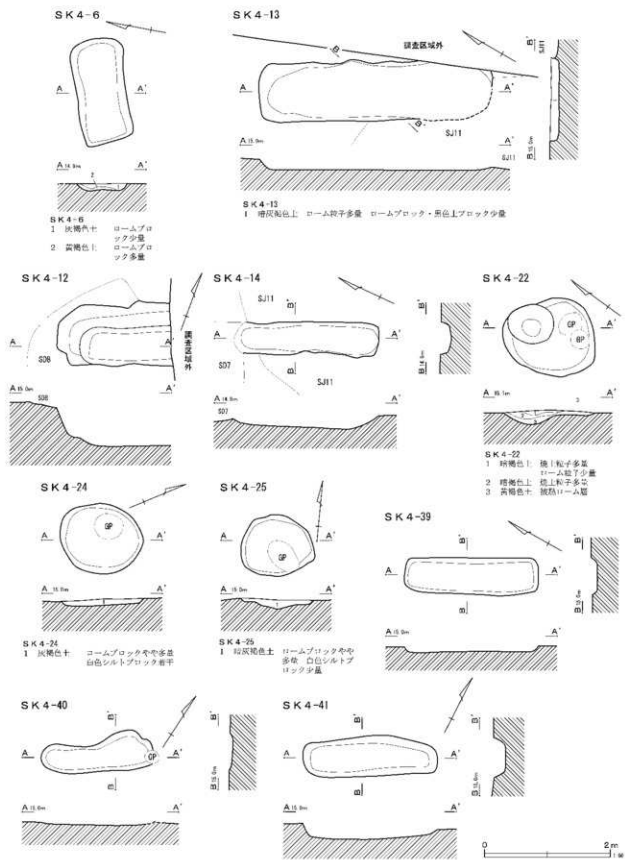
第6-37号土壌 (第267図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.16m、深さは0.41mである。

遺物は瀬戸・美濃系の碗破片が出土した。

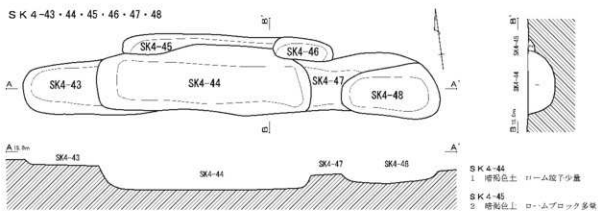
第6-39号土壌 (第267図)

L6・I3グリッドに位置する。南側を攪乱によって壊されている。現況では平面形は楕円形を



第261図 土壌 (1)

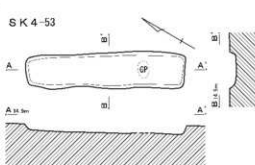
S K 4-43・44・45・46・47・48



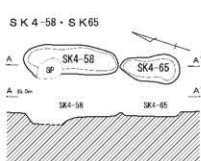
S K 4-52



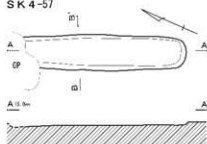
S K 4-53



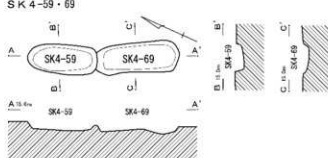
S K 4-58・S K 65



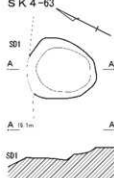
S K 4-57



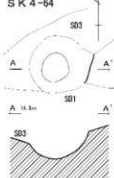
S K 4-59・69



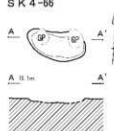
S K 4-63



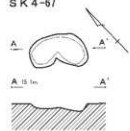
S K 4-64



S K 4-66

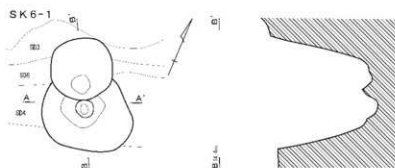


S K 4-67

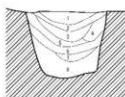


0 2 m

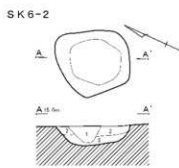
第262図 土壇(2)



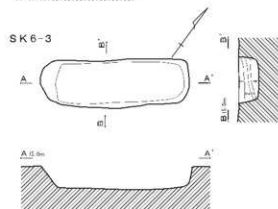
A-B 1m A'



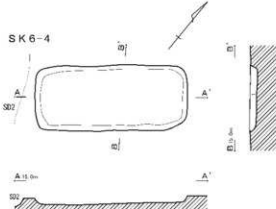
- SK6-1
- 1 灰褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック、灰化物散在若干
 - 2 暗褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック少量
 - 3 黒褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック若干
 - 4 暗褐色土 コーラム跡下少量
 - 5 褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック少量
 - 6 灰褐色土 コーラム跡下、コーラムブロック、灰化物散在少量
 - 7 褐色土 コーラム跡下少量
 - 8 黒褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック若干



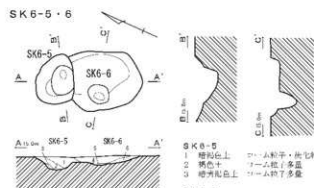
- SK6-2
- 1 黒褐色土 コーラム跡下少量 灰化物散在、灰土散在若干
 - 2 暗褐色土 コーラム跡下少量 灰化物散在若干
 - 3 褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック若干



- SK6-3
- 1 黒褐色土 コーラム跡下、コーラムブロック少量
 - 2 暗褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック少量
 - 3 黒褐色土 コーラム跡下若干 コーラムブロック少量
 - 4 褐色土 コーラム跡下少量 コーラムブロック少量

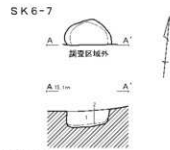


- SK6-4
- 1 黒褐色土 コーラム跡下少量 焼土散在若干



A-B 1m SK6-5 SK6-6 A'

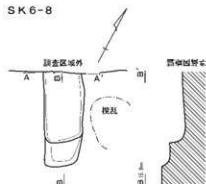
- SK6-5
- 1 暗褐色土 コーラム跡下、焼土散在若干
 - 2 褐色土 コーラム跡下少量
 - 3 暗褐色土 コーラム跡下少量
- SK6-6
- 1 暗褐色土 コーラム跡下少量
 - 2 暗褐色土 コーラム跡下少量
 - 3 暗褐色土 コーラム跡下少量



- SK6-7
- 1 暗褐色土 コーラム跡下、コーラムブロック少量 灰白色粘土粒下若干 灰白色粘土ブロック少量
 - 2 黒褐色土 コーラム跡下少量

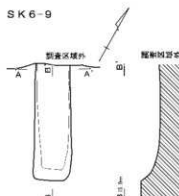
0 2m 1/100

SK 6-8



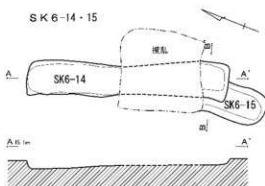
SK 6-8
1 暗灰褐色土 灰白色粘土粒子・灰白色粘土・ブロック少量
ローム粒子少量

SK 6-9



SK 6-9
1 暗灰褐色土 ロームブロック若干 灰白色粘土粒子・灰白色粘土・ブロック少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック少量
灰白色粘土粒若干
3 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

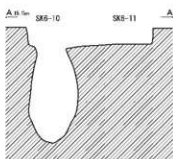
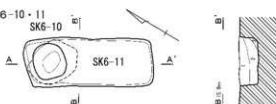
SK 6-14-15



SK 6-14
1 暗灰褐色土 ローム粒子少量 灰白色粘土粒子少量

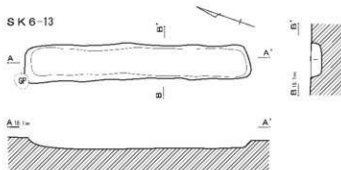
SK 6-15
2 暗褐色土 ローム粒子少量

SK 6-10-11



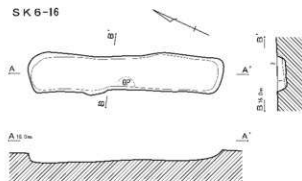
SK 6-11
1 暗褐色土 ローム粒子少量 粘土粒若干
2 暗褐色土 ローム粒子少量
ロームブロック少量
3 暗褐色土 ロームブロック少量

SK 6-13



SK 6-13
1 暗灰褐色土 ローム粒子少量 灰白色粘土・ブロック多量
ロームブロック若干

SK 6-16

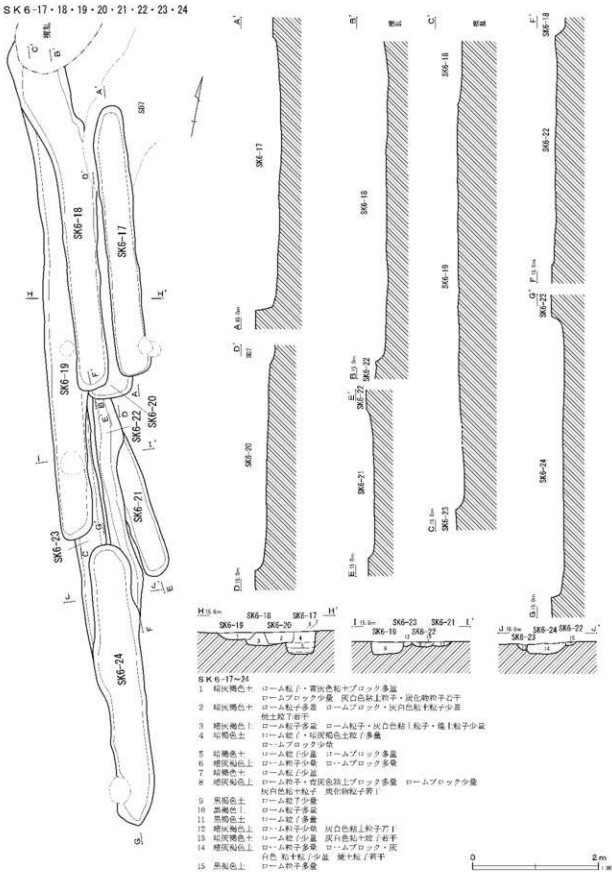


SK 6-16
1 暗灰褐色土 ローム粒子・灰白色粘土粒子・灰白色粘土・ブロック少量
ロームブロック多量
2 暗褐色土 ローム粒子少量

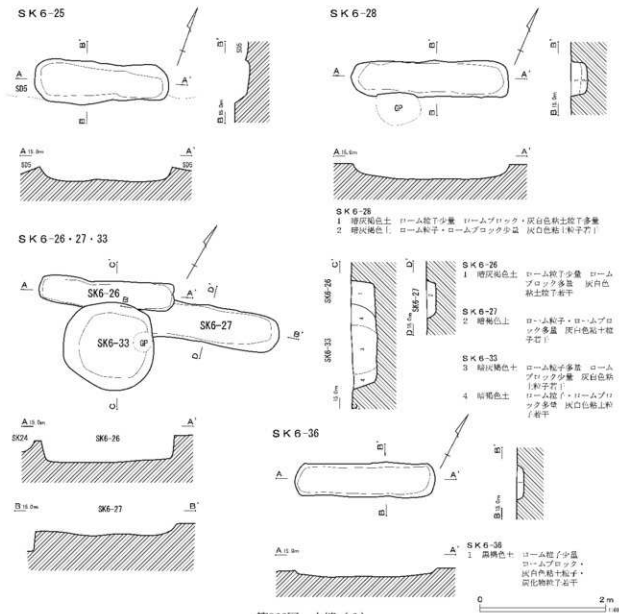
0 2m
1:100

第264図 土壌 (4)

SK6-17・18・19・20・21・22・23・24



第265図 土壌(5)



呈すると思われる。現況で計測可能な長径は1.17m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第6-40号土壌 (第267図)

L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、西側が深くなっている。長径は0.99m、短径は0.63m、深さは0.70mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-41号土壌 (第267図)

L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は円形

を呈する。径は0.95m、深さは0.68mである。

遺物は出土していない。

第6-42号土壌 (第267図)

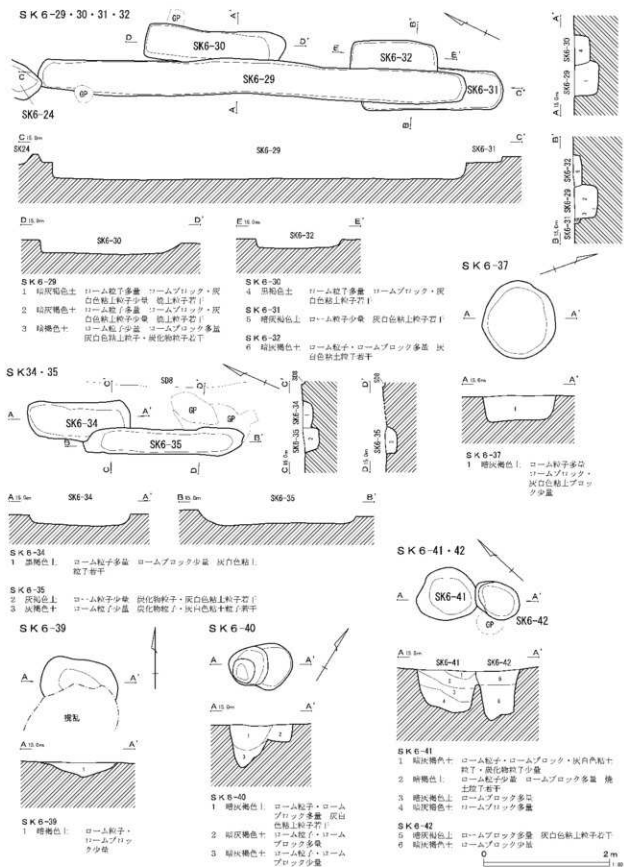
L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は約0.80m、深さは0.80mである。

遺物は出土していない。

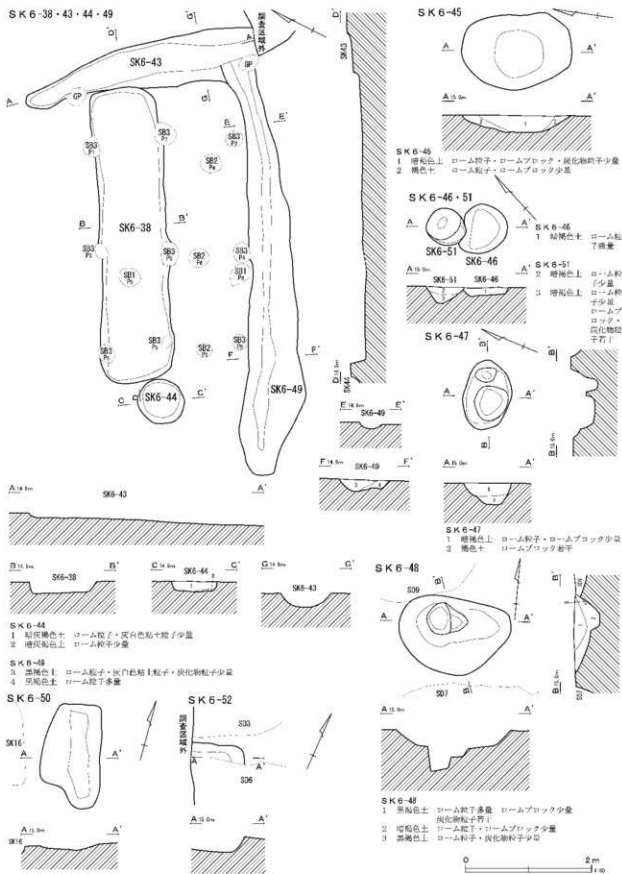
第6-38号土壌 (第268図)

M 6・A 3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.66m、短軸は1.05m、深さは0.21mである。長軸方位はN-61°-Eを指す。

遺物は出土していない。



第267図 土壌(7)



第268図 土壌 (8)

第6-43号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。北東部は調査区外となるため、長さは不明である。平面形は長楕円形を呈する。短径は0.73m、深さは0.10mである。長軸方位はN-40°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-44号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.69m、深さは0.23mである。

遺物は瀬戸・美濃系の摺鉢、かわらけ、焙烙の破片が出土した。

第6-49号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。北東側は第6-43号土壌に切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径は現況で6.70m、短径は1.00m、深さは0.20mである。長軸方位はN-62°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-45号土壌 (第268図)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.70m、短径は1.13m、深さは0.27mである。長軸方位はN-8°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-46号土壌 (第268図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.80m、深さは0.12mである。

遺物は出土していない。

第6-51号土壌 (第268図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.65m、深さは0.32mである。

遺物は出土していない。

第6-47号土壌 (第268図)

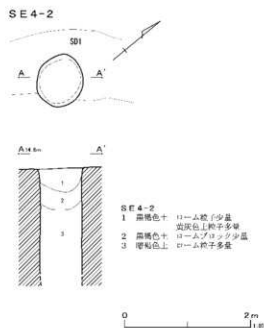
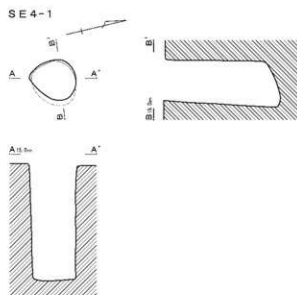
L6・J2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、底面に2箇所の窪みがある。長径は1.09m、短径は0.72m、深さは0.38mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-48号土壌 (第268図)

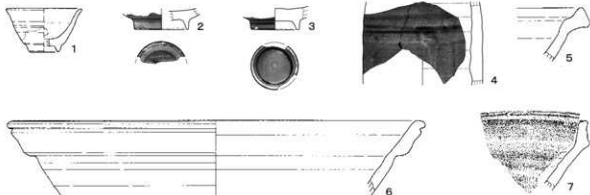
L6・H2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、中央部に1段深くなっている。長径は1.77m、短径は1.22m、深さは0.66mである。長軸方位はN-85°-Eを指す。遺物は出土していない。

遺物は焙烙の破片が出土した。



第269図 井戸跡

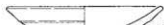
SK 4-12



SK 6-17



SK 6-29



SK 6-33

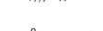


SK 6-24



12

SE 4-1

0 5cm
1:30 10cm
1:3

第270図 土壇・井戸跡出土遺物

第26表 土壇・井戸跡出土遺物観察表

番号	遺構	種類	器種	産地	焼印率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	施土	釉薬装飾	成型技法	割製・器形の持	文様	備考
1	SK 4-12	白磁	小鉢	肥前	40	(6.0)	(2.4)	3.5	灰白	細密	良好	轆轤	割付出し高台		17C前半
2	SK 4-12	磁器	碗	肥前	5		(4.2)	(1.7)	灰白	細密	良好	透明釉	灰白輪→黄白線・黒二重線 線内→黄白線 線・黄		17C前半中
3	SK 4-12	磁器	碗	肥前	90		3.7	(1.7)	灰白	細密	良好	透明釉	買入多 高台 割二重 黄白線 内→黄白線		買入多 高台 16C代
4	SK 4-12	陶器	瓶	瀬戸・美濃	10			(6.7)	浅黄	良好	灰石粉 鉄粉	轆轤			志野 二次の被熱少 17C初
5	SK 4-12	陶器	罐鉢	瀬戸・美濃	5			(4.2)	灰白 微砂粒	良好	鉄粉	轆轤			17C中～後
6	SK 4-12	陶器	罐鉢	瀬戸・美濃	10	(33.0)		(6.6)	灰青 微砂粒	普通	鉄粉	轆轤			18C後半～19C前半
7	SK 4-12	陶器	罐鉢	丹波	5			(5.0)	灰青	砂粒	良好	鉄粉少			17C後半中
8	SK 6-17	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(7.2)	(1.3)	灰白	細密	良好	灰釉	轆轤	見込小高台跡	買入多 (内) 16C前～中
9	SK 6-24	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			(1.5)	浅黄	普通	灰・緑釉	轆轤	型打% 買入多		黄白 17C代
10	SK 6-24	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(11.8)		(2.1)	灰白	細密	良好	灰釉	型打% 買入多		17C後～18C前

番号	遺構	類別	部類	床地	残存率 (%)	口径 (cm)	延長 (cm)	掘削 (cm)	土質	構成	作業状況	成型技法	器種・形状の 特徴	文 様	備 考
11	SK 6-24	陶器	皿か	肥前	5	(15.2)		(2.3)	灰白	良好	外縁縁起・ 内底平縁	縦縞			17C後半～18C前半
12	SK 6-24	土器	壺類		5			(6.3)	灰黄	良好					
13	SK 6-33	古銭か	寛永通寶												機曾の成蹟を譲したもので
14	SE 4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	70		4.8	(2.3)	灰白微砂粒	良好	鉄物	縦縞	縁り出し高台		天目模 二次的磨熟か（見込み 白色化し気配あり） 18C前 一中
15	SE 4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(10.4)		(5.3)	微砂粒微量	良好	鉄物 鉄物	縦縞			磨熟度高 18C末～19C前半
16	SE 4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	25	(6.8)	(1.8)	灰黄	良好	灰物	縦縞 型打ち	縁り出し高台 目輪未切り			築山 見込みに円蓋セン跡1ヶ 所 18C前半
17	SE 4-1	土器	壺類		5			(5.2)	灰黄微砂粒	普通					外周スス付着
18	SE 4-1	土器	壺類		5			(5.2)	灰黄微砂粒	普通					外周スス付着

第6-50土壌 (第268図)

L 6・I 2、I 3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.64m、短軸は0.90m、深さは0.09mである。長軸方位はN-15°-Wを指す。遺物は出土していない。

第6-52土壌 (第268図)

L 6・H 3グリッドに位置する。東側が調査区外、南側を第6-6号溝によって削平されているため、遺構の規模は不明である。深さは0.23mである。遺物は出土していない。

(3) 井戸跡

第4-1号井戸跡 (第269図)

L 5・H10グリッドに位置する。第4-1号掘立柱建物跡の西側に近接する。平面形は円形を呈する。径は0.70m、深さは1.30mである。

遺物は出土しなかった。

第4-2号井戸跡 (第269図)

L 5・H10グリッドに位置する。第4-2号掘立柱建物跡の北側、第4-1号柵列の西端に近接している。平面形は円形を呈し、径は0.90mである。深さは1.20mまで調査したが、安全のためそこで中止した。

遺物は出土しなかった。

(4) 溝跡

第4地点で検出された溝跡は11条。第6地点では10条、計21条である。これらの溝跡の何条かは、掘立柱建物跡や柵列跡、井戸跡などを取り込むかのように存在しており、家敷地を区画する溝と考えられる。

第4-1号溝跡 (第271・272図、第274図1～18)

L 5・I 9、I 10、J 8、J 9、J 10、M 5・A 7、A 8、L 6・I 1、I 2グリッドに位置する。

第4-1・2・11・18・63号土壌と第4-2号井戸跡およびピットと重複するが、いずれも新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びている、東側は途切れる。第6-5号溝跡との距離は1.5mである。第4-2号溝跡とは、平行に走っている。検出した範囲内での長さは55.0m、幅は1.7～3.2m、深さは0.6～1.1mを測り、方位はN-62°-Eを指す。西端部より43mの部分から、30度程右に屈曲する。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は幅広い葉研堀に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。本溝跡は、南に存在する掘立柱建物跡や柵列跡を、第6-5号溝跡（または第6-3・4・6号溝跡）

と共に取り込み区画溝と推定される。

遺物は、1～6は瀬戸・美濃系の陶器類、他に焙烙・かわらけ・砥石・金属製品等、あわせて18点が出土した。

第4-2号溝跡 (第271・272図、第274図19～21)

L5・I9、I10、J7、J8、J9グリッドに位置する。

第4-1号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は途絶えているが、東側については第4-11号溝跡と重複もしくは、合流している。両溝跡は平行に走っている。

検出した範囲内での長さは29.0m、幅は0.8m、深さは0.2mを測り、方位はN-62°-Eを指す。

平面形は幅に振幅があるかほぼ直線状を呈し、断面形は椀状に近い。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共存関係の有無や新旧関係は不明である。しかし、第4-1号溝跡とは位置関係から、関連性があると考えられる。

遺物は、19の瀬戸・美濃系の陶器(搦鉢)の他、鉄製の火打ち金(20)、砥石(21)が出土した。

第4-3号溝跡 (第272図)

L6・H1、H2、I1、I2グリッドに位置する。

第4-64号土壇、第4-1号土壇と重複するが、新旧関係は不明である。西側は第4-1号溝跡と重複している。東側は途切れる。

検出した範囲内での長さは3.2m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位はN-19°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面の形状は箱型である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共存関係の有無や、新旧関係は不明である。これらの溝跡が、家敷地の区画溝か、根切溝かは不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-4号溝跡 (第271・272図、第274図22～31)

L5・H9、H10、K9・I9、I10グリッドに位置する。

平面図上では、何条もの溝跡があるかのような表現となっている。これは、同場所に溝を複数条掘られている為と考えられる。第4-11号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。西側と東側は共に、調査区内で収束するが、東側については第4-11号溝跡と合流した可能性がある。

検出した範囲内での長さは11.5m、幅は0.6m、深さは0.2～0.4mを測り、方位はN-67°-Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるかほぼ直線状を呈し、断面形は、底面が平坦な逆台形である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共存関係の有無や新旧関係は不明である。これらの溝跡が、家敷地の区画溝か、根切溝かは不明である。

遺物は、肥前系の磁器碗4点をはじめとして、計10点の遺物が出土した。

第4-5号溝跡 (第272図、第277図72～78)

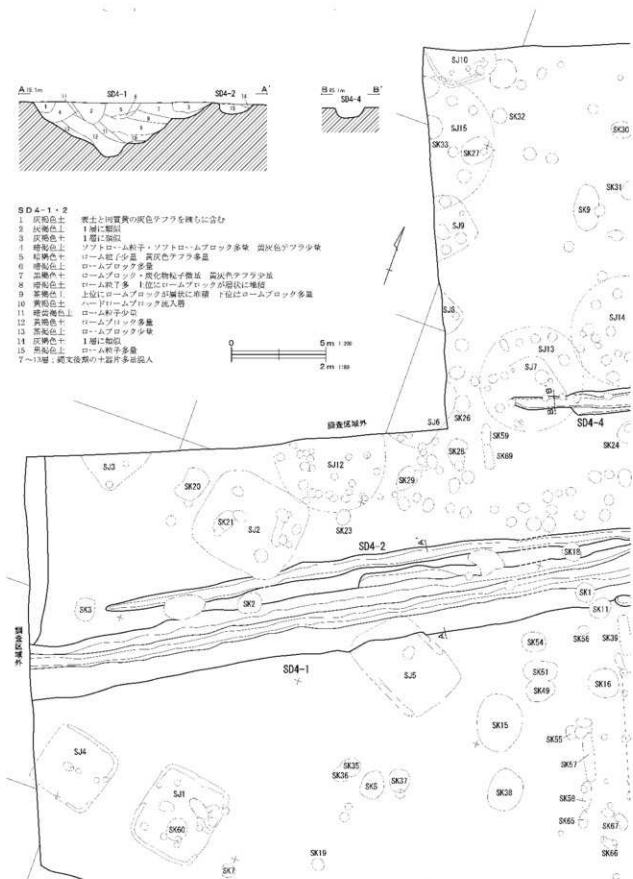
L5・G9、G10、H10グリッドに位置する。

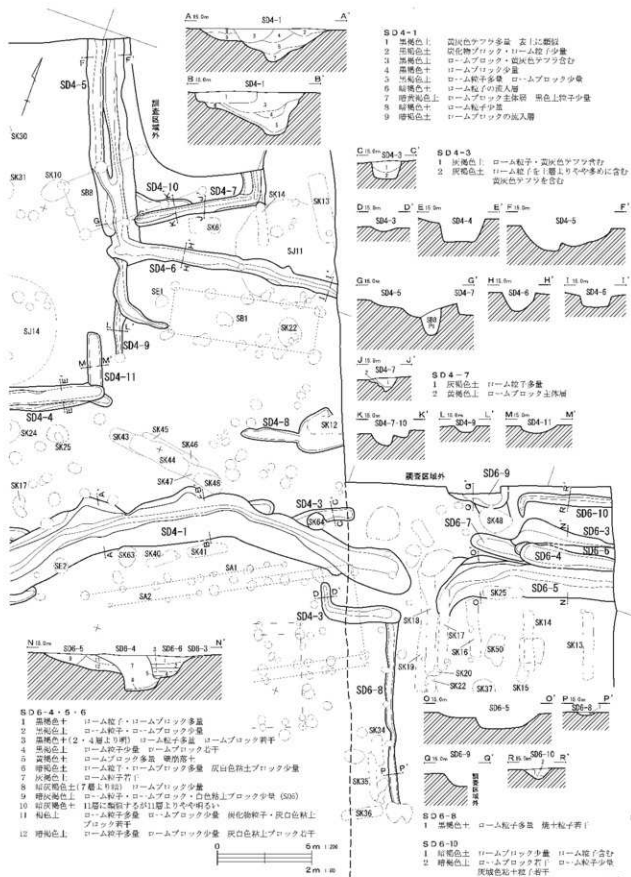
南北に複数条の溝跡が存在するが、同一の遺構番号が付されている。調査時の所見で、同じ場所に溝を複数条掘り直した結果と考えられる。

第4-8号掘立柱建物跡、第4-6・7・9・10号溝跡および1つのピットと重複するが、新旧関係は不明である。北側は調査区外に続き、南側はやや鍵の手状に屈曲して途絶える。本溝跡は、一つの可能性として、第4-6号溝跡に連結する可能性も考えられる。

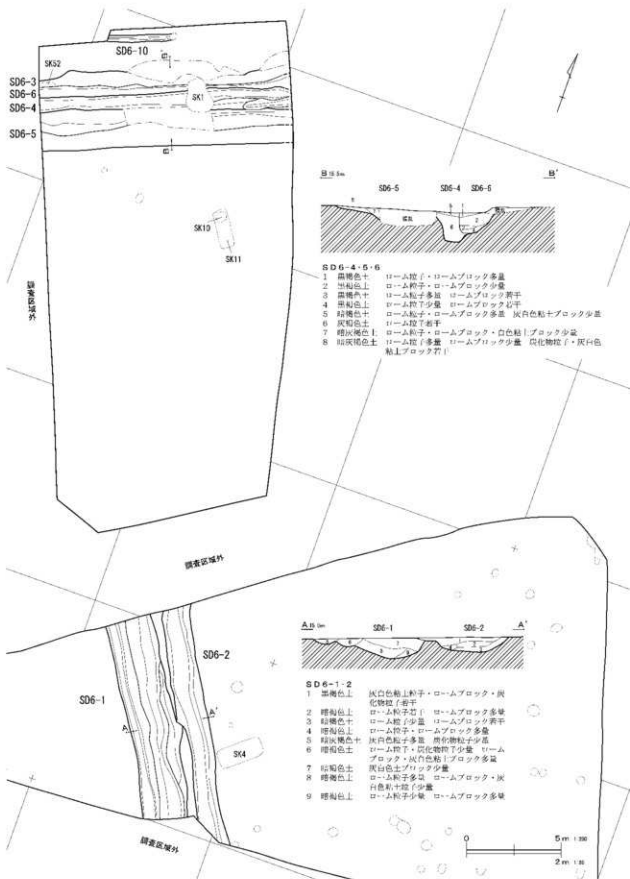
検出した範囲内での長さは16.5m、幅は0.12～0.22m、深さは0.3～0.5mを測り、方位はN-25°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるかほぼ直線状を呈する。断面形は、皿状もしくは椀状である。





第272図 溝跡(2)



第273図 溝跡 (3)

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。しかし、瓦置等から屋敷地に伴う区画溝の可能性が考えられる。

遺物は、肥前系の磁器は72の碗、陶器は73の鉢、瀬戸・美濃系の陶器は74の皿と76の播鉢の他、75・77・78が出土した。

第4-6号溝跡 (第272図、第277図79～84)

L5・G9、G10、H10グリッドに位置する。

第4-5号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。第4-5号溝跡に連結する可能性が考えられる。

東側は調査区外に延び、西側は第4-5号溝跡に重複もしくは合流して途絶える。

検出した範囲内での長さは12.6m、幅は0.8m、深さは0.2～0.4mを測り、方位はN-80°Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。しかし、1m程南に位置する第4-1号掘立柱建物跡の主軸方向(N-78°W)と近似しており、位置的にみても、両者は関連性があると考えられる。

遺物は、出土していない。

第4-7号溝跡 (第272図、第277図85)

L5・G10、L6・G11グリッドに位置する。

南北に2数条の溝跡が存在するが、同一の遺構番号が付されている。調査時の所見では、同じ場所に複数条に渡って、掘り直しが行われた結果と考えられる。

第4-5・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北側は調査区外に延びている。西側は、やや鍵の手状に屈曲して第4-5号溝跡に重複もしくは合流して収束している。本溝跡は、第4-5号溝跡と一連の溝跡の可能性が考えられる。検出した範囲内での長さは8.0m、幅は0.6m、

深さは0.2mを測る。方位はN-60°EとN-25°Wである。平面形は、北側に屈曲する鍵の手状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明であるが、屋敷地に伴う区画溝の可能性が考えられる。

遺物は、出土していない。

第4-8号溝跡 (第272図)

L6・H1グリッドに位置する。

本溝跡は、第4-12号土壇と重複し西側は途切れている。第4-12号土壇との新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは3.1m、幅は0.5～0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-71°Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。家敷地を区画する溝か、根切り溝か不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-9号溝跡 (第272図)

L5・H11グリッドに位置する。

北側は第4-5号土壇と重複して終わり、南側はピットと重複して収束する。第4-5号土壇との新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは3.0m、幅は0.6m、深さは0.1mを測り、方位はN-19°Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状を呈している。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。家敷地を区画する溝か、根切り溝か不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-10号溝跡 (第272図)

L5・H10グリッドに位置する。

第4-5・7号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。両溝跡との重複により、

本溝跡の規模・形状は不明である。

検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.7m、深さは0.1mを測る。方位については不明である。

平面形は不明で、断面形は椀状に近い。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との相伴関係の有無や、新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-11号溝跡 (第272図)

L5・H10グリッドに位置する。

第4-4号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北側は途絶えている。南側については第4-4号溝跡の一部の可能性もある。検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-19°-Wを指す。

平面形は逆J字状を呈しており、断面形は皿状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との相伴関係の有無や、新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第6-1号溝跡 (第273図、第275図32~38)

L6・J5、M6・A5グリッドに位置する。

平面形や断面から、本構跡は複数条に渡り掘り直しか行われたと推定される。

第6-2号溝跡と並行に走っている。北側・南側共に調査区外に延びている。検出した範囲内での長さは10.7m、幅は2.5m、深さは0.4mを測り、方位はN-29°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状もしくは皿状である。

本溝跡は、第4-1号溝跡と共に、掘立柱建物跡や柵列跡を取り込むための区画溝の可能性が高いと推定される。

遺物は、図示したのは7点(32~38)である。他に、肥前系の陶器鉢1点、瀬戸・美濃系の陶器皿1点、丹波系と思われる播鉢1点、かわらけ1点のほか、焙烙の破片4点の小破片が出土している。

第6-2号溝跡 (第272図)

L6・J5、M6・A5、A6グリッドに位置する。

本溝跡は複数条に渡り掘り直しか行われたためと思われる。

第6-1号溝と平行し、北側・南側共に調査区外に延びている。検出した範囲内での長さは12.6m、幅は1.3~1.9m、深さは0.3mを測り、方位はN-29°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状である。

本溝跡は、第4-1号溝跡と共に、掘立柱建物跡や柵列跡を取り込むための区画溝の可能性が高いと推定される。

遺物は出土しなかった。

第6-3号溝跡 (第272・273図、275・276図)

L6・H3、H4、H5、G4、G5グリッドに位置する。

第6-3~6号溝跡は、複数条に渡り掘り返された結果と考えられる。土層断面から、第6-5号→第6-4号→第6-6号溝跡の順に掘られたことがわかる。

第6-3号溝跡については、遺存状況が悪く切り合い関係を知ることはできなかったが、先にみた第6-5・4・6号溝跡が北へ移動している(=家敷地の北への拡大)ことから、本溝跡が最も新しい可能性が考えられる。

検出した範囲内での長さは21.5m、幅は0.4m、深さは0.1m以下、方位はN-70°-Eである。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は極浅い皿状である。

第4-1号溝跡と共に、家敷地を区画するための溝であったと考えられる。

遺物は、調査時に溝跡の条数が特定できなかったため、第6-3~6号溝跡として一括で取り上げたため、各溝跡に付属する遺物の分離はできなかった。

遺物は、出土しなかった。

第6-4号溝跡 (第272・273図、第275・276図)

L 6・H 2・H 3、H 4、H 5 グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは21.0m、幅は0.8m、深さは0.2~0.8mを測り、方位はN-70°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は底面が平坦な逆台形に近い。

第6-5号溝跡 (第273図)

L 6・H 2・H 3、H 4、H 5、I 2、I 3 グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは26.0m、幅は2.2m、深さは0.4mを測り、方位はN-68°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状に近い。

第6-6号溝跡 (第273図)

L 6・H 3、H 4、H 5 グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは21.3m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位はN-70°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はU字状または逆台形に近い。

第6-7号溝跡 (第272図)

L 6・H 2、H 3 グリッドに位置する。

第6-4号溝跡との関連が考えられる。検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.9m、深さは0.4mを測り、方位はN-88°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はV字状である。

遺物は出土しなかった。

第6-8号溝跡 (第272図)

L 6・I 2、J 2 グリッドに位置する。

第4-3号溝跡との新旧関係は不明である。検出した範囲内での長さは9.5m、幅は0.3~0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-22°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第6-9号溝跡 (第272図)

L 6・H 2 グリッドに位置する。

溝と判断したが、土壌の可能性も否定できない。北側は調査区外に続く。検出した範囲内での長さは0.8m、幅は3.2m、深さは0.2mを測る。方位・平面形・断面形は不明である。

遺物は出土しなかった。

第6-10号溝跡 (第272・273図)

L 6・H 2、H 3、H 4 グリッドに位置する。

西側・東側共に途切れる。検出した範囲内での長さは14.7m、幅は0.3~0.6m、深さは0.2mを測り、方位はN-72°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はV字状である。

遺物は出土しなかった。

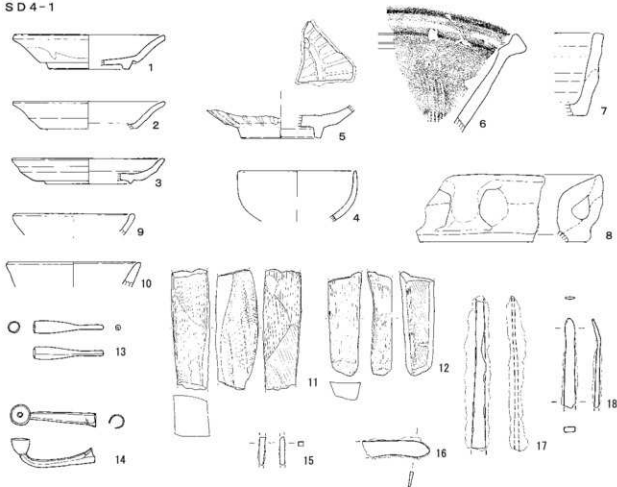
(5) ビット (第278~282図)

ビットは295基検出された。第4地点は掘立柱建物跡群の周辺と、第4-1号溝跡の北側で溝跡の沿うように密に分布し、第4-1号溝跡の南側の掘立柱建物跡群から離れると殆ど分布しなくなる。

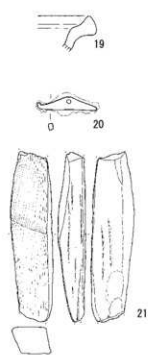
掘立柱建物跡群周辺のビットは、掘立柱建物跡の建て替え等と関連すると思われるが、配列が整わなかった。

第6地点は、散漫な分布で有機的なまとまりはみられなかった。

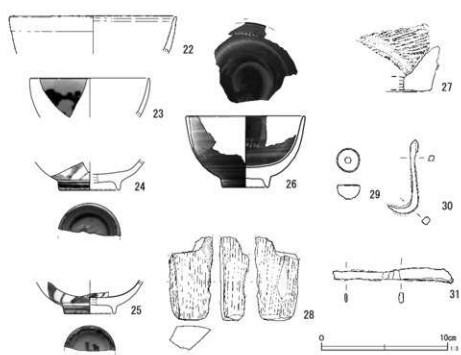
SD4-1



SD4-2

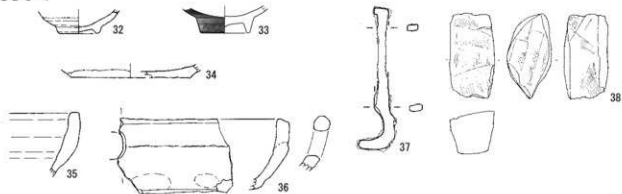


SD4-4

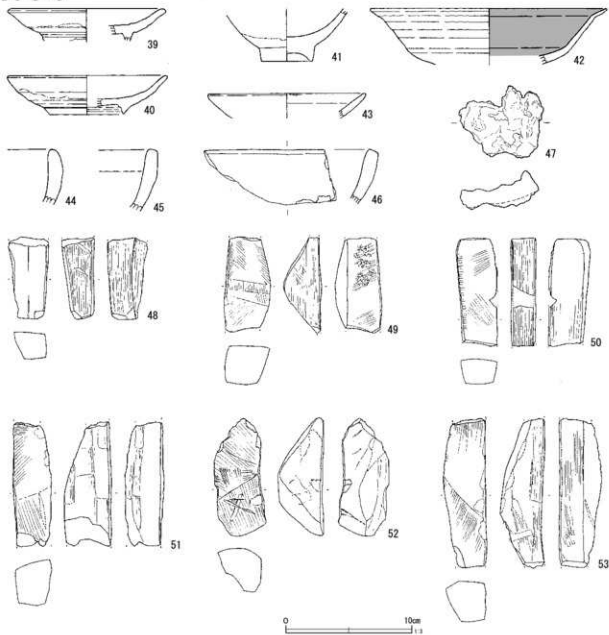


第274图 涪迹出土遺物(1)

SD6-1

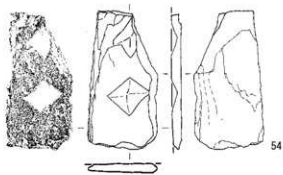


SD6-3~6

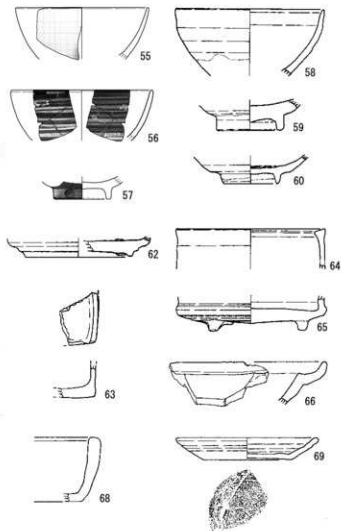


第275图 洞迹出土遺物(2)

SD6-3~6



SD6-4~6

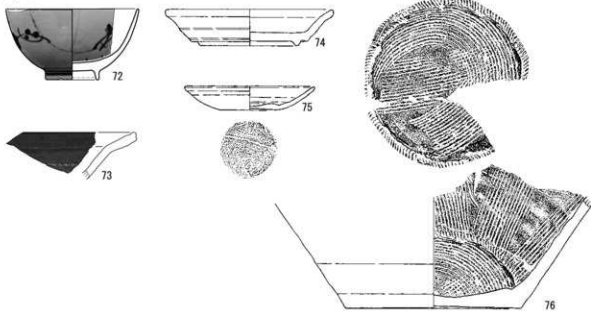


SD6-5

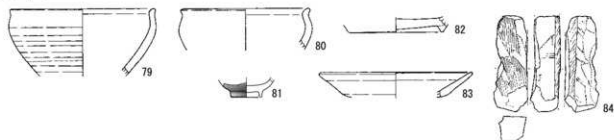


第276图 沟跡出土遺物(3)

SD 4-5



SD 4-6



SD 4-7



第277図 溝跡出土遺物(4)

第27表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺構	種類	素材	産地	焼成率 (%)	口径 (cm)	口径 (cm)	胎土	底底	底底	成形技法	成形技法	器種・器形・寸法	文様	備考
1	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	20	(11.7)	(6.4)	2.7	灰白微砂粒	普通	灰胎	細織	割り出し高台		17C
2	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.0)		(2.3)	灰青	良好	灰胎	細織			17C
3	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(12.0)	6.4	(2.6)	灰緑密	良好	灰石胎	細織	割り出し高台 取入多		高台内内縁ビシ跡 17C後半
4	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(6.2)	(3.7)	浅黄微砂粒	良好	灰胎	型打ち 細織	付け高台			裏面 足込み内縁ビシ跡 17C
5	SD4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(9.3)		(4.6)	灰オリーブ 細密	良好	透明胎	細織	貫入多		18C代
6	SD4-1	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(7.7)	陶微砂粒	良好	鉄胎	細織			節目?本/湯 割裏見おらず 内面に目録1号所残 17C代
7	SD4-1	土器	壺		5			(6.5)	黄灰	普通					
8	SD4-1	土器	壺		5			5.3	黄	普通					外面スエ付着
9	SD4-1	土器	かわらけ		5	(9.6)		(1.6)	黄微砂粒	普通		細織			微砂粒
10	SD4-1	土器	かわらけ		5	(19.3)		(2.6)	黄	普通		細織			
11	SD4-1	石製品	礎石						長さ9.6cm 幅1.0cm 厚5.3cm 重さg 凝灰岩						両面部欠損
12	SD4-1	石製品	礎石						長さ8.2cm 幅2.5cm 厚3.1cm 重さg 凝灰岩						両面部欠損
13	SD4-1	金属製品	樽口		95	A3.4cm B9.9cm C9.4cm 重さ4.4g									縁跡 口付部分一部欠損 内縁 に布芯のみの残存
14	SD4-1	金属製品	樽首		100	A6.2cm B2.2cm C1.6cm D1.3cm 重さ6.7g 銅合金									縁跡 小口一部欠損 17C後半
15	SD4-1	金属製品	釘か			A2.2cm B9.5cm C9.4cm 重さ1.1g									錆化著しい
16	SD4-1	鉄製品	刀子か			A5.3cm B1.3cm 重さ9.8g									錆化著しい
17	SD4-1	鉄製品	不明			A11.6cm B9.6cm C1.1cm 重さ25.5g									錆化著しい
18	SD4-1	鉄製品	鎌か			A7.1cm B9.8cm C9.8cm D0.4cm E9.15cm 重さ22.9g									錆化著しい
19	SD4-2	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(2.8)	灰白	良好	鉄胎				18C
20	SD4-2	鉄製品	火打金			A4.6cm B9.6cm C1.6cm 重さ5.8g									
21	SD4-2	石製品	礎石						長さ13.4cm 幅3.4cm 厚2.2cm						
22	SD4-4	陶器	碗	肥前	5	(13.2)		(3.6)	灰黄微砂粒	普通	外縁緑胎 内縁透明胎	細織			17C中～後
23	SD4-4	磁器	碗	肥前	5	(9.4)		(3.2)	灰白微密	良好	灰胎	細織	陶文か		18C前～中
24	SD4-4	磁器	碗	肥前	45	(4.8)	(2.3)	灰白微密	良好	灰胎	細織	割り出し高台	高台内一環跡 に印痕か		18C前半
25	SD4-4	磁器	碗	肥前	10	(3.9)	(2.7)	灰白微密	良好	灰胎	細織	割り出し高台	高台内底		型打ち砂粒付着 18C前～中
26	SD4-4	陶器	碗	肥前	30	(9.2)	3.6	5.7	陶灰微密	良好	灰胎 鉄胎 白化粧土				貫入多 網毛目文 肥前 17C後半
27	SD4-4	陶器	鉢鉢					(3.5)	黄 砂粒	良好					貫き跡の 節目はやや磨耗して いる
28	SD4-4	石製品	礎石						長さ6.6cm 幅1.5cm 厚3.1cm 重さg 凝灰岩						
29	SD4-4	金属製品	樽首(火取)		100	A1.8cm B1.1cm 重さ2.7g 銅合金									
30	SD4-4	鉄製品	釘付用器具			A5.8cm B2.5cm C0.4cm D0.5cm E0.8cm F9.6cm 重さ2.4g									
31	SD4-4	鉄製品	不明			A9.8cm B4.8cm C1.8cm D9.4cm E6.3cm F9.2cm 重さ2.4g									
32	SD6-1	陶器	小杯	瀬戸・美濃	20	(2.8)	(1.8)		灰白 微砂粒	良好	鉄胎	細織	割り出し高台		17C後半～18C前半
33	SD6-1	磁器	碗	肥前	20	(3.8)	(2.2)		灰白 微密	良好	灰胎	細織			高台内砂粒付着 17C後～18C 前
34	SD6-1	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5	(9.6)	(1.6)		灰白 微砂粒	良好	鉄胎	細織			17C後～18C前

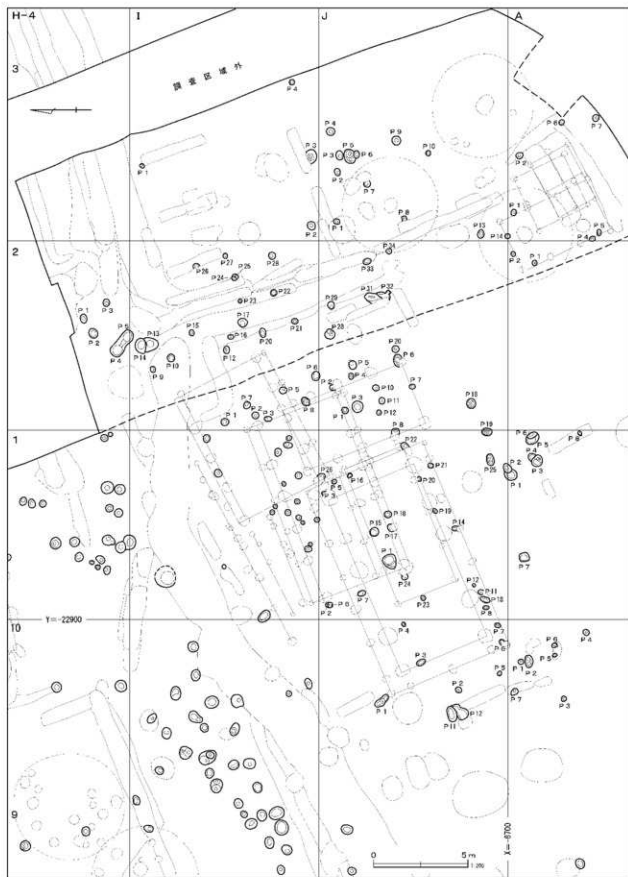
番号	造 橋	種 別	種 類	産 地	焼成率 (%)	口径 (mm)	長さ (mm)	直径 (mm)	動 土	焼成	物家試験	成型技法	試験・評価の 要 素	文 様	備 考
35	SD6-1	土器	磁器		5			(4.9)	灰	普通					外面スチ付着
36	SD6-1	土器	土鍋		16			(3.4)	灰黄	普通					
37	SD6-1	鉄製品	平明			A10.2m	B19.9cm	C9.4cm	D2.8cm	E0.6cm	F1.6cm	重さ	29.6g		
38	SD6-1	石	磁石			長さ6.94cm	幅3.34cm	厚さ3.43cm	重さ95.5g						
39	SD6-3-6	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(11.4)		(2.4)	灰黄 磁砂粒	良好	灰物	縦織	割り出し高台		買入 見込高台 二次的焼熟 17C後半～18C前半
40	SD6-3-6	陶器	皿	瀬戸・美濃	30	(12.0)	(6.0)	(3.0)	灰 磁砂	良好	灰物	縦織	縦織 出願 割り出し高台		買入多 見込高台 18C前 ～中葉
41	SD6-3-6	陶器	碗	肥前	40	(3.9)	(4.0)	灰白 磁砂	良好	緑緑物	縦織	縦織 割り出し高台			高台に焼付着 17C後半
42	SD6-3-6	陶器	皿	肥前	10	(16.8)		(4.3)	灰	灰白	内緑緑物 外透明物	縦織	縦織 目録書		17C後半～18C前半
43	SD6-3-6	土器	かわらけ		10	(11.8)		(1.9)	灰	普通		縦織			
44	SD6-3-6	土器	磁器		5			(4.1)	灰白						
45	SD6-3-6	土器	磁器		5			(4.6)	灰白						
46	SD6-3-6	土器	磁器		5			(4.1)	灰白	普通					
47	SD6-3-6		鉄押			A6.4	B3.3	C1.6	重さ71.4g						
48	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ5.86cm	幅3.62cm	厚さ2.49cm	重さ47.2g						
49	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ7.28cm	幅3.43cm	厚さ2.89cm	重さ79.2g						
50	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ8.89cm	幅2.89cm	厚さ1.89cm	重さ71.1g						
51	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ9.23cm	幅2.78cm	厚さ3.71cm	重さ117.9g						
52	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ8.93cm	幅3.33cm	厚さ3.28cm	重さ97.7g						
53	SD6-3-6	石製品	磁石			長さ11.16cm	幅3.18cm	厚さ3.49cm	重さ124.6g						
54	SD6-3-6	石製品	磁石			縦10.9cm	横3.4cm	厚さ0.7MAX1.1cm	緑紙片着						
55	SD6-4-6	磁器	碗	肥前	10	(16.4)		(4.0)	灰白 磁砂	良好	灰物	縦織			草花文 17C後半～18C前半
56	SD6-4-6	陶器	碗	肥前	5	(11.2)		(4.1)	灰黄	良好	灰物 白化粧土	縦織			縦石目 買入多 17C後半中
57	SD6-4-6	磁器	碗	肥前	20	(4.0)	(3.8)	灰白 磁砂	良好	灰物	縦織	割り出し高台 二次的焼熟			17C後半～18C前半
58	SD6-4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	15	(11.4)		(3.3)	灰黄	良好	灰物	縦織			天目碗 17C後半～18C前半
59	SD6-4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	70		5.2	(2.4)	灰黄	良好	灰物	縦織			17C後半～18C前半
60	SD6-4-6	陶器	碗	肥前	25	(4.2)	(2.3)	灰	良好	灰物 白化粧土	縦織	割り出し高台 乾の目録付			縦石目 17C後半～18C前半
61	SD6-4-6	陶器	鉢	肥前	15	(16.5)	(5.3)	明赤周 磁砂	良好	灰物 白化粧土	縦織	割り出し高台			縦石目 目録付 磨付 草花 縦織 17C後半～18C前半
62	SD6-4-6	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(8.4)	(3.6)	灰黄	普通	長石物	縦織	割り出し高台			買入多 見込・高台内門脚ピン 付着 目録付
63	SD6-4-6	陶器	内付	瀬戸・美濃	10		(2.4)	灰黄	普通	緑緑物	型付				青磁器内付 買入多 17C前半
64	SD6-4-6	陶器	香炉	瀬戸・美濃	10	(11.7)		(3.2)	灰黄 磁砂	良好	灰物	縦織			買入多 17C後半～18C前半
65	SD6-4-6	陶器	香炉	瀬戸・美濃	40	(11.8)	(2.9)	灰黄 磁砂	良好	灰物	縦織				買入多 三足 付け高台 見 込内脚ピン 磨付 18C前 ～中
66	SD6-4-6	陶器	漆鉢	瀬戸・美濃	10		(3.4)	灰黄	普通	緑物	縦織				漆鉢 18C前～中
67	SD6-4-6	土器	磁器		5			(3.2)	灰黄	普通					
68	SD6-4-6	土器	磁器		10			(5.0)	灰黄	普通					
69	SD6-4-6	土器	かわらけ		30	(11.0)	(6.8)	(3.8)	にじり黄砂	良好	灰物	縦織			
70	SD4-3	土器	磁器		5			(2.9)	灰白	普通					

第4・6地点

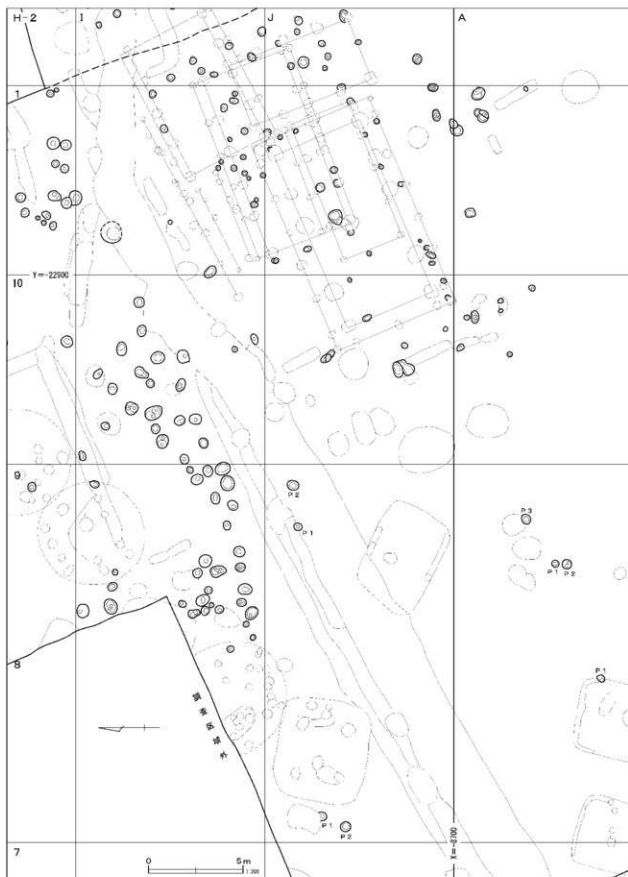
番号	道 橋	種 別	部 種	庫 地	残存率 (%)	口径 (cm)	直径 (cm)	掘高 (cm)	胎 土	構成	胎土成分	成型技法	器種・器形の 名	文 様	備 考
71	SD4-5	鉄製品	平刷			A2.8	B1.4	C9.7	D0.3	重炭2.6g					
72	SD4-5	磁器	碗	肥前	56	(10.5)	4.1	5.7	灰白磁	良好	灰胎	細織	限り出し高台	高台内一重織	見込純の目輪部付・高台部 付砂付付着 12C後半
73	SD4-5	陶器	鉢	肥前	16			(3.8)	赤灰陶砂粒	良好	透明胎	細織	白化粧土なし		三島手 12C末～18C前半
74	SD4-5	陶器	皿	瀬戸・美濃	36	(13.1)	(7.7)	2.8	灰白陶砂粒	良好	灰胎	細織	限り出し高台		見込内円部付・鉢2ヶ所 高台内円部付・鉢1ヶ所 18C後半
75	SD4-5	土器	かわらけ		30	(10.1)	4.6	1.9	にじみ骨	普通		細織	目録未切り離し		
76	SD4-5	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	60	(13.8)	(8.8)	にじみ骨	良好	灰胎	細織	目録未切り離し			即 目158/奉 左利剣で黒文 見込みと周部物が一旦剥離 (使用痕あり) 内面目録付
77	SD4-5	土器	磁埴		5	(35.0)		(5.0)	灰白陶砂粒	普通					外裏部付着
78	SD4-5	土器	磁埴		10	(29.6)		(5.4)	灰胎	普通					内円部2ヶ所 外裏部付着
79	SD4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(11.3)		(5.3)	灰胎	良好	灰胎	細織			天目織 二次的焼成 18C末
80	SD4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(9.8)		(3.3)	灰白陶砂粒	普通	灰胎	細織			天目織 18C初
81	SD4-6	磁器	小鉢	肥前	5		2.4	(1.6)	灰白磁	良好	灰胎	細織	限り出し高台	高台部一重織	高台内砂付付着 18代付
82	SD4-6	陶器	皿	瀬戸・美濃	25	(7.6)	(1.2)	泥い骨	普通	灰胎	細織	付け高台			18C代
83	SD4-6	土器	かわらけ		15	(12.0)		(2.0)	骨	普通		細織			
84	SD4-6	石製品	磁石			長さ7.5cm	幅2.5cm	厚さ2.6cm	重さ198.6g	磁灰胎					
85	SD4-7	陶器	皿	瀬戸・美濃		(6.0)	(1.5)		灰白陶砂粒	良好	灰胎	細織	限り出し高台		見込み高台付・鉢 18C

第28表 ビット計測表

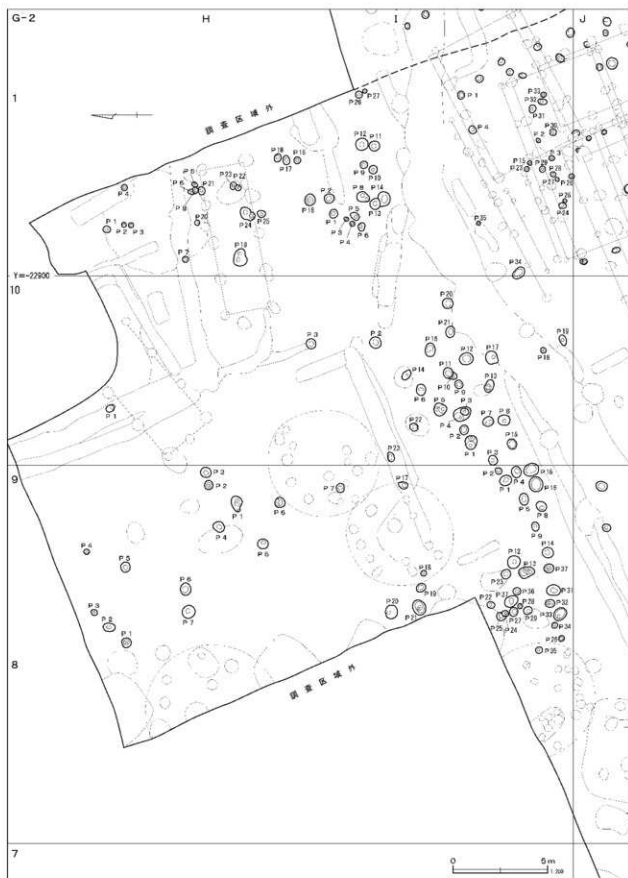
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L5・J8	1	0.38	—	0.20	4	L5・I9	9	0.42	0.42	0.38
4	L5・J8	2	0.58	0.58	0.40	4	L5・I9	12	0.70	0.62	0.70
4	M5・A8	1	0.42	0.40	0.67	4	L5・I9	13	0.50	0.74	0.53
4	L5・G9	1	0.46	0.46	0.76	4	L5・I9	14	0.60	0.52	0.53
4	L5・G9	2	0.60	0.46	0.22	4	L5・I9	15	0.66	0.78	0.22
4	L5・G9	3	0.32	0.26	0.33	4	L5・I9	16	0.70	0.66	0.17
4	L5・G9	4	0.28	0.28	0.25	4	L5・I9	17	0.42	0.32	0.29
4	L5・G9	5	0.54	0.50	0.19	4	L5・I9	18	0.24	0.24	0.14
4	L5・G9	6	0.68	0.64	0.18	4	L5・I9	19	0.46	0.38	0.17
4	L5・G9	7	0.68	0.72	0.53	4	L5・I9	20	0.64	0.58	0.36
4	L5・H9	1	0.88	0.52	0.38	4	L5・I9	21	0.78	0.62	0.68
4	L5・H9	2	0.48	0.48	0.64	4	L5・I9	22	0.38	0.36	0.46
4	L5・H9	3	0.56	0.54	0.32	4	L5・I9	23	0.50	0.28	0.26
4	L5・H9	4	0.46	0.52	0.29	4	L5・I9	24	0.36	0.32	0.37
4	L5・H9	5	0.52	0.48	0.41	4	L5・I9	25	0.46	—	0.17
4	L5・H9	6	0.46	0.52	0.41	4	L5・I9	26	0.34	0.36	0.15
4	L5・H9	7	0.40	0.44	0.20	4	L5・I9	27	0.42	0.40	0.23
4	L5・I9	1	0.60	0.46	0.36	4	L5・I9	28	0.30	0.30	0.20
4	L5・I9	2	0.30	0.32	0.52	4	L5・I9	29	0.44	0.42	0.37
4	L5・I9	3	0.46	0.46	0.39	4	L5・I9	30	0.70	0.58	0.60
4	L5・I9	4	0.62	0.60	0.96	4	L5・I9	31	0.66	0.56	0.41
4	L5・I9	5	0.46	0.56	0.39	4	L5・I9	32	0.44	0.42	0.38
4	L5・I9	8	0.52	0.56	0.65	4	L5・I9	33	0.68	0.58	0.45



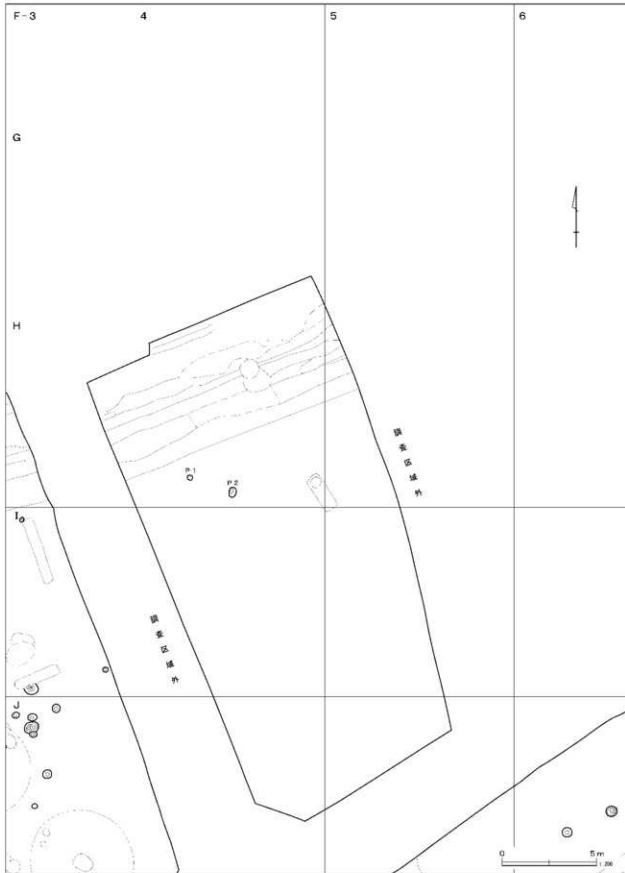
第278図 ピット(1)



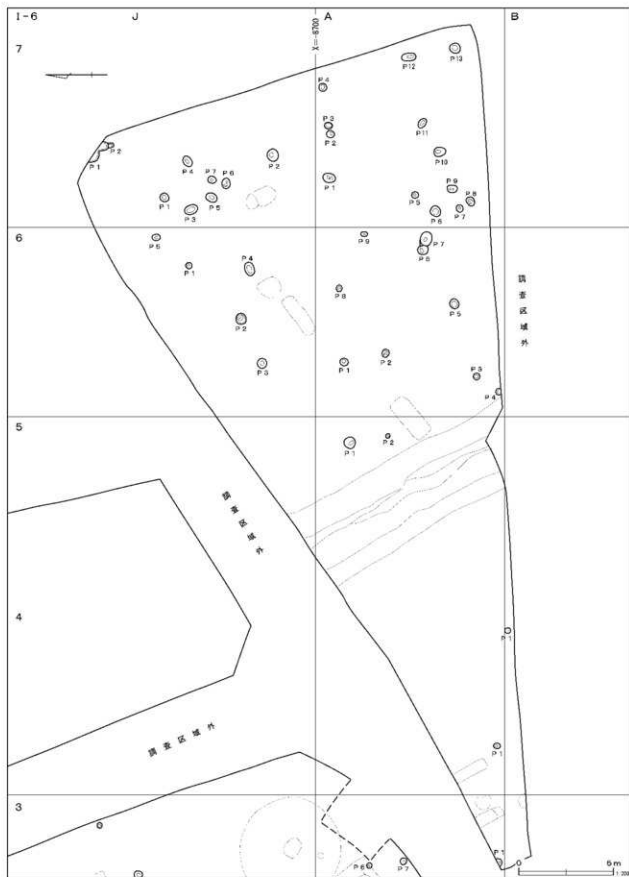
第279図 ピット(2)



第280図 ピット(3)



第281図 ビット(4)



第282図 ビット (5)

第4・6地点

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L5・I9	34	0.28	0.28	0.14
4	L5・I9	35	0.38	0.34	0.25
4	L5・I9	36	0.40	0.40	0.48
4	L5・I9	37	0.52	0.44	0.32
4	L5・J9	1	0.44	0.48	0.30
4	L5・J9	2	0.60	0.54	0.40
4	M5・A9	1	0.46	0.42	0.13
4	M5・A9	2	0.54	0.52	0.46
4	M5・A9	3	0.56	0.48	0.23
4	L5・G10	1	0.36	0.30	0.45
4	L5・H10	2	0.68	0.62	0.29
4	L5・H10	3	0.50	0.24	0.15
4	L5・I10	1	0.70	0.76	0.55
4	L5・I10	2	0.52	0.46	0.07
4	L5・I10	3	0.46	0.38	0.08
4	L5・I10	4	0.56	0.46	0.22
4	L5・I10	5	0.72	0.72	0.23
4	L5・I10	6	0.58	0.52	0.60
4	L5・I10	7	0.54	0.46	0.38
4	L5・I10	8	0.66	0.54	0.48
4	L5・I10	9	0.46	0.44	0.17
4	L5・I10	10	0.38	—	0.11
4	L5・I10	11	0.54	0.54	0.20
4	L5・I10	12	0.68	0.64	0.15
4	L5・I10	13	0.58	0.34	0.43
4	L5・I10	14	0.58	0.38	0.10
4	L5・I10	15	0.50	0.50	0.22
4	L5・I10	16	0.60	0.50	0.44
4	L5・I10	17	0.64	0.64	0.19
4	L5・I10	18	0.28	0.22	0.06
4	L5・I10	19	0.54	0.36	0.25
4	L5・I10	20	0.52	0.48	0.21
4	L5・I10	21	0.54	0.44	0.21
4	L5・I10	22	0.44	0.40	0.13
4	L5・I10	23	0.44	0.26	0.25
4	L5・J10	1	0.90	0.40	0.19
4	L5・J10	2	0.34	0.28	0.18
4	L5・J10	3	0.38	0.32	0.34
4	L5・J10	4	0.26	0.22	0.36
4	L5・J10	5	0.24	0.24	0.11
4	L5・J10	6	0.36	—	0.20
4	L5・J10	7	0.30	0.24	0.31
4	L5・J10	11	0.76	0.48	0.36
4	L5・J10	12	0.58	—	0.26
4	M5・A10	1	0.28	0.26	0.16
4	M5・A10	2	0.48	0.38	0.35

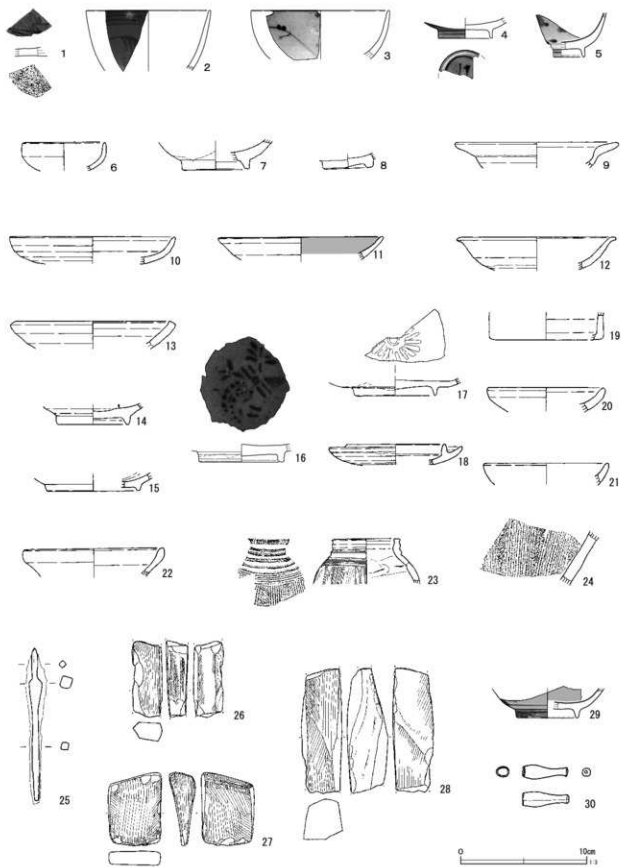
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	M5・A10	3	0.28	0.28	0.12
4	M5・A10	4	0.32	0.30	0.50
4	M5・A10	5	0.20	0.20	0.19
4	M5・A10	6	0.30	0.24	0.06
4	M5・A10	7	0.40	0.26	0.31
4	L6・G1	1	0.30	0.26	0.30
4	L6・G1	2	0.24	0.24	0.12
4	L6・G1	3	0.28	0.24	0.36
4	L6・G1	4	0.28	0.24	0.20
4	L6・G1	5	0.34	0.28	0.41
4	L6・G1	6	0.32	0.24	0.11
4	L6・G1	7	0.34	0.32	0.41
4	L6・G1	8	0.26	0.26	0.18
4	L6・H1	1	0.44	0.44	0.47
4	L6・H1	2	0.54	0.48	0.54
4	L6・H1	3	0.26	0.24	0.25
4	L6・H1	4	0.28	0.28	0.36
4	L6・H1	5	0.50	0.34	0.93
4	L6・H1	6	0.40	0.38	0.88
4	L6・H1	7	0.48	0.32	0.04
4	L6・H1	8	0.54	0.44	0.02
4	L6・H1	9	0.42	0.42	0.35
4	L6・H1	10	0.48	0.40	0.84
4	L6・H1	11	0.56	0.54	0.45
4	L6・H1	12	0.60	0.50	0.29
4	L6・H1	13	0.56	0.54	0.74
4	L6・H1	14	0.62	0.50	0.76
4	L6・H1	15	0.34	0.32	0.59
4	L6・H1	16	0.58	0.56	0.27
4	L6・H1	17	0.40	0.40	0.83
4	L6・H1	18	0.42	0.38	0.29
4	L6・H1	19	0.94	0.70	—
4	L6・H1	20	0.30	0.28	0.45
4	L6・H1	21	0.38	0.32	0.32
4	L6・H1	22	0.34	0.30	0.41
4	L6・H1	23	0.42	—	0.55
4	L6・H1	24	0.80	0.44	0.69
4	L6・H1	25	0.38	0.34	0.35
4	L6・H1	26	0.38	0.34	0.08
4	L6・H1	27	0.16	0.16	0.04
4	L6・I1	1	0.32	0.32	0.26
4	L6・I1	2	0.20	0.20	0.09
4	L6・I1	3	0.24	0.22	0.27
4	L6・I1	4	0.42	0.40	0.41
4	L6・I1	15	0.18	0.16	0.15
4	L6・I1	23	0.18	0.24	0.14

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L6・I1	24	0.26	0.36	0.36	6	L6・H2	5	0.68	0.60	0.30
4	L6・I1	25	0.24	0.20	0.14	4	L6・I2	1	0.44	0.42	0.08
4	L6・I1	26	0.24	0.20	0.16	4	L6・I2	2	0.36	0.34	0.42
4	L6・I1	27	0.26	0.24	0.33	4	L6・I2	3	0.34	0.28	0.34
4	L6・I1	28	0.32	0.30	0.42	4	L6・I2	5	0.34	0.32	0.62
4	L6・I1	29	0.28	0.32	0.17	4	L6・I2	6	0.46	0.40	0.60
4	L6・I1	30	0.36	0.38	0.59	4	L6・I2	7	0.36	0.34	0.46
4	L6・I1	31	0.36	0.32	0.45	4	L6・I2	8	0.38	0.32	0.58
4	L6・I1	32	0.44	0.36	0.43	6	L6・I2	9	0.30	0.26	0.37
4	L6・I1	33	0.24	0.24	0.09	6	L6・I2	10	0.36	0.34	0.15
4	L6・I1	34	0.70	0.42	0.23	6	L6・I2	12	0.38	0.28	0.18
4	L6・I1	35	0.22	0.22	0.07	6	L6・I2	13	0.80	0.78	0.20
4	L6・J1	1	0.80	0.58	0.16	6	L6・I2	14	0.64	—	0.09
4	L6・J1	2	0.24	—	0.09	6	L6・I2	16	0.22	0.26	0.30
4	L6・J1	3	0.30	—	0.50	6	L6・I2	17	0.48	0.50	0.66
4	L6・J1	4	0.38	—	0.23	6	L6・I2	20	0.46	0.32	0.46
4	L6・J1	5	0.26	0.26	0.18	6	L6・I2	21	0.30	0.28	0.47
4	L6・J1	6	0.32	0.28	0.51	6	L6・I2	22	0.40	0.34	0.32
4	L6・J1	7	0.42	0.30	0.48	6	L6・I2	23	0.24	0.22	0.14
4	L6・J1	8	0.32	0.18	—	6	L6・I2	24	0.26	0.18	0.22
4	L6・J1	11	0.26	—	0.18	6	L6・I2	25	0.22	—	0.40
4	L6・J1	12	0.18	0.18	0.27	6	L6・I2	26	0.26	—	0.26
4	L6・J1	14	0.30	0.22	0.38	6	L6・I2	27	0.30	0.28	0.38
4	L6・J1	15	0.42	0.48	0.73	6	L6・I2	28	0.30	0.28	0.33
4	L6・J1	16	0.22	0.22	0.21	4	L6・J2	1	0.32	0.32	0.23
4	L6・J1	17	0.40	—	0.30	4	L6・J2	2	0.34	—	0.56
4	L6・J1	18	0.38	0.36	0.06	4	L6・J2	3	0.58	0.60	0.20
4	L6・J1	19	0.22	0.24	0.15	4	L6・J2	4	0.22	0.28	0.33
4	L6・J1	20	0.24	—	0.13	4	L6・J2	5	0.40	0.40	0.67
4	L6・J1	21	0.34	0.36	0.39	4	L6・J2	6	0.48	—	0.74
4	L6・J1	22	0.28	—	0.33	4	L6・J2	7	0.24	0.20	0.16
4	L6・J1	23	0.24	0.24	0.38	4	L6・J2	8	0.42	—	0.63
4	L6・J1	24	0.30	—	0.31	4	L6・J2	10	0.30	0.28	0.32
4	L6・J1	25	0.60	0.34	0.52	4	L6・J2	11	0.30	0.24	0.31
4	M6・A1	1	0.64	—	0.15	4	L6・J2	12	0.38	0.26	0.36
4	M6・A1	2	0.56	0.38	0.50	4	L6・J2	18	0.50	0.48	0.40
4	M6・A1	3	0.64	0.46	0.32	4	L6・J2	19	0.50	0.40	0.53
4	M6・A1	4	0.40	—	0.20	4	L6・J2	20	0.36	0.38	0.22
4	M6・A1	5	0.62	0.44	0.28	6	L6・J2	28	0.46	0.48	0.33
4	M6・A1	6	0.40	0.22	0.14	6	L6・J2	29	0.32	0.30	0.60
4	M6・A1	7	0.44	0.42	0.10	6	L6・J2	31	0.84	0.40	0.20
4	M6・A1	8	0.26	0.20	0.25	6	L6・J2	32	0.66	—	0.22
6	L6・H2	1	0.48	0.38	0.25	6	L6・J2	33	0.40	0.32	0.17
6	L6・H2	2	0.42	0.40	0.14	6	L6・J2	34	0.30	0.26	0.17
6	L6・H2	3	0.38	0.40	0.36	4	M6・A2	1	0.28	0.26	0.22
6	L6・H2	4	0.64	0.64	0.22	4	M6・A2	2	0.30	0.26	0.16

第4・6地点

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
6	L6・I3	1	0.24	0.22	0.23
6	L6・I3	2	0.46	0.40	0.23
6	L6・I3	3	0.70	0.42	0.64
6	L6・I3	4	0.30	0.28	0.08
6	L6・J3	1	0.30	0.32	0.34
6	L6・J3	2	0.40	0.30	0.60
6	L6・J3	3	0.40	0.30	0.32
6	L6・J3	4	0.42	0.42	0.41
6	L6・J3	5	0.76	0.56	0.73
6	L6・J3	6	0.42	0.34	0.59
6	L6・J3	7	0.42	—	0.43
6	L6・J3	8	0.26	—	0.16
6	L6・J3	9	0.46	0.44	0.30
6	L6・J3	10	0.32	0.30	0.54
6	L6・J3	13	0.38	0.30	0.30
6	L6・J3	14	0.28	0.28	0.72
6	M6・A3	1	0.28	0.26	0.20
6	M6・A3	2	0.32	0.28	0.23
6	M6・A3	4	0.26	0.24	0.16
6	M6・A3	5	0.30	0.28	0.38
6	M6・A3	6	0.31	0.24	0.28
6	M6・A3	7	0.37	0.35	0.17
6	M6・A3	8	0.50	0.32	0.45
6	L6・H4	1	0.28	0.28	0.34
6	L6・H4	2	0.58	0.50	0.22
6	M6・A4	1	0.38	0.30	0.38
6	M6・B4	1	0.35	0.35	0.31
6	M6・A5	1	0.64	0.50	0.28
6	M6・A5	2	0.25	0.20	0.26
6	L6・J6	1	0.30	0.28	0.19
6	L6・J6	2	0.56	0.53	0.24
6	L6・J6	3	0.60	0.50	0.15
6	L6・J6	4	0.65	0.48	0.19

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
6	L6・J6	5	0.54	0.36	0.24
6	M6・A6	1	0.50	0.46	0.33
6	M6・A6	2	0.40	0.30	0.39
6	M6・A6	3	0.32	0.30	0.13
6	M6・A6	4	0.33	0.27	0.17
6	M6・A6	5	0.58	0.45	0.17
6	M6・A6	6	0.64	0.50	0.25
6	M6・A6	7	0.72	0.60	0.37
6	M6・A6	8	0.38	0.33	0.11
6	M6・A6	9	0.35	0.30	0.15
6	L6・I7	1	0.70	—	0.08
6	L6・I7	2	—	0.50	0.09
6	L6・J7	1	0.47	0.43	0.21
6	L6・J7	2	0.66	0.60	0.33
6	L6・J7	3	0.73	0.43	0.11
6	L6・J7	4	0.60	0.42	0.08
6	L6・J7	5	0.69	0.52	0.12
6	L6・J7	6	0.43	0.40	0.19
6	L6・J7	7	0.56	0.43	0.26
6	M6・A7	1	0.64	0.46	0.31
6	M6・A7	2	0.36	0.30	0.24
6	M6・A7	3	0.40	0.34	0.10
6	M6・A7	4	0.45	0.44	0.13
6	M6・A7	5	0.42	0.30	0.19
6	M6・A7	6	0.60	0.60	0.30
6	M6・A7	7	0.40	0.32	0.15
6	M6・A7	8	0.46	0.37	0.17
6	M6・A7	9	0.68	0.45	0.29
6	M6・A7	10	0.58	0.42	0.15
6	M6・A7	11	0.60	0.42	0.37
6	M6・A7	12	0.73	0.38	0.38
6	M6・A7	13	0.56	0.54	0.38



第283図 グリッド出土遺物

第29表 グリッド出土遺物観察表

番号	類別	種類	産地	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	構成	胎薬成分	成型技法	器種・器形・寸法	文様	備考
1	陶器	甕	肥前	5			(9.6)	浅黄	良好	灰物	輪織		見込み陶器に 本文・高台内	押印「木下物」 17C後半 京焼風
2	磁器	甕	肥前	5	(5.0)		(4.8)	灰白	良好	灰物	輪織		絵草文か	18C前～中
3	磁器	甕	肥前	20	(10.9)		(3.5)	灰白	良好	灰物	輪織		草文	18C中
4	磁器	甕	肥前	5		(4.2)	(3.6)	灰白	良好		輪織		界花文・高台 内刻印「木 下製」	17C後～18C前か
5	陶器	甕	肥前	5			(2.6)	灰白	良好	透明物	輪織			18C前～中
6	陶器	甕	瀬戸・美濃	5	(6.4)		(2.3)	灰白	良好	透明物	輪織	貫入多		18C代
7	陶器	甕	瀬戸・美濃	5		(5.0)	(2.3)	灰白	良好	鉄物	輪織		刷り出し高台	天目焼 18C
8	陶器	甕	瀬戸・美濃	5		2.8	(1.1)	灰白	良好	鉄物	輪織		刷り出し高台	天目焼 18C
9	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.8)		(2.0)	灰白	普通	長石物	輪織	貫入多		志野 17C初
10	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(13.0)		(2.2)	灰白 胎面乾	良好	灰	輪織			17C後～18C前
11	陶器	皿	肥前	5	(13.0)		(1.9)	灰グリーン	良好	透明・ 鉄物	輪織			17C後～18C前
12	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.4)		(2.6)	灰黄	良好	鉄物	輪織			18C代か
13	陶器	皿か	瀬戸・美濃	5	(12.2)		(2.1)	灰白	良好	灰物	輪織			18C代
14	陶器	皿か	瀬戸・美濃	50		(5.6)	(1.6)	灰・灰・黄	良好	灰物	輪織	貫入多・見込 み乾・目輪刻 字・輪ノ平煎	刷り出し高台	18C後半
15	陶器	皿	瀬戸・美濃	5		(7.2)	(1.4)	灰白	普通	長石物	輪織		刷り出し高台	志野 菊池 17C初
16	陶器	皿	瀬戸・美濃	25	(6.5)		(1.5)	灰	良好	灰物	輪織	貫入多・黄砂 粒・目付高台	見込み隠絵	貫絵皿 17C後半～18C前半
17	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(6.4)		(1.4)	灰黄	良好	灰物	輪織	貫入多・目付 高台	見込み隠絵	貫絵皿 18C中～後
18	陶器	灯明受皿	瀬戸・美濃	15			(1.6)	灰黄	良好	鉄物	輪織		油溝切立状	18C後半
19	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5		(8.9)	(2.2)	灰黄	良好	鉄物	輪織			18C中
20	土器	おわらけ		20	(9.0)		(1.9)	灰・灰・黄	普通		輪織			
21	土器	おわらけ		5	(9.8)		(1.7)	黄	普通		輪織			
22	土器	おわらけ			(10.8)		(2.3)	黄橙	普通		輪織		外面へう跡多 後彫面多	
23	陶器	甕	丹波か	20	(5.4)		(3.6)	黄	良好		輪織			18C中～後半
24	陶器	甕鉢	丹波か	5			(4.1)	黄	良好		輪織		施繪小・目付 18C末	18C代か
25	鉄	鉢					A12.9 B1.9 C0.5 重さ25.1g							
26	磁石	磁石					長さ6.1cm 幅2.6cm 厚0.1cm 重さ g							
27	磁石	磁石					長さ5.7cm 幅4.3cm 厚0.1cm 重さ g							
28	磁石	磁石					長さ9.7cm 幅3.2cm 厚0.2cm 重さ g							
29	磁器	甕			(5.0)	(2.5)	灰白	良好	良好	灰物	輪織	高台輪一断面 部 二断面 部	ゴス絵草文	18C前～中
30	金属製	煙管		100	A3.6cm B0.8cm C0.6cm									緑錆

報告書抄録

ふりがな	おおきどいせき							
書名	大木戸遺跡I							
副書名	大宮西部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第355集							
編著者名	西井幸雄 鈴木孝之							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台西丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2008(平成20)年12月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
おおきどいせき 大木戸遺跡	さいたいびん 埼玉県さいたま市南区指扇 3747番地3他	11100	425	35°55'30"	139°34'46"	20000901～ 20010323 20010801～ 20020322 20041018～ 20050210 20050926～ 20051130	31,724	区画整理
所収遺跡	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大木戸遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 近世	石器集中 住居跡 掘立柱建物跡 土壇 集石土壇 穴 住居跡 掘立柱建物跡 柵列 土壇 井戸 溝跡 ピット	7箇所 25軒 1棟 137基 12基 11基 11軒 28棟 11列 394基 7基 134条 多数	旧石器 縄文土器 石器 弥生土器 陶磁器類 石製品	大宮台地では出土例の少ない、後期旧石器前半の石器集中が検出された。 縄文中期末葉から後期初頭の柄杓形住居跡が多数検出された。1軒は平坦な礫が敷かれており、台地部では珍しい敷石住居跡である。 近世は江戸時代初期から続く、堀を有する屋敷跡が検出された。		
要約								
<p>大木戸遺跡は大宮台地の西縁、滝沼川左岸の台地上に立地している。大木戸遺跡の調査は、一般国道16号バイパスの建設に伴いさいたま市(当時大宮市)が発掘調査を実施し、西大宮バイパス№6遺跡として報告書が刊行されている。その後、大宮西部特定土地区画整理事業に伴い、当事業団が平成12年度から継続的に発掘調査を実施してきた。本書は、第2～5次調査の報告である。</p> <p>大木戸遺跡は、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。</p> <p>旧石器時代は大宮台地で発見例が少ない古段階の石器群が出土した。近接する清河寺前原遺跡からも古段階の石器集中が検出されており、大宮台地で最初に人が住み始めた地域の一つである。</p> <p>縄文時代は、中期末葉から後期初頭と後期の集落跡が調査された。広範に住居跡が検出され、柄杓形住居跡が多く見つかった。1軒は台地部では珍しい敷石住居跡である。住居跡の床面に大きく扁平な片岩が敷いてあった。石材は荒川上流域から運ばれたと思われる。荒川とその支流の滝沼川を利用して広域での物の交流があったことが窺える。</p> <p>弥生時代は調査区の北西部から、後期の住居跡が1軒まとまって検出された。大木戸遺跡全域には広がっておらず、小さな集落であったと思われる。遺構の遺存状況は、耕作等の削平によって良好ではなかったが、第4～2号住居跡から一括廃棄されたと思われる土器群が出土している。</p> <p>近世は、江戸時代の掘立柱建物跡群が3箇所見つかった。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第355集

大木戸遺跡 I

大宮西部特定土地地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

平成20年12月22日 印刷

平成20年12月26日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1
電話 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社